

System Center Configuration Manager および System Center Virtual Machine Manager 用 OpenManage Integration for Microsoft System Center バージョン 7.2 ユーザーズガイド

メモ、注意、警告

 **メモ:** 製品を使いやすくするための重要な情報を説明しています。

 **注意:** ハードウェアの損傷やデータの損失の可能性を示し、その危険を回避するための方法を説明しています。

 **警告:** 物的損害、けが、または死亡の原因となる可能性があることを示しています。

© 2009 ~ 2019 Dell Inc. またはその関連会社。。Dell、EMC、およびその他の商標は、Dell Inc. またはその子会社の商標です。その他の商標は、それぞれの所有者の商標である場合があります。

1 OMIMSSC の概要.....	7
新機能.....	7
2 OMIMSSC の使用例.....	8
導入シナリオの使用例.....	8
SCCM 用の OMIMSSC コンソール拡張機能を使用した Windows OS の導入.....	9
SCVMM 用の OMIMSSC コンソール拡張機能を使用したハイパーバイザーの導入.....	10
OMIMSSC を使用した Windows OS の再展開.....	10
OMIMSSC コンソール拡張機能を使用した Windows 以外の OS の導入.....	11
事前定義された Storage Spaces Direct を使用した Operational Template (運用テンプレート) クラスタの作成.....	11
デバイスのメンテナンスの使用例.....	11
サーバおよび MX7000 デバイスのファームウェアのアップデート.....	12
交換したコンポーネントの設定.....	13
サーバプロファイルのエクスポートとインポート.....	13
3 OMIMSSC のビュー.....	14
サーバビューの起動.....	14
モジュラーシステムビューの起動.....	15
OpenManage Enterprise Modular コンソールの起動.....	15
入力 / 出力モジュール.....	15
クラスタビューの起動.....	16
iDRAC コンソールの起動.....	16
メンテナンスセンターの起動.....	16
ジョブとログセンターの起動.....	17
4 プロファイルの管理.....	19
資格情報プロファイルについて.....	19
資格情報プロファイルの作成.....	19
資格情報プロファイルの変更.....	20
資格情報プロファイルの削除.....	20
ハイパーバイザープロファイルについて (SCVMM ユーザー用)	20
ハイパーバイザープロファイルの作成.....	20
ハイパーバイザープロファイルの変更.....	21
ハイパーバイザープロファイルの削除.....	21
5 デバイスの検出および MSSC コンソールとサーバの同期.....	22
参照サーバの構成について.....	22
参照モジュラーシステムの構成について.....	22
OMIMSSC でのデバイスの検出.....	22
SCCM 用の OMIMSSC コンソール拡張機能でのデバイス検出.....	23
SCVMM 用の OMIMSSC コンソール拡張機能でのデバイス検出.....	23
管理対象システムのシステム要件.....	23
自動検出を使用したサーバの検出.....	23

手動検出を使用したサーバの検出.....	23
手動検出を使用した MX7000 の検出.....	24
OMIMSSC コンソール拡張機能と登録された SCCM との同期.....	25
OMIMSSC コンソール拡張機能と登録された SCVMM との同期.....	25
登録された Microsoft コンソールとの同期.....	25
同期エラーの解決.....	26
システムロックダウンモードの表示.....	26
OMIMSSC からのサーバの削除.....	26
OMIMSSC からのモジュラーシステムの削除.....	26
6 オペレーティングシステムの導入の準備.....	27
WinPE イメージについて.....	27
SCCM 用の WIM ファイルの提供.....	27
SCVMM 用の WIM ファイルの提供.....	27
DTK ドライバの解凍.....	27
WinPE イメージのアップデート.....	28
SCCM コンソールでのオペレーティングシステム導入の準備.....	28
タスクシーケンス - SCCM.....	28
Lifecycle Controller 起動メディアのデフォルト共有場所の設定.....	30
タスクシーケンスメディアのブータブル ISO の作成.....	30
Windows 以外のオペレーティングシステムの導入の準備.....	30
7 Operational Template (運用テンプレート)32	32
事前定義された Operational Template (運用テンプレート)33	33
参照サーバからの Operational Template (運用テンプレート) の作成.....33	33
SCCM 用の OMIMSSC コンソール拡張機能用の Windows OS コンポーネント.....35	35
SCVMM 用の OMIMSSC コンソール拡張機能用の Windows コンポーネント.....35	35
OMIMSSC コンソール拡張機能用の Windows 以外のコンポーネント.....35	35
参照モジュラーシステムからの Operational Template (運用テンプレート) の作成.....36	36
Operational Template (運用テンプレート) の表示.....36	36
Operational Template (運用テンプレート) の変更.....36	36
複数サーバでの運用テンプレートを使用したシステム固有値 (プール値) の設定.....37	37
Operational Template (運用テンプレート) の削除.....38	38
Operational Template (運用テンプレート) の割り当てとサーバの Operational Template (運用テンプレート) コンプライアンスの実行.....38	38
サーバへの Operational Template (運用テンプレート) の導入.....39	39
モジュラーシステムの Operational Template (運用テンプレート) の割り当て.....39	39
モジュラーシステムへの Operational Template (運用テンプレート) の導入.....40	40
Operational Template (運用テンプレート) の割り当て解除.....40	40
8 OMIMSSC のファームウェアアップデート.....41	41
アップデートグループについて.....41	41
アップデートグループの表示.....42	42
カスタムアップデートグループの作成.....42	42
カスタムアップデートグループの変更.....42	42
カスタムアップデートグループの削除.....42	42
アップデートソースとは.....43	43
ローカル FTP のセットアップ.....44	44
ローカル HTTP のセットアップ.....44	44

ローカル HTTPS のセットアップ	44
アップデートソースの表示	45
アップデートソースの作成	45
アップデートソースの変更	46
アップデートソースの削除	46
Dell EMC Repository Manager (DRM) との統合	46
DRM と OMIMSSC の統合	46
ポーリング頻度の設定	47
デバイスインベントリの表示と更新	47
フィルタの適用	48
フィルタの削除	49
Upgrading and downgrading firmware versions using run update method	49
CAU を使用したアップデート	50
9 Operational Template (運用テンプレート) を使用したクラスタの作成	51
Storage Spaces Direct クラスタ用の論理スイッチの作成	51
Storage Spaces Direct クラスタの作成	51
10 OMIMSSC でのデバイスの管理	53
サーバのリカバリ	53
保護ボルト	53
サーバープロファイルのエクスポート	54
サーバープロファイルのインポート	54
交換したコンポーネントに対するファームウェアおよび構成設定の適用	55
サーバの LC ログの収集	56
LC ログの表示	56
ファイルの説明	57
インベントリのエクスポート	57
スケジュール済みジョブのキャンセル	58
11 設定と導入	59
使用例	59
運用テンプレートの作成	59
インストーラフォルダ	61
運用テンプレートの割り当て	61
運用テンプレートの導入	61
SCCM 用の OMIMSSC コンソール拡張機能用の Windows OS コンポーネント	62
SCVMM 用の OMIMSSC コンソール拡張機能用の Windows コンポーネント	62
SCCM/SCVMM 用の OMIMSSC コンソール拡張機能用の Windows 以外のコンポーネント	63
登録した MSSC での検出	63
サーバープロファイルのインポート	63
サーバープロファイルのエクスポート	63
LC ログの表示	63
LC ログの収集	64
部品交換	64
ポーリングと通知	64
iDRAC の起動	64
入力出力モジュールの起動	64
同期化エラーの解決	64

OMIMSSC と登録済みの Microsoft コンソールとの同期.....	65
割り当ておよび導入.....	65
アップデートの実行.....	65
12 付録.....	66
13 Dell EMC サポートサイトからのドキュメントへのアクセス.....	69

OMIMSSC の概要

Microsoft System Center 向け OpenManage Integration (OMIMSSC) とは、製品の System Center スイートへのアプライアンスベースの統合です。OMIMSSC は、integrated Dell Remote Access Controller (iDRAC) with Lifecycle Controller (LC) を使用して、Dell EMC PowerEdge サーバーの完全なライフサイクル管理が行えるようにします。

OMIMSSC では、オペレーティングシステムの導入、Storage Spaces Direct クラスターの作成、ハードウェアのパッチ、ファームウェアアップデート、サーバーとモジュラーシステムのメンテナンスが行えます。従来のデータセンターで OMIMSSC を Microsoft System Center Configuration Manager (SCCM) と統合して Dell PowerEdge サーバーを管理したり、仮想およびクラウド環境で OMIMSSC を Microsoft System Center Virtual Machine Manager (SCVMM) と統合して Dell PowerEdge サーバーを管理したりできます。

SCCM および SCVMM の詳細については、Microsoft のマニュアルを参照してください。

トピック：

- ・ [新機能](#)

新機能

- ・ Windows Server 2019 オペレーティングシステム導入のサポート。
- ・ System Center Configuration Manager (SCCM) バージョン 1809 のサポート。
- ・ System Center Configuration Manager (SCCM) バージョン 1902 のサポート。
- ・ System Center Virtual Machine Manager (SCVMM) SAC バージョン 1807 のサポート。
- ・ System Center Virtual Machine Manager (SCVMM) 2019 のサポート。
- ・ Windows Server 2019 での Cluster Aware Update (CAU) のサポート。
- ・ Windows Server 2019 Storage Spaces Direct (S2D) クラスター導入のサポート。

OMIMSSC の使用例

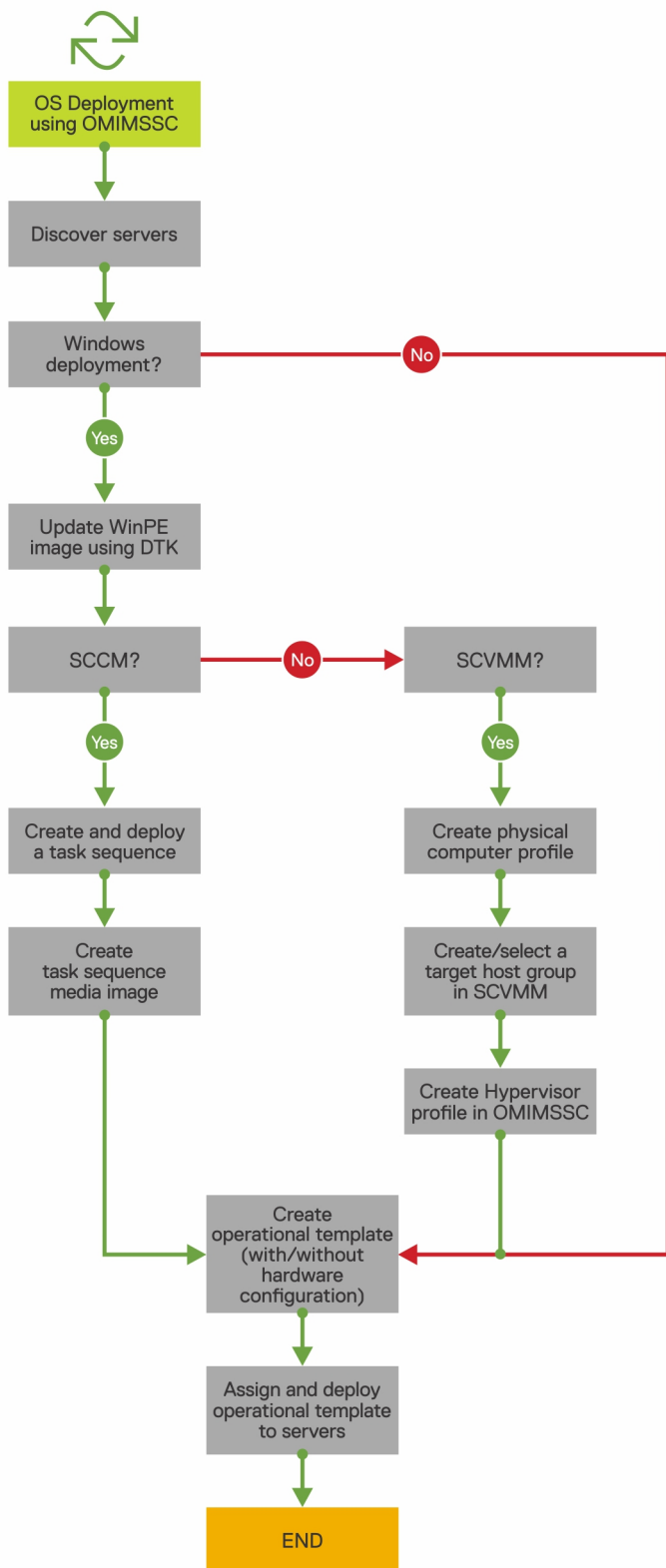
導入シナリオの使用例

OMIMSSC を使用して、SCCM または SCVMM の環境に Windows および Windows 以外のオペレーティングシステムを Operational Template (運用テンプレート) を使用して導入します。

① **メモ:** オペレーティングシステムを導入する前に、デバイスファームウェアのバージョンを `ftp.dell.com` または `downloads.dell.com` にある最新バージョンにアップグレードしてください。

① **メモ:** Windows 以外のオペレーティングシステムの導入は、第 11 世代のサーバではサポートされていません。

次の図に、OMIMSSC でのオペレーティング システムの導入事例を示します。



SCCM 用の OMIMSSC コンソール拡張機能を使用した Windows OS の導入

OMIMSSC を使用して SCCM コンソールから Windows OS を導入するには、次の手順に従います。

① **メモ:** ホストサーバに OS を導入する前に、SCCM でサーバのクライアントステータスが なし であることを確認します。

1. 最新の Dell EMC Deployment Toolkit (DTK) をダウンロードし、Windows プレインストール環境 (WinPE) のブート WIM イメージを作成します。詳細については、「[WinPE アップデート](#)」を参照してください。
2. この .WIN イメージを SCCM コンソールにインポートし、SCCM にブートイメージを作成します。詳細については、Microsoft のマニュアルを参照してください。
3. SCCM を使用してタスクシーケンスを作成します。詳細については、「[タスクシーケンスの作成](#)」を参照してください。
4. SCCM でタスクシーケンスメディアイメージを作成します。詳細については、Microsoft のマニュアルを参照してください。

① **メモ:** タスクシーケンスメディアの作成時に無人 OS 導入を有効にするには、メディアのタイプを選択して、無人オペレーティングシステム導入を許可 チェックボックスをオンにします。

5. **検出** ページを使用して、参照サーバを検出します。詳細については、「[手動検出を使用したサーバの検出](#)」を参照してください。
6. 検出されたサーバの詳細をすべてキャプチャして、Operational Template (運用テンプレート) を作成します。詳細については、「[参照サーバからの運用テンプレートの作成](#)」を参照してください。
7. 管理対象デバイスに Operational Template (運用テンプレート) を割り当て、テンプレートのコンプライアンスを確認します。詳細については、「[運用テンプレートの割り当ておよび運用テンプレートのコンプライアンスの実行](#)」を参照してください。
8. Operational Template (運用テンプレート) を展開して、デバイステンプレートを準拠させます。詳細については、「[運用テンプレートの導入](#)」を参照してください。
9. **ジョブとログセンター** ページで、オペレーティングシステムの導入のジョブステータスを表示します。詳細については、「[ジョブとログセンターの起動](#)」を参照してください。

SCVMM 用の OMIMSSC コンソール拡張機能を使用したハイパーバイザーの導入

ハイパーバイザー導入のためのさまざまなシナリオは、次のとおりです。

表 1. ハイパーバイザー導入のシナリオ

状態	アクション
工場出荷時の最新のドライバが必要な場合。	ハイパーバイザープロファイルの作成中に、LC (Lifecycle Controller) ドライバインジェクションを有効にします。
既存のハードウェア構成を保持する場合。	Operational Template (運用テンプレート) を作成する際に、変更を必要としないすべてのコンポーネントのチェックボックスをオフにします。

OMIMSSC を使用して SCVMM コンソールからハイパーバイザーを導入するには、次の手順を実行します。

1. 最新の Dell EMC Deployment Toolkit (DTK) をダウンロードして、Windows プレインストール環境 (WinPE) ブート ISO イメージを作成します。詳細については、「[WinPE アップデート](#)」を参照してください。
2. SCVMM で、物理コンピュータプロファイルとホストグループを作成します。詳細については、SCVMM のマニュアルを参照してください。
3. SCVMM 用 OMIMSSC コンソール拡張機能でハイパーバイザープロファイルを作成します。詳細については、「[ハイパーバイザープロファイルの作成](#)」を参照してください。
4. **検出** ページを使用して、参照サーバを検出します。詳細については、「[手動検出を使用したサーバの検出](#)」を参照してください。
5. 検出されたサーバの詳細をすべてキャプチャして、Operational Template (運用テンプレート) を作成します。詳細については、「[参照サーバからの運用テンプレートの作成](#)」を参照してください。
6. 管理対象デバイスに Operational Template (運用テンプレート) を割り当て、テンプレートのコンプライアンスを確認します。詳細については、「[運用テンプレートの割り当ておよび運用テンプレートのコンプライアンスの実行](#)」を参照してください。
7. Operational Template (運用テンプレート) を展開して、デバイステンプレートを準拠させます。詳細については、「[運用テンプレートの導入](#)」を参照してください。
8. **ジョブとログセンター** ページで、オペレーティングシステムの導入のジョブステータスを表示します。詳細については、「[ジョブとログセンターの起動](#)」を参照してください。

OMIMSSC を使用した Windows OS の再展開

SCCM 用の OMIMSSC コンソール拡張機能または SCVMM 上の OMIMSSC コンソール拡張機能を使用してサーバに Windows OS を再展開するには、次の手順に従います。

1. Microsoft コンソールからサーバを削除します。詳細については、Microsoft のマニュアルを参照してください。
2. サーバを再検出するか、登録されている Microsoft コンソールと OMIMSSC を同期します。サーバは、OMIMSSC で未割り当てのサーバとして追加されます。検出の詳細については、「[手動検出を使用したサーバの検出](#)」を参照してください。同期の詳細については、「[登録済みの Microsoft コンソールとの同期](#)」を参照してください。
3. 検出されたサーバの詳細をすべてキャプチャして、Operational Template (運用テンプレート) を作成します。詳細については、「[参照サーバからの運用テンプレートの作成](#)」を参照してください。
4. 管理対象デバイスに Operational Template (運用テンプレート) を割り当て、テンプレートのコンプライアンスを確認します。詳細については、「[運用テンプレートの割り当ておよび運用テンプレートのコンプライアンスの実行](#)」を参照してください。
5. Operational Template (運用テンプレート) を展開して、デバイステンプレートを準拠させます。詳細については、「[運用テンプレートの導入](#)」を参照してください。
6. ジョブとログセンター ページで、オペレーティングシステムの導入のジョブステータスを表示します。詳細については、「[ジョブとログセンターの起動](#)」を参照してください。

OMIMSSC コンソール拡張機能を使用した Windows 以外の OS の導入

OMIMSSC を使用して Windows 以外の OS を導入するには、次の手順を実行します。

① **メモ:** OMIMSSC 経由で Windows 以外の OS を導入する手順は、Microsoft コンソールでは共通です。

1. **検出** ページを使用して、参照サーバを検出します。詳細については、「[手動検出を使用したサーバの検出](#)」を参照してください。
2. 検出されたサーバの詳細をすべてキャプチャして、Operational Template (運用テンプレート) を作成します。詳細については、「[参照サーバからの運用テンプレートの作成](#)」を参照してください。
3. 管理対象デバイスに Operational Template (運用テンプレート) を割り当て、テンプレートのコンプライアンスを確認します。詳細については、「[運用テンプレートの割り当ておよび運用テンプレートのコンプライアンスの実行](#)」を参照してください。
4. Operational Template (運用テンプレート) を展開して、デバイステンプレートを準拠させます。詳細については、「[運用テンプレートの導入](#)」を参照してください。

① **メモ:**

導入中に DHCP ルックアップが失敗すると、サーバはタイムアウトして SCCM の Managed Lifecycle Controller Lifecycle Controller (ESXi) コレクションには移動されません。

事前定義された Storage Spaces Direct を使用した Operational Template (運用テンプレート) クラスターの作成

OMIMSSC を使用してクラスターを作成するには、次の手順を実行します。

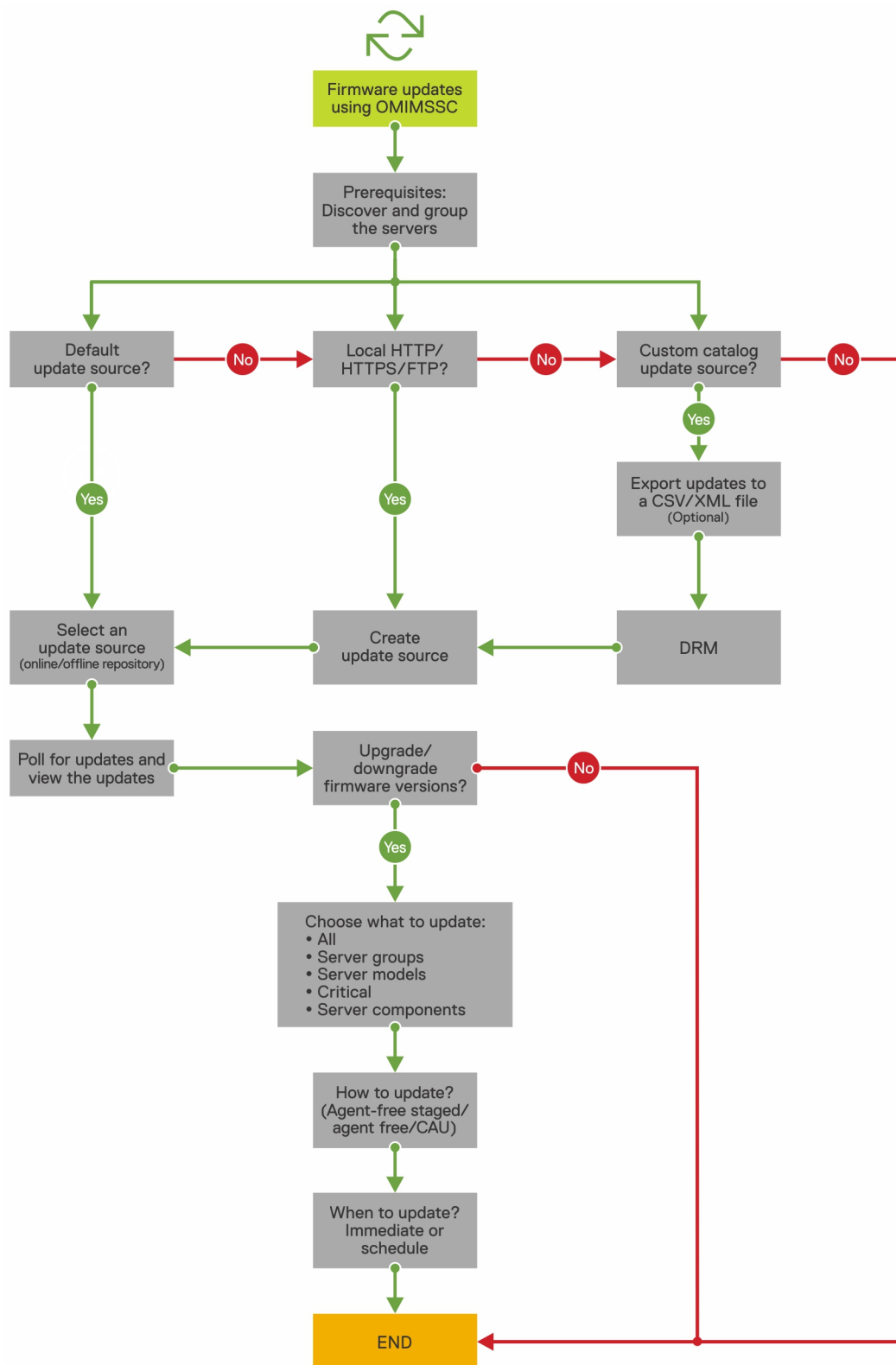
1. **検出** ページを使用して、参照サーバを検出します。詳細については、「[手動検出を使用したサーバの検出](#)」を参照してください。
2. 事前定義された Operational Template (運用テンプレート) を編集します。詳細については、「[Operational Template \(運用テンプレート \) の変更](#)」を参照してください。
3. 論理スイッチを作成します。詳細については、「[論理スイッチの作成](#)」を参照してください。
4. Storage Spaces Direct クラスターを作成します。詳細については、「[Storage Spaces Direct クラスターの作成](#)」を参照してください。

デバイスのメンテナンスの使用例

OMIMSSC で検出されたデバイスをメンテナンスします。

サーバおよび MX7000 デバイスのファームウェアのアップデート

次の図に、ファームウェアアップデートのワークフローを示します。



次のアップデートソースを使用して、選択したデバイスをアップデートできます。

- ・ オンライン FTP または ローカル FTP ソース

- ・ オンライン HTTP またはローカル HTTP ソース
- ・ オンライン HTTPS またはローカル HTTPS ソース
- ・ ローカル Dell Repository Manager (DRM) ソース

1. デフォルトのアップデートソースを作成または選択します。アップデートソースの詳細については、「[アップデートソース](#)」を参照してください。

① メモ: ポーリングと通知の機能を使用して、最新のカタログでアップデートソースをアップデートしてください。ポーリングと通知の詳細については、「[ポーリングと通知](#)」を参照してください。

Storage Spaces Direct クラスタをアップデートする場合は、Storage Spaces Direct クラスタに固有の事前定義されたアップデートソースを選択します。これらのアップデートソースは、メンテナンスセンター ページにのみ表示されます。

MX7000 デバイスを更新する場合は、モジュラーシステムに固有の事前定義されたアップデートソースを選択します。これらのアップデートソースは、メンテナンスセンター ページにのみ表示されます。

2. デフォルトのアップデートグループを作成または選択します。アップデートソースの詳細については、「[アップデートグループ](#)」を参照してください。
3. デバイスを検出するか、登録されている Microsoft コンソールと同期し、デバイスインベントリが最新であることを確認します。検出と同期の詳細については、「[デバイスの検出と同期](#)」を参照してください。サーバインベントリの詳細については、「[サーバビューの起動](#)」を参照してください。
4. 次のいずれかのオプションを使用して、デバイスをアップデートします。

- ・ 必要なデバイスを選択して、**アップデートの実行** をクリックします。詳細については、「[アップデートの実行を使用したファームウェアバージョンのアップグレードまたはダウングレード](#)」を参照してください。

① メモ: デバイスコンポーネントのファームウェアをダウングレードするには、**ダウングレードを許可** チェックボックスをオンにします。このオプションが選択されていない場合、ファームウェアのダウングレードを必要とするコンポーネントに対するアクションは実行されません。

- ・ Operational Template (運用テンプレート) でファームウェアアップデートのコンポーネントを選択し、このテンプレートを展開します。Operational Template (運用テンプレート) の詳細については、「[Operational Template \(運用テンプレート \)](#)」を参照してください。

交換したコンポーネントの設定

交換したコンポーネントのファームウェアのバージョンまたは設定を古いコンポーネントと一致させるには、「[ファームウェアおよび構成設定の適用](#)」を参照してください。

サーバプロファイルのエクスポートとインポート

特定のインスタンスでサーバプロファイルをエクスポートし、そのプロファイルをインポートしてサーバを復元します。

1. 保護ボールドを作成します。保護ボールドの作成については、「[保護ボールドの作成](#)」を参照してください。
2. サーバプロファイルをエクスポートします。サーバプロファイルのエクスポートについての詳細は、「[サーバプロファイルのエクスポート](#)」を参照してください。
3. サーバプロファイルを、エクスポート元と同じサーバにインポートします。サーバプロファイルのインポートについての詳細は、「[サーバプロファイルのインポート](#)」を参照してください。

① メモ: RAID 設定を含むサーバプロファイルは、RAID 設定がプロファイルにエクスポートされている場合にのみインポートできます。

OMIMSSC のビュー

設定と導入 ページの OMIMSSC で検出されたすべてのデバイスと、そのハードウェアおよびファームウェアのインベントリ情報を表示します。また、**ジョブとログセンター** ページに、すべてのジョブとそのステータスも表示します。

トピック：

- ・ [サーバビューの起動](#)
- ・ [モジュラーシステムビューの起動](#)
- ・ [クラスタビューの起動](#)
- ・ [iDRAC コンソールの起動](#)
- ・ [メンテナンスセンターの起動](#)
- ・ [ジョブとログセンターの起動](#)

サーバビューの起動

サーバビュー ページには、OMIMSSC の **未割り当てサーバ** タブと **ホスト** タブにあるすべての未割り当てサーバとホストサーバが一覧表示されます。

未割り当てサーバ タブで、iDRAC の IP アドレス、サービスタグ、モデル、生成、プロセッサ速度、サーバのメモリ、割り当てられた Operational Template (運用テンプレート) のテンプレートコンプライアンスステータス、モジュラーシステムのサービスタグ (モジュラーサーバの場合)、ハードウェア互換性情報を表示します。**ハードウェア互換性** 列にカーソルを合わせると、デバイスの BIOS、iDRAC、LC、およびドライバパックのバージョンが表示されます。ハードウェアの互換性の詳細については、「[ファームウェアのアップデートについて](#)」を参照してください。

ホスト タブで、ホスト名、iDRAC IP アドレス、サービスタグ、モデル、生成、プロセッサ速度、サーバのメモリ、モジュラーシステムのサービスタグ (モジュラーサーバの場合)、サーバがクラスタの一部である場合完全修飾ドメイン名 (FQDN)、割り当てられた Operational Template (運用テンプレート) のコンプライアンスステータス、ハードウェア互換性情報を表示します。**ハードウェア互換性** 列にカーソルを合わせると、デバイスの BIOS、iDRAC、LC、およびドライバパックのバージョンが表示されます。ハードウェアの互換性の詳細については、「[ファームウェアのアップデートについて](#)」を参照してください。

サーバビュー ページでは、次のタスクを実行できます。

- ・ [サーバーの検出](#)
- ・ ページを更新して、更新された情報を表示します。
- ・ [OMIMSSC からサーバを削除します。](#)
- ・ [登録済みの Microsoft コンソールと同期します。](#)
- ・ [同期化エラーの解決。](#)
- ・ [Operational Template \(運用テンプレート\) を割り当て、Operational Template \(運用テンプレート\) コンプライアンスを実行します。](#)
- ・ [Operational Template \(運用テンプレート\) の導入](#)
- ・ サーバが所属するクラスタグループとモジュラーシステムにサーバを関連付けます。
- ・ [iDRAC コンソールの起動](#)

サーバーを表示するには、次の手順を実行します。

1. OMIMSSC コンソール拡張機能で、**設定と導入** をクリックし、**サーバビュー** をクリックします。
2. ベアメタルサーバを表示するには、**未割り当てサーバ** タブをクリックします。
3. ホストサーバを表示するには、**ホスト** タブをクリックします。
 - a) SCCM または SCVMM でグループ化されたホストグループをネストされた形式で表示するには、**コンソールホストの選択** ドロップダウンメニューをクリックします。

コンソールホストの選択 ドロップダウンメニューには、SCCM に存在するすべてのホストグループと内部グループ名が一覧表示されます。内部グループ名を選択すると、SCCM および OMIMSSC で検出および管理されるすべてのホストが表示されます。

サーバを検出したら、次の点を考慮します。

- ・ サーバが検出されると、**運用テンプレート** の列に **未割り当て** と表示されます。ファームウェアをアップデートし、これらのサーバにオペレーティングシステムを導入するには、Operational Template (運用テンプレート) を割り当てて導入します。詳細は、「[Operational Template \(運用テンプレート\) の管理](#)」を参照してください。

- ・ 検出されたサーバは、OMIMSSC で事前定義されたグループに追加されます。機能要件に基づいて、カスタムアップデートグループを作成できます。詳細については、「[アップデートグループについて](#)」を参照してください。
- ・ OMIMSSC に委任管理者としてログインすると、このユーザーに固有ではないすべてのホストおよび未割り当てサーバを表示できます。したがって、サーバで操作を実行する前に、必要な権限があることを確認してください。
- ・ OMIMSSC に複数の Microsoft コンソールが登録されている場合、ホストサーバは、それらが管理されている Microsoft コンソールに固有のものになります。また、未割り当てサーバはすべてのコンソールに共通です。

モジュラーシステムビューの起動

モジュラーシステムビュー ページには、OMIMSSC で検出されたすべてのモジュラーシステムが一覧表示されます。

CMC IP アドレス、サービスタグ、モデル、ファームウェアバージョン、割り当てられた Operational Template (運用テンプレート) に対するモジュラーシステムのテンプレートコンプライアンスステータス、サーバ数、入力 / 出力 (I/O) モジュール、およびそのモジュラーシステムに存在するストレージデバイスを表示します。Operational Template (運用テンプレート) を導入して、ハードウェアを構成し、モジュラーシステムファームウェアをアップデートします。

モジュラーシステムビュー ページでは、次のタスクを実行できます。

- ・ [手動検出を使用したモジュラーシステムの検出](#)
- ・ モジュラーシステムの削除
- ・ 最新のインベントリ情報を表示するには、ページを更新します。
- ・ [モジュラーシステムの Operational Template \(運用テンプレート\) の割り当て](#)
- ・ [モジュラーシステムの Operational Template \(運用テンプレート\) の導入](#)
- ・ [I/O モジュールの表示](#)
- ・ [I/O モジュールの起動](#)

OMIMSSC で検出されたモジュラーシステムを表示するには、次の手順を実行します。

1. OMIMSSC で、**設定と導入** をクリックし、次に **モジュラーシステムビュー** をクリックします。
すべてのモジュラーシステムで検出されたモデル名が表示されます。
 2. 特定のモジュラーシステムを表示するには、**モジュラーシステムビュー** でモデル名をクリックします。
該当モデルのすべてのモジュラーシステムが、サービスタグとともに表示されます。
 3. 該当モジュラーシステムに存在するすべてのデバイスを表示するには、サービスタグをクリックします。
すべてのサーバ、入力出力モジュール、およびストレージデバイスとその詳細が表示されます。
-  **メモ:** モジュラーシステムの詳細検出をした後にのみ、モジュラーシステム内のすべてのデバイスとその情報が表示されます。
- ・ デフォルトでは、**サーバ** タブが表示されます。
このモジュラーシステムで検出されたすべてのサーバが表示されます。
 - ・ モジュラーシステムに存在するすべての入力出力モジュールを表示するには、**I/O モジュール** タブをクリックします。
 - ・ モジュラーシステムに存在するすべてのストレージデバイスを表示するには、**ストレージデバイス** タブをクリックします。

モジュラーシステムを検出したら、次の点を考慮してください。

- ・ **運用テンプレート** の列は、モジュラーシステムが検出されると、**未割り当て** として表示されます。これらのモジュラーシステムのファームウェアを更新してオペレーティングシステムを導入するには、Operational Template (運用テンプレート) を割り当てて導入します。詳細は、「[Operational Template \(運用テンプレート\) の管理](#)」を参照してください。
- ・ 簡易検出後に、モジュラーシステム内に存在する入力 / 出力、ストレージデバイス、およびサーバの数を表示します。詳細検出を実行して、モジュラーシステムのコンポーネントの詳細を表示します。

OpenManage Enterprise Modular コンソールの起動

OpenManage Enterprise Modular コンソールを起動するには、次の手順に従います。

1. OMIMSSC で **設定と導入** を展開し、**モジュラーシステム** をクリックします。
2. モジュラーシステムの **デバイス IP** をクリックします。

入力 / 出力モジュール

すべてのネットワーク入力 / 出力モジュールとそれらの IP アドレス、サービスタグ、入力 / 出力タイプ、モデル、ファームウェアバージョン、スロット情報が表示されます。

[I/O モジュールの起動](#) コンソールを入力 / 出力モジュール ページから起動します。

入力/出力モジュールに関する情報を表示するには、次の手順を実行します。

1. OMIMSSC で、**設定と導入** をクリックし、次に **モジュラーシステムビュー** をクリックします。モジュラーシステムビュー を展開し、サービスタグをクリックします。
該当モデルのすべてのサービスタグが表示されます。
2. 入力/出力モジュールを表示するには、**I/O モジュール** タブをクリックします。

入出力モジュールコンソールの起動

入力出力モジュール コンソールを起動するには、次の手順に従います。

1. OMIMSSC で、**設定と導入** を展開し、**モジュラーシステムビュー** をクリックします。モデルを個々のデバイスレベルに展開します。
そのモデルの下にあるすべてのデバイスが表示されます。
2. **I/O モジュール** タブをクリックします。
3. デバイスの **IP アドレス** をクリックします。

クラスタビューの起動

[**クラスタビュー**] ページには、OMIMSSC で検出されたすべてのクラスタが一覧表示されます。クラスタの FQDN (完全修飾名)、サービスタグ、そのクラスタに存在するサーバの数を表示します。また、クラスタ用の論理スイッチを作成し、定義済みの Operational Template (運用テンプレート) を使用して Storage Spaces Direct クラスタを作成します。

クラスタビュー ページでは、次のタスクを実行できます。

- ・ [論理スイッチの作成](#) (SCVMM 2016 および 2019 ユーザーのみ)
- ・ [Storage Spaces Direct クラスタの作成](#) (SCVMM 2016 および 2019 ユーザーのみ)
- ・ [iDRAC コンソールの起動](#)
- ・ 検出された最新のクラスタを表示するには、ページを更新します。

OMIMSSC で検出されたクラスタグループを表示するには、次の手順を実行します。

1. OMIMSSC で、**設定と導入** をクリックし、**クラスタビュー** をクリックします。
さまざまなタイプのクラスタがすべてグループ化され、一覧表示されます。
2. 特定のタイプのクラスタに関する情報を表示するには、クラスタタイプを展開します。
このタイプのすべてのクラスタが左側のペインに表示されます。
3. クラスタ内のサーバを表示するには、クラスタ名をクリックします。

iDRAC コンソールの起動

iDRAC コンソールを起動するには、次の手順に従います。

OMIMSSC で、**設定と導入** を展開し、以下のいずれかを選択します。

- ・ **サーバビュー** をクリックします。サーバ (ホストまたは未割り当てサーバの場合) に基づいて、**未割り当てサーバ** または **ホスト** タブをクリックし、サーバの **iDRAC IP** アドレスをクリックします。
デフォルトでは **未割り当てサーバ** タブが表示されます。
ホスト タブを表示するには、**ホスト** をクリックします。
- ・ **クラスタビュー** をクリックします。クラスタタイプを展開し、クラスタグループをサーバレベルに展開します。
サーバ タブが表示されます。

メンテナンスセンターの起動

メンテナンスセンター ページには、グループ内で検出されたすべてのデバイスと、OMIMSSC でデバイスを保守するために必要なリソースが一覧表示されます。[**メンテナンスセンター**] ページで S2D クラスタグループを表示するには、[**アップデートグループ**] ドロップダウン メニューから [**すべてのアップデートグループ**] を選択していることを確認します。デバイスのファームウェア インベントリを表示し、推奨に従ってファームウェアを最新の状態に維持することでデバイスを管理し、サーバーがクラッシュした場合はそれを以前の状態に戻し、置換されたコンポーネントを以前のコンポーネントと同じ設定にし、問題をトラブルシューティングするためにサーバー ログをエクスポートします。**アップデート設定** ページでは、すべてのアップデートソース、デフォルトのアップデートソースからの最新アップデートのポーリングと通知、同様の管理を必要とするデバイスのアップデートグループ、およびサーバ構成に必要なすべての保護ポリシーを表示します。

① **メモ:** デフォルトでは、OMIMSSC とともに、事前定義された FTP、HTTP、および HTTPS アップデート ソースに対する以前のバージョンの比較レポートを表示するカタログ ファイルがパッケージ化されています。したがって、最新のカタログをダウンロードして、最新の比較レポートを表示してください。最新のカタログをダウンロードするには、FTP、HTTP、および HTTPS アップデート ソースを編集して保存します。

① **メモ:** 選択したアップデート ソース カタログにアップデートが存在しない場合、デバイスの特定コンポーネントのベースライン バージョンは使用不可とマークされます。

メンテナンスセンター ページでは、次のタスクを実行できます。

- ・ アップデート ソースの作成
- ・ ポーリング頻度の設定
- ・ 事前定義されたアップデートグループを選択するか、カスタムアップデートグループを作成します。
- ・ ファームウェアインベントリの表示と更新
- ・ アップデートの実行メソッドを使用したファームウェアバージョンのアップグレードとダウングレード
- ・ 保護ボルトの作成
- ・ サーバプロファイルのエクスポート
- ・ サーバプロファイルのインポート
- ・ インベントリのエクスポート

メンテナンスセンター ページを表示するには、次の手順を実行します。

OMIMSSC で、[メンテナンス センター] をクリックします。
メンテナンスセンター ページが表示されます。

ジョブとログセンターの起動

OMIMSSC で開始されたジョブに関する情報、およびジョブの進行状況とそのサブタスクのステータスが表示されます。また、特定のジョブカテゴリのジョブをフィルタリングして表示することもできます。

OMIMSSC 管理ポータルおよび OMIMSSC コンソール拡張機能で、OMIMSSC から開始されたジョブを表示できます。

- ・ OMIMSSC 管理ポータル—すべての OMIMSSC コンソールおよびユーザーから開始されたジョブが表示されます。
- ・ OMIMSSC コンソール—ユーザーおよびコンソールに固有のジョブが表示されます。

ジョブ名は、システムによって生成されるか、ユーザーによって提供されます。サブタスクの名前は、管理対象システムの IP アドレスまたはホスト名の後に付けられます。サブタスクを展開して、そのジョブのアクティビティログが表示されます。ジョブは次の 4 つのグループに分類されます。

- ・ **実行中**—現在実行中のすべてのジョブ、または進行中の状態が表示されます。
- ・ **履歴**—過去に実行されたすべてのジョブがそのジョブのステータスとともに表示されます。
- ・ **スケジュール**—将来の日時にスケジュールされているすべてのジョブが表示されます。また、これらのスケジュール済みジョブをキャンセルすることもできます。
- ・ **汎用ログ**—サブタスクまたはその他のアクティビティに固有でない、OMIMSSC アプライアンス固有の一般的なログメッセージが表示されます。すべてのジョブは、ユーザー名と開始されたコンソール FQDN で表示されます。
 - ・ **アプライアンスログメッセージ**—OMIMSSC アプライアンスの再起動など、すべての OMIMSSC アプライアンス固有のログメッセージが表示されます。このカテゴリのメッセージは、OMIMSSC 管理ポータルからのみ表示できます。
 - ・ **汎用ログメッセージ**—**実行中**、**履歴**、および**スケジュール** タブに表示されているさまざまなジョブカテゴリに共通のログメッセージが表示されます。これらのログは、コンソールとユーザーに固有です。

たとえば、サーバのグループのファームウェアアップデートジョブが進行中の場合、タブにはそのジョブの Server Update Utility (SUU) リポジトリの作成に関連するログメッセージが表示されます。

OMIMSSC で定義されるジョブのさまざまな状態は次のとおりです。

- ・ **キャンセル**—ジョブは手動で、または OMIMSSC アプライアンスの再始動後に取り消されました。
- ・ **成功**—ジョブは正常に完了しました。
- ・ **失敗**—ジョブは成功しませんでした。
- ・ **進行中**—ジョブは実行中です。
- ・ **スケジュール**—ジョブは将来の日時にスケジュールされています。
- ① **メモ:** 複数のジョブが同じデバイスに同時に送信された場合、ジョブは失敗します。そのため、同じデバイスのジョブを異なる時間にスケジュールするようにしてください。
- ・ **待機中**—ジョブは実行を開始するまでキュー内にあります。
- ・ **繰り返しスケジュール**—ジョブは定期的にスケジュールされています。

1. OMIMSSC で、**ジョブとログセンター** をクリックします。
2. **スケジュール済み**、**履歴**、**一般** など、ジョブの特定のカテゴリを表示するには、必要なタブをクリックします。
ジョブに含まれているすべてのデバイスを表示するには、ジョブを展開します。さらに展開すると、ジョブのログメッセージが表示されます。
 **メモ:** すべてのジョブに関連する一般的なログメッセージは、**汎用** タブにはリストされますが、**実行中** または **履歴** タブにはリストされません。
3. (オプション) さまざまなグループのジョブとジョブのステータスを **ステータス** 列に表示するには、フィルタを適用します。

プロファイルの管理

プロファイルには、OMIMSSC での操作を実行するために必要なすべてのデータが含まれています。

トピック：

- ・ 資格情報プロファイルについて
- ・ ハイパーバイザープロファイルについて (SCVMM ユーザー用)

資格情報プロファイルについて

資格情報プロファイルは、ユーザーの役割ベースの機能を認証することにより、ユーザー資格情報の使用と管理を簡素化します。各資格情報プロファイルには、単一ユーザーアカウントのユーザー名とパスワードが含まれています。

OMIMSSC は、資格情報プロファイルを使用して管理下システムの iDRAC に接続します。また、資格情報プロファイルは、FTP サイトや Windows 共有で使用可能なリソースへのアクセスに使用したり、iDRAC のさまざまな機能を操作する際に使用することができます。

資格情報プロファイルには、4 つのタイプのプロファイルを作成することができます。

- ・ デバイス資格情報プロファイル - iDRAC または CMC へのログインに使用されます。また、サーバの検出、同期問題の解決、およびオペレーティングシステムの導入のために、このプロファイルを使用できます。このプロファイルは、コンソールに固有です。このプロファイルは、プロファイルが作成されたコンソールでのみ使用および管理できます。
- ・ Windows 資格情報プロファイル - Windows オペレーティングシステムの共有フォルダにアクセスするために使用されます。
- ・ FTP 資格情報プロファイル - FTP サイトへのアクセスのために使用されます。
- ・ プロキシサーバ資格情報 - アップデート用の FTP サイトにアクセスするためのプロキシ資格情報を提供するため使用されます。

① | メモ: デバイスプロファイル以外のすべてのプロファイルは共有リソースです。これらのプロファイルは、登録されている任意のコンソールから使用および管理できます。

事前定義された資格情報プロファイル

システムデフォルト FTP アカウントは、OMIMSSC で使用可能な事前定義された資格情報プロファイルです。事前定義された資格情報プロファイルのタイプは FTP で、ユーザー名とパスワードは匿名です。このプロファイルを使用すると ftp.dell.com にアクセスできます。

資格情報プロファイルの作成

資格情報プロファイルを作成する場合は、次の点に注意してください。

- ・ 自動検出中に iDRAC に対してデフォルトの資格情報プロファイルを使用できない場合は、デフォルトの iDRAC 資格情報が使用されます。デフォルト iDRAC のユーザー名は root で、パスワードは calvin です。
- ・ モジュラーシステムに関する情報を取得するには、デフォルトの CMC プロファイルを使用してモジュラーサーバにアクセスします。デフォルト CMC プロファイルのユーザー名は root で、パスワードは calvin です。
- ・ (SCVMM ユーザーの場合のみ) デバイス タイプ資格情報プロファイルが作成されると、サーバを管理するために関連する **RunAsAccount** が SCVMM で作成され、その **RunAsAccount** の名前は Dell_CredentialProfileName になります。
- ・ SCVMM 内で **RunAsAccount** を編集または削除しないでください。

1. OMIMSSC で、次のいずれかの手順を実行して 資格情報プロファイル を作成します。

- ・ OMIMSSC ダッシュボードで、**資格情報プロファイルの作成** をクリックします。
- ・ ナビゲーションペインで **プロファイル > 資格情報プロファイル** の順にクリックして、**作成** をクリックします。

2. **資格情報タイプ** で、使用する資格情報プロファイルタイプを選択します。

3. プロファイル名および説明を指定します。

① | メモ: デフォルトプロファイル オプションは、デバイスタイプ資格情報プロファイルにのみ適用できます。

4. **資格情報** で、ユーザー名とパスワードを指定します。

- ・ デバイス資格情報プロファイルを作成している場合は、デフォルトプロファイル オプションを選択して、iDRAC または CMC にログインするデフォルトプロファイルとしてこのプロファイルを選択します。このプロファイルをデフォルトプロファイルとして設定しない場合は、なし を選択します。
- ・ Windows 資格情報プロファイルを作成している場合は、ドメイン にドメインの詳細を指定します。

❶ **メモ:** コンソール登録のための資格情報プロファイルの作成時に、ドメイン名とトップレベルドメイン (TLD) の詳細情報を指定します。

たとえば、ドメイン名が mydomain で TLD が com の場合は、資格情報プロファイルのドメイン名に mydomain.com と指定します

- ・ プロキシサーバの資格情報を作成している場合、プロキシサーバの URL にプロキシサーバの URL を http://hostname:port または http://IPaddress:port の形式で指定します。

5. プロファイルを作成するには、終了 をクリックします。

❶ **メモ:** SCVMM でデバイス タイプ資格情報プロファイルを作成すると、対応する RunAsAccount が作成されます。この名前は、Dell_で始まります。登録済みユーザーが、作成されたデバイス資格情報プロファイルを使用するオペレーティングシステムの導入などの操作に対して、対応する RunAsAccount へのアクセス権を持っていることを確認します。

資格情報プロファイルの変更

資格情報プロファイルを変更する前に、次の点に注意してください。

- ・ 作成後は、資格情報プロファイルのタイプを変更できません。ただし、他のフィールドは変更できます。
- ・ 資格情報プロファイルが使用中の場合は変更できません。

❶ **メモ:** 資格情報プロファイルのタイプを変更する手順は同じです。

1. 変更する資格情報プロファイルを選択し、編集 をクリックして、プロファイルを更新します。
2. 変更を保存するには、保存 をクリックします。

変更内容を表示するには、資格情報プロファイル ページを更新します。

資格情報プロファイルの削除

資格情報プロファイルを削除するときには、次の点に注意してください。

- ・ デバイスタイプ資格情報プロファイルが削除されると、関連付けられている RunAsAccount も SCVMM から削除されます。
- ・ SCVMM で RunAsAccount が削除されると、それに対応する資格情報プロファイルが OMIMSSC で使用不可となります。
- ・ サーバの検出で使用する資格情報プロファイルを削除するには、検出されたサーバ情報を削除してから、資格情報プロファイルを削除します。
- ・ 導入に使用されるデバイスタイプ資格情報プロファイルを削除するには、最初に、SCVMM 環境に導入されたサーバを削除し、その後に資格情報プロファイルを削除します。
- ・ アップデートソースで正在使用されている資格情報プロファイルを削除することはできません。

❶ **メモ:** 資格情報プロファイルのタイプを削除する手順は同じです。

削除するプロファイルを選択し、削除 をクリックします。

変更内容を表示するには、資格情報プロファイル ページを更新します。

ハイパーバイザープロファイルについて (SCVMM ユーザー用)

ハイパーバイザープロファイルには、カスタマイズされた WinPE ISO (ハイパーバイザーの導入には WinPE ISO が使用されます)、SCVMM から取得したホストグループ、およびインジェクションのための LC ドライバが含まれます。ハイパーバイザープロファイルを作成および管理できるのは、SCVMM ユーザー向けの OMIMSSC コンソール拡張機能だけです。

ハイパーバイザープロファイルの作成

ハイパーバイザープロファイルを作成し、そのプロファイルを使用してハイパーバイザーを導入します。

- ・ WinPE ISO イメージをアップデートし、イメージが保存されている共有フォルダにアクセスできるようにします。WinPE イメージのアップデートについては、「[WinPE アップデート](#)」を参照してください。
- ・ SCVMM で、ホストグループ、ホストプロファイル、または物理コンピュータプロファイルが作成されます。SCVMM でのホストグループの作成については、Microsoft のマニュアルを参照してください。

1. OMIMSSC で、次のいずれかのタスクを実行します。

- ・ OMIMSSC ダッシュボードで、**ハイパーバイザープロファイルの作成** をクリックします。
- ・ 左側のナビゲーションペインで、**プロファイル**と**テンプレート** をクリックし、**ハイパーバイザープロファイル** をクリックして、**作成** をクリックします。

ハイパーバイザープロファイルウィザードが表示されます。

2. ようこそ ページで、**次へ** をクリックします。

3. ハイパーバイザープロファイル で、プロファイルの名前と説明を入力し、**次へ** をクリックします。

4. SCVMM 情報 ページで、

- SCVMM ホストグループの宛先** については、ドロップダウンメニューから SCVMM ホストグループを選択して、ホストをこのグループに追加します。
- SCVMM ホストプロファイル/物理コンピュータプロファイル** から、サーバに適用する設定情報を含む SCVMM からホストプロファイルまたは物理コンピュータプロファイルを選択します。

SCVMM で、**物理コンピュータプロファイル** で次のいずれかのディスクパーティション方法を選択します。

- ・ UEFI モードで起動する場合は、**GUID パーティションテーブル (GPT)** オプションを選択します。
- ・ BIOS モードで起動する場合は、**マスターボードレコード (MBR)** オプションを選択します。

5. **WinPE 起動イメージソース** で、次の詳細を入力し、**次へ** をクリックします。

- ネットワーク WinPE ISO 名** には、アップデートされた WinPE ファイル名を持つ共有フォルダパスを指定します。WinPE ファイルのアップデートについては、「[WinPE アップデート](#)」を参照してください。
- 資格情報プロファイル** では、WinPE ファイルを持つ共有フォルダへのアクセス権を持つ資格情報を選択します。
- (オプション) Windows 資格情報プロファイルを作成するには、**新規作成** をクリックします。資格情報プロファイルの作成の詳細については、「[資格情報プロファイルの作成](#)」を参照してください。

6. (オプション) LC ドライバインジェクションを有効にするには、次の手順を実行します。

メモ: NIC カードの最新のオペレーティングシステムドライバパックは最新のオペレーティングシステムドライバで利用できるため、**Dell Lifecycle Controller** ドライバインジェクションを有効にする **チェックボックスを必ず選択**してください。

- 適切なドライバが選択されるように、導入するオペレーティングシステムを選択します。
- LC ドライバインジェクションを有効にする** を選択します。
- ハイパーバイザーのバージョンを **ハイパーバイザーのバージョン** で選択します。

7. **概要** で **終了** をクリックします。

変更内容を表示するには、**ハイパーバイザープロファイル** ページを更新します。

ハイパーバイザープロファイルの変更

ハイパーバイザープロファイルを変更するときには、次の点に注意してください。

- ・ Lifecycle Controller からのホストプロファイル、ホストグループ、およびドライバを変更することができます。
- ・ WinPE ISO 名を変更できます。ただし、ISO イメージは変更できません。

- 編集するプロファイルを選択し、**編集** をクリックします。
- 詳細を入力し、**終了** をクリックします。

変更内容を表示するには、**ハイパーバイザープロファイル** ページを更新します。

ハイパーバイザープロファイルの削除

削除するハイパーバイザープロファイルを選択し、**削除** をクリックします。

変更内容を表示するには、**ハイパーバイザープロファイル** ページを更新します。

デバイスの検出および MSSC コンソールとサーバの同期

検出とは、サポートされているモジュラーシステム、および PowerEdge ベアメタルサーバ、ホストサーバ、またはノードを OMIMSSC に追加するプロセスです。

MSSC コンソールとの同期とは、登録された Microsoft コンソール (SCCM または SCVMM) から OMIMSSC にホストサーバを追加するプロセスです。したがって、どちらかのプロセスを使用すると、OMIMSSC にデバイスを追加できます。デバイスが検出された後にのみ、OMIMSSC でデバイスを管理できます。

トピック：

- ・ [参照サーバの構成について](#)
- ・ [参照モジュラーシステムの構成について](#)
- ・ [OMIMSSC でのデバイスの検出](#)
- ・ [OMIMSSC コンソール拡張機能と登録された SCCM との同期](#)
- ・ [同期エラーの解決](#)
- ・ [システムロックダウンモードの表示](#)
- ・ [OMIMSSC からのサーバの削除](#)

参照サーバの構成について

ブートシーケンス、BIOS、RAID 設定、ハードウェア構成、ファームウェアアップデート属性、および組織に最適なオペレーティングシステムパラメータが選択されたサーバ設定を、参照サーバ設定と呼びます。

参照サーバを検出し、Operational Template (運用テンプレート) で参照サーバの設定をキャプチャして、同じハードウェア構成を持つ異なるサーバ間で複製します。

参照モジュラーシステムの構成について

組織に最適な優先ネットワーク構成、ユーザーアカウント、セキュリティ、アラートを備えたモジュラーシステム構成は、参照モジュラーシステム構成または参照シャシと呼ばれます。

参照モジュラーシステムを検出し、Operational Template (運用テンプレート) 内の参照モジュラーシステムの設定を取得して、同じモデルの異なるモジュラーシステム間で複製します。

OMIMSSC でのデバイスの検出

OMIMSSC で、MX7000 モジュラーシステム、ホスト、および未割り当てサーバを検出します。検出されたデバイスに関する情報は、OMIMSSC アプライアンスに保存されます。

次の方法を使用して、iDRAC IP アドレスを使用して Dell EMC サーバを検出できます。

- ・ [自動検出を使用したサーバーの検出](#)
- ・ [手動検出を使用したサーバーの検出](#)

① **メモ:** 検出されたデバイスは、OMIMSSC と連携するために必要なサポートされているバージョンの LC ファームウェア、iDRAC、および BIOS が含まれている場合は、ハードウェア互換性ありとマークされます。サポートされているバージョンについては、『*Microsoft System Center 向け OpenManage Integration Release Notes*』(Microsoft System Center 向け OpenManage Integration リリースノート) を参照してください。

「[手動検出を使用したモジュラーシステムを検出](#)」メソッドを使用して、デバイスの IP アドレスを使用してモジュラーシステムを検出します。

SCCM 用の OMIMSSC コンソール拡張機能でのデバイス検出

SCCM 用の OMIMSSC コンソール拡張機能でデバイスを検出します。サーバを検出した後、そのサーバは OMIMSSC の事前定義されたグループに追加され、次の SCCM の事前定義されたグループまたはコレクションの 1 つに追加されます。デバイスコレクションの下に作成されたすべての **Dell Lifecycle Controller** サーバコレクションと **Dell** サーバのインポートコレクション。

検出されたサーバが SCCM に存在しない場合、または SCCM に事前定義されたグループまたはコレクションが存在しない場合は、事前定義されたコレクションが作成され、検出されたサーバがそれぞれのグループに追加されます。

SCVMM 用の OMIMSSC コンソール拡張機能でのデバイス検出

SCVMM 用の OMIMSSC コンソール拡張機能で、モジュラーシステム、Hyper-V ホスト、未割り当てサーバを検出します。検出した後、デバイスは事前定義された各アップデートグループに追加されます。

管理対象システムのシステム要件

管理対象システムは、OMIMSSC を使用して管理されるデバイスです。OMIMSSC コンソール拡張機能を使用してサーバを検出するためのシステム要件は、次のとおりです。

- ・ SCCM 用 OMIMSSC のコンソール拡張機能は、第 11 世代以降のサーバでモジュール型、モノリシック型、およびタワー型のサーバモデルをサポートします。
- ・ SCVMM 用 OMIMSSC のコンソール拡張機能は、第 11 世代以降のサーバでモジュール型およびモノリシック型のサーバモデルをサポートします。
- ・ ソース設定と宛先設定では、同じタイプのディスク（ソリッドステートドライブ（SSD）のみ、SAS またはシリアル ATA（SATA）ドライブのみ）を使用してください。
- ・ ハードウェアプロファイルの RAID クローニングを正常に行うため、宛先ディスクシステムでは、ソースに存在するディスクのサイズまたは数と同じ、またはそれらを超えるサイズまたは数のディスクを使用します。
- ・ RAID スライスされた仮想ディスクはサポートされていません。
- ・ 共有 LOM 装備の iDRAC はサポートされていません。
- ・ 外部コントローラ上の RAID 構成はサポートされていません。
- ・ Collect System Inventory on Restart（CSIOR）を有効にします。詳細については、iDRAC のマニュアルを参照してください。

自動検出を使用したサーバーの検出

サーバを自動的に検出するには、サーバをネットワークに接続してサーバの電源をオンにします。OMIMSSC は、iDRAC のリモート有効化機能を使用して未割り当てのサーバを自動的に検出します。OMIMSSC はプロビジョニングサーバとして機能し、iDRAC リファレンスを使用してサーバを自動検出します。

1. OMIMSSC では、iDRAC 資格情報を提供してデバイスタイプの資格情報プロファイルを作成し、それをサーバのデフォルトとして設定します。資格情報プロファイル作成するの詳細については、「[資格情報プロファイルの作成](#)」を参照してください。
2. 管理対象デバイスの iDRAC 設定で、既存の管理者アカウントを無効にします。

 **メモ:** 自動検出が失敗した場合に iDRAC にログインするために、オペレータ権限を持つゲストユーザーアカウントを用意することをお勧めします。

3. 管理対象デバイスの iDRAC 設定で、自動検出機能を有効にします。詳細については、iDRAC のマニュアルを参照してください。
4. 管理対象デバイスの iDRAC 設定で、**プロビジョニングサーバの IP** に OMIMSSC アプライアンス IP を指定し、サーバを再起動します。

手動検出を使用したサーバの検出

IP アドレスまたは IP 範囲を使用して PowerEdge サーバを手動で検出するには、次の手順に従います。サーバを検出するには、サーバの iDRAC IP アドレスとデバイスタイプ資格情報を入力します。IP 範囲を使用してサーバを検出する場合は、サブネット内の IP（IPv4）範囲を指定してサーバの範囲の開始と終了、およびデバイスタイプ資格情報を含めます。

デフォルトの資格情報プロファイルが使用可能であることを確認します。

1. OMIMSSC コンソールで、次のいずれかの手順を実行します。

- ・ ダッシュボードで、**サーバを検出** をクリックします。
 - ・ ナビゲーション ペインで、**設定と導入** をクリックし、**サーバビュー** をクリックして、**検出** をクリックします。
2. **検出** ページで、次の中から必要なオプションを選択します。
 - ・ **IP アドレスを使用した検出** - IP アドレスを使用してサーバを検出します。
 - ・ **IP 範囲を使用した検出** - IP 範囲内のすべてのサーバを検出します。
 3. デバイスタイプ資格情報プロファイルを選択するか、**新規作成** をクリックしてデバイスタイプ資格情報プロファイルを作成します。
選択したプロファイルが、すべてのサーバに適用されます。
 4. **iDRAC IP アドレス** で、検出するサーバの IP アドレスを入力します。
 5. **IP アドレスまたは IP アドレスの範囲を使用した検出** で、次のいずれかを実行します。
 - ・ **IP アドレスの開始範囲** と **IP アドレスの終了範囲** には、含める IP アドレス範囲を指定します。これは開始範囲と終了範囲です。
 - ・ IP アドレス範囲を除外する場合は、**除外範囲の有効化** を選択して、**IP アドレスの開始範囲** と **IP アドレスの終了範囲** で除外する範囲を指定します。
 6. 固有のジョブ名、ジョブの説明を入力し、**終了** をクリックします。
このジョブを追跡するには、デフォルトで **ジョブリストへ移動** オプションが選択されています。

ジョブとログセンター ページが表示されます。検出ジョブを展開して、**実行中** タブでジョブの進行状況を表示します。

サーバが検出されると、そのサーバは **設定と導入** セクションの **サーバビュー** ページにある **ホスト** タブまたは **未割り当て** タブに追加されます。

- ・ オペレーティングシステムが導入済みのサーバを検出し、そのサーバが SCCM または SCVMM コンソールにすでに存在している場合、そのサーバは **ホスト** タブにホストサーバとして表示されます。
- ・ SCCM または SCVMM にリストされていない PowerEdge サーバを検出した場合、そのサーバはすべての OMIMSSC コンソール拡張機能の **未割り当て** タブに未割り当てサーバとして表示されます(複数の Microsoft コンソールが単一の OMIMSSC アプライアンスに登録されている場合)。

サーバを検出すると、そのサーバに OMIMSSC と連携するためにサポートされているバージョンの LC ファームウェア、iDRAC、および BIOS が含まれている場合は、**ハードウェア互換性あり**とマークされます。サーバコンポーネントのファームウェアバージョンを表示するには、サーバ行の **ハードウェア互換性** 列にマウスを合わせます。サポートされているバージョンについては、『*Microsoft System Center 向け OpenManage Integration Release Notes*』(Microsoft System Center 向け OpenManage Integration リリースノート)を参照してください。

ライセンスは、検出されたサーバごとに使用されます。**ライセンスセンター** ページの **ライセンスされたノード** は、サーバが検出されると減少します。

- ① **メモ:** 前のバージョンの OMIMSSC アプライアンスで検出されたサーバを操作するには、それらのサーバを再検出してください。
- ① **メモ:** OMIMSSC に委任管理者としてログインすると、ログインしているユーザーに固有ではないすべてのホストサーバおよび未割り当てのサーバを表示できます。したがって、このようなサーバでは操作を実行できません。このようなサーバで操作を実行する前に、必要な権限があることを確認してください。

手動検出を使用した MX7000 の検出

IP アドレスまたは IP 範囲を使用して PowerEdge MX7000 モジュラーシステムを手動で検出するには、モジュラーシステムの IP アドレスとデバイスタイプの認証情報を入力します。IP 範囲を使用してモジュラーシステムを検出する場合は、サブネット内の IP (IPv4) 範囲を指定してモジュラーシステムの範囲の開始と終了、およびデバイスタイプの認証情報を含めます。

検出するモジュラーシステムのデフォルトの資格情報プロファイルが使用可能であることを確認します。

モジュラーシステムを検出するには、次の手順を実行します。

1. OMIMSSC で、**設定と導入** をクリックし、**モジュラーシステムビュー** をクリックして、**検出** をクリックします。
2. **検出** ページで、次の中から必要なオプションを選択します。
 - ・ **IP アドレスを使用した検出** - IP アドレスを使用してモジュラーシステムを検出します。
 - ・ **IP 範囲を使用した検出** - IP 範囲内のすべてのモジュラーシステムを検出します。
3. デバイスタイプ資格情報プロファイルを選択するか、**新規作成** をクリックしてデバイスタイプ資格情報プロファイルを作成します。
選択したプロファイルが、すべてのサーバに適用されます。
4. **IP アドレス** で、検出するモジュラーシステムの IP アドレスを指定します。

5. IP アドレスまたは IP アドレスの範囲を使用した検出 で、次のいずれかを実行します。

- ・ IP アドレスの開始範囲 と IP アドレスの終了範囲 には、含める IP アドレス範囲を指定します。これは開始範囲と終了範囲です。
- ・ IP アドレス範囲を除外する場合は、除外範囲の有効化 を選択して、IP アドレスの開始範囲 と IP アドレスの終了範囲 で除外する範囲を指定します。

6. モジュラーシステム検出メソッド で、次のいずれかを選択します。

- ・ 簡易検出 - モジュラーシステムおよびモジュラーシステム内のサーバ数を検出します。
- ・ 詳細検出 - 入出力モジュール (IOM) やストレージデバイスなど、モジュラーシステム内に存在するモジュラーシステムおよびデバイスを検出します。

① メモ: MX7000 とそのコンポーネントを詳細に検出するには、PowerEdge MX7000 とそのすべてのコンポーネントで IPv4 アドレスが有効になっていることを確認します。

7. 固有のジョブ名を入力し、終了 をクリックします。

このジョブを追跡するには、デフォルトで ジョブリストへ移動 オプションが選択されています。

実行 タブでジョブの進行状況を表示するには、ジョブとログセンター で検出ジョブを展開します。

OMIMSSC コンソール拡張機能と登録された SCCM との同期

すべてのサーバ (ホストおよび未割り当て) を登録された SCCM から OMIMSSC と同期できます。また、同期後に、サーバに関する最新のファームウェアインベントリ情報を取得します。

OMIMSSC と登録されている SCCM コンソールを同期する前に、次の要件が満たされていることを確認します。

- ・ サーバのデフォルト iDRAC 資格情報プロファイルの詳細を取得します。
- ・ OMIMSSC を SCCM と同期させる前に、Dell デフォルトコレクション をアップデートします。ただし、割り当てられていないサーバが SCCM で検出された場合、そのサーバは Dell サーバコレクションのインポート に追加されます。このサーバを Dell デフォルトコレクション に追加するには、OOB ページでサーバの iDRAC IP アドレスを追加します。
- ・ SCCM にデバイスの重複エントリがないことを確認します。

OMIMSSC と SCCM を同期した後、デバイスが SCCM に存在しない場合は、デバイスコレクション の下に すべての Dell Lifecycle Controller サーバ コレクションと Dell サーバのインポート コレクションが作成され、それぞれのグループにサーバが追加されます。

OMIMSSC コンソール拡張機能と登録された SCVMM との同期

SCVMM コンソールから、すべての Hyper-V ホスト、Hyper-V ホストクラスタ、モジュラー Hyper-V ホスト、未割り当てサーバを、SCVMM 用の OMIMSSC コンソール拡張機能と同期できます。また、同期後に、サーバに関する最新のファームウェアインベントリ情報を取得します。

OMIMSSC を SCVMM と同期する前に、次の点に注意してください。

- ・ サーバのデフォルト iDRAC 資格情報プロファイルの詳細を取得します。
- ・ ホストサーバのベースボード管理コントローラ (BMC) が iDRAC IP アドレスで設定されていない場合、ホストサーバを OMIMSSC と同期できません。そのため、SCVMM で BMC を設定 (詳細については、technet.microsoft.com の MSDN の記事を参照) してから、OMIMSSC を SCVMM と同期します。
- ・ SCVMM は環境内で多数のホストをサポートするため、同期の実行には長い時間がかかります。

登録された Microsoft コンソールとの同期

Microsoft コンソールで管理されているサーバを OMIMSSC に追加するには、次の手順を実行します。

OMIMSSC で、設定と導入 をクリックし、サーバビュー をクリックして、OMIMSSC との同期 をクリックし、登録した MSSC にリストされているすべてのホストを OMIMSSC アプライアンスと同期します。

同期エラーの解決

OMIMSSC と同期されなかったサーバは、iDRAC IP アドレスとホスト名とともにリストされます。

① **メモ:** 無効な資格情報、iDRAC IP アドレス、接続、またはその他の問題が原因で同期されていないすべてのサーバについては、先に問題を解決してから、同期してください。

① **メモ:** 再同期中に、登録された MSSC 環境から削除されたホストサーバは、OMIMSSC コンソール拡張機能の 未割り当てサーバ タブに移動されます。サーバが退避された場合は、そのサーバを未割り当てサーバのリストから削除します。

サーバと問題がある資格情報プロファイルを再同期するには、次の手順を実行します。

1. OMIMSSC で、**設定と導入** をクリックし、**サーバビュー** をクリックして、**同期エラーの解決** をクリックします。
2. 再同期するサーバを選択し、資格情報プロファイルを選択するか、資格情報プロファイルを作成するために **新規作成** をクリックします。
3. ジョブ名を入力し、必要に応じて **ジョブリストに移動** オプションを選択すると、ジョブが送信されると自動的にジョブのステータスが表示されます。
4. **終了** をクリックしてジョブを送信します。

システムロックダウンモードの表示

システムロックダウンモード設定は、第 14 世代以降のサーバの iDRAC で使用できます。この設定をオンにするとファームウェアアップデートなどのシステム構成がロックされます。システムロックダウンモードが有効になると、ユーザーは構成設定を変更できません。この設定は、システムが誤って変更されないようにするためのものです。管理対象サーバでいずれかの操作を実行するには、iDRAC コンソールで設定を無効にします。OMIMSSC コンソールでは、システムロックダウンモードのステータスは、サーバの iDRAC IP アドレスより前にロックイメージで表されます。

- ・ その設定がシステムで有効になっている場合、ロックイメージはサーバの iDRAC IP とともに表示されます。
- ・ その設定がシステムで無効になっている場合、ロックされないイメージがサーバの iDRAC IP とともに表示されます。

① **メモ:** OMIMSSC コンソール拡張機能を起動する前に、管理対象サーバで iDRAC システムロックダウンモードの設定を確認します。

iDRAC システムロックダウンモードの詳細については、dell.com/support にある iDRAC のマニュアルを参照してください。

OMIMSSC からのサーバの削除

サーバを削除するには、次の手順を実行します。

サーバを削除する前に、次の点を考慮してください。

- ・ サーバを削除すると、使用済みライセンスは放棄されます。
- ・ 次の基準に基づいて、OMIMSSC にリストされているサーバを削除できます。
 - ・ **未割り当てサーバ** タブにリストされている未割り当てのサーバ。
 - ・ 登録された SCCM または SCVMM でプロビジョニングされ、OMIMSSC の **ホスト** タブに存在するホストサーバを削除する場合は、SCCM または SCVMM でサーバを削除してから、OMIMSSC からサーバを削除します。

1. OMIMSSC コンソールで **設定と導入** をクリックし、**サーバビュー** をクリックします。
 - ・ 未割り当てのサーバを削除するには、**未割り当てサーバ** タブでサーバを選択し、**削除** をクリックします。
 - ・ ホストサーバを削除するには、**ホストサーバ** タブでサーバを選択し、**削除** をクリックします。
2. 確認 ダイアログボックスで、**はい** をクリックします。

OMIMSSC からのモジュラーシステムの削除

モジュラーシステムを削除するには、次の手順を実行します。

1. OMIMSSC コンソールで、**設定と導入** をクリックし、次に **モジュラーシステムビュー** をクリックします。
2. モジュラーシステムを選択して、**削除** をクリックします。

オペレーティングシステムの導入の準備

管理対象サーバに Windows オペレーティングシステムを導入する前に、WinPE イメージをアップデートし、タスクシーケンス、LC ブートメディアファイル、およびタスクシーケンスメディアのブータブル ISO ファイルを作成します。SCCM コンソールユーザーと SCVMM コンソールユーザーでは、手順が異なります。詳細については、以下の各セクションを参照してください。Windows 以外のオペレーティングシステムを導入する場合は、「[Windows 以外の OS 導入の準備](#)」セクションに記載されているポイントに留意してください。

トピック：

- ・ [WinPE イメージについて](#)
- ・ [SCCM コンソールでのオペレーティングシステム導入の準備](#)
- ・ [Windows 以外のオペレーティングシステムの導入の準備](#)

WinPE イメージについて

Windows プレインストール環境 (WinPE) イメージは、オペレーティングシステムの導入に使用します。SCCM または SCVMM から使用できる WinPE イメージに最新のドライバが含まれていない可能性があるため、アップデートされた WinPE イメージを使用してオペレーティングシステムを導入します。必要なドライバをすべて含む WinPE イメージを作成するには、DTK を使用してイメージをアップデートします。該当するオペレーティングシステム関連のドライバパックが Lifecycle Controller にインストールされていることを確認します。

❗ **メモ:** boot.wim ファイルのファイル名は変更しないでください。

SCCM 用の WIM ファイルの提供

boot.wim ファイルを次の場所 \\shareip\sms_sitecode\OSD\boot\x64\boot.wim からコピーし、OMIMSSC からアクセス可能な共有フォルダに貼り付けます。

たとえば、共有パスの場所 \\shareip\sharefolder\boot.wim などです。

SCVMM 用の WIM ファイルの提供

DTK から最新の起動に必要な Dell ドライバーを挿入するために提供される Boot.WimPE ベース イメージは、SCVMM に PXE サーバーをインストールすることによって生成されます。

1. サーバに Windows Deployment Server (WDS) ロールをインストールし、PXE サーバを SCVMM に追加します。
サーバでの WDS ロールの追加と、PXE サーバの SCVMM への追加については、Microsoft のマニュアルを参照してください。
2. boot.wim ファイルを次の場所 C:\RemoteInstall\DCMgr\Boot\Windows\Images にある PXE サーバからコピーします。
次に、OMIMSSC がアクセスできる共有フォルダに貼り付けます。
たとえば、共有パスの場所 \\shareip\sharefolder\boot.wim などです。

WDS および PXE サーバーは、WinPE ベースの boot.in イメージの生成にのみ必要であり、導入シナリオでは使用されません。

DTK ドライバの解凍

DTK ファイルには、オペレーティングシステムを導入するサーバに必要なファームウェアバージョンが含まれています。

❗ **メモ:** WinPE ISO イメージの作成に最新バージョンの DTK を使用している間に、Dell EMC OpenManage Deployment Toolkit for Windows ファイルを使用します。Dell EMC OpenManage Deployment Toolkit for Windows ファイルには、オペレーティングシステムを導入するシステムに必要なファームウェアバージョンが含まれています。ファイルの最新バージョンを使用し、WinPE アップデートに Dell EMC OpenManage Deployment Toolkit Windows Driver Cabinet ファイルを使用しないでください。

1. DTK 実行可能ファイルをダブルクリックします。

- DTK ドライバを解凍するには、フォルダを選択します。
たとえば、C:\DTK501 などです。
- 解凍した DTK フォルダを共有フォルダにコピーします。
たとえば、\\Shareip\sharefolder\DTK\DTK501 などです。

 **メモ:** SCVMM SP1 から SCVMM R2 にアップグレードしている場合は、Windows PowerShell 4.0 へのアップグレードが必要です。WinPE ISO イメージを作成します。

WinPE イメージのアップデート

各 WinPE アップデートジョブには、一意のジョブ名が割り当てられます。

- OMIMSSC で、**WinPE アップデート** を選択します。
WinPE アップデート ページが表示されます。
- イメージソースのカスタム **WinPE イメージパス** で、WinPE イメージパスとイメージが存在するファイル名を入力します。
たとえば、\\Shareip\sharefolder\WIM\boot.wim などです。
- DTK パスの下で、**DTK ドライバパス** に、Dell EMC Deployment Toolkit ドライバの場所を入力します。
たとえば、\\Shareip\sharefolder\DTK\DTK501 などです。
- 出力ファイルの **ISO または WIM ファイル名** には、WinPE イメージのアップデート後に生成されるファイルタイプとともにファイル名を入力します。

次のいずれかの出力ファイルタイプを入力します。

- SCCM 用 WIM ファイル
- SCVMM 用 ISO ファイル

- 資格情報プロファイルの下で、**資格情報プロファイル** に、WinPE イメージが保存されている共有フォルダへのアクセス権を持つ資格情報を入力します。
- (オプション) ジョブのリストを表示するには、**ジョブリストに移動** を選択します。
各 Windows プレインストール環境 (WinPE) アップデートに、固有のジョブ名が割り当てられています。
- アップデート** をクリックします。
前のステップで指定したファイル名を持つ WinPE イメージは、\\shareip\sharefolder\WIM に作成されます。

SCCM コンソールでのオペレーティングシステム導入の準備

SCCM コンソールで OMIMSSC を使用して検出された管理対象サーバにオペレーティングシステムを導入する前に、Dell EMC 固有またはカスタムのタスクシーケンス、LC ブートメディアファイル、およびタスクシーケンスメディアのブータブル ISO ファイルを作成します。

タスクシーケンス - SCCM

タスクシーケンスは、SCCM を使用して管理対象システムにオペレーティングシステムを導入するために使用される一連のコマンドです。

Operational Template (運用テンプレート) を作成する前に、次の前提条件を完了することをお勧めします。

- Configuration Manager で、システムが **アセットおよびコンプライアンス > デバイスコレクション > すべての Dell Lifecycle Controller** サーバで検出され、存在していることを確認してください。詳細については、「[サーバの検出](#)」を参照してください。
- システムに最新の BIOS バージョンをインストールします。
- システムに Lifecycle Controller の最新バージョンをインストールします。
- システムに iDRAC ファームウェアの最新バージョンをインストールします。

 **メモ:** Configuration Manager コンソールは常に管理者権限を使用して起動します。

タスクシーケンスのタイプ

タスクシーケンスは、次の 2 とおりの方法で作成できます。

- OMIMSSC 展開テンプレートを使って Dell 固有のタスクシーケンスを作成する。
- カスタムタスクシーケンスを作成する。

タスクシーケンスは、コマンドの成功または失敗に関わらず、次のタスクシーケンスのステップに進みます。

Dell 固有のタスクシーケンスの作成

SCCM の **OMIMSSC サーバ展開テンプレート** を使って Dell のタスクシーケンスを作成するには、次の手順に従ってください。

1. Configuration Manager を起動します。
Configuration Manager コンソール画面が表示されます。
2. 左ペインで、ソフトウェアライブラリ > 概要 > オペレーティングシステム > タスクシーケンス の順に選択します。
3. タスクシーケンス を右クリックしてから、**OMIMSSC サーバ展開 > OMIMSSC サーバ展開テンプレートの作成** の順に選択します。
OMIMSSC サーバ展開タスクシーケンスウィザード が表示されます。
4. **タスクシーケンス名** フィールドにタスクシーケンスの名前を入力します。
5. ドロップダウンリストから使用する起動イメージを選択します。
メモ: 作成した Dell カスタムブートイメージの使用が推奨されます。
6. **オペレーティングシステムのインストール** で、オペレーティングシステムのインストールタイプを選択します。このオプションは次のとおりです。
 - ・ OS WIM イメージを使用
 - ・ スクリプトによる OS インストール
7. **使用するオペレーティングシステムパッケージ** ドロップダウンメニューから、オペレーティングシステムパッケージを選択します。
8. 使用するパッケージに **unattend.xml** が含まれている場合は、**unattend.xml 情報を含むパッケージ** メニューからそれを選択してください。それ以外の場合は、**<今は選択しない>** を選択します。
9. **作成** をクリックします。
作成されたタスクシーケンス ウィンドウが、作成したタスクシーケンスの名前と共に表示されます。
10. 表示される確認メッセージボックスで、**閉じる** をクリックします。

カスタムタスクシーケンスの作成

1. Configuration Manager コンソールを起動します。
Configuration Manager コンソールが表示されます。
2. 左ペインで、ソフトウェアライブラリ > 概要 > オペレーティングシステム > タスクシーケンス の順に選択します。
3. タスクシーケンス を右クリックし、**タスクシーケンスの作成** をクリックします。
タスクシーケンスの作成 ウィザードが表示されます。
4. **新しいカスタムタスクシーケンスの作成** を選択してから、**次へ** をクリックします。
5. **タスクシーケンス名** テキストボックスにタスクシーケンスの名前を入力します。
6. 作成した Dell 起動イメージを指定し、**次へ** をクリックします。
設定の確認 画面が表示されます。
7. 設定内容を確認して **次へ** をクリックします。
8. 表示される確認メッセージボックスで、**閉じる** をクリックします。

タスクシーケンスの編集

- メモ:** SCCM 2016 および 2019 でタスクシーケンスを編集中の場合、オブジェクト参照が見つからないというメッセージに、セットアップウィンドウと ConfigMgr パッケージのリストは表示されません。パッケージを追加してから、タスクシーケンスを保存します。

1. Configuration Manager コンソールを起動します。
Configuration Manager 画面が表示されます。
2. 左ペインで、[ソフトウェアライブラリ] > [オペレーティングシステム] > [タスクシーケンス] の順に選択します。
3. 編集するタスクシーケンスを右クリックし、**編集** をクリックします。
タスクシーケンスエディタウィンドウが表示されます。
4. [追加] > [Dell 導入] > [Dell Lifecycle Controller からドライバーを適用] の順にクリックします。
Dell サーバー導入のカスタムアクションがロードされます。タスクシーケンスを変更できるようになります。
メモ: タスクシーケンスを初めて編集するときは、[Windows のセットアップと Configuration Manager のエラーメッセージ] が表示されます。エラーを解決するには、Configuration Manager クライアントアップグレードパッケージを作成して選択します。パッケージの作成の詳細については、[technet.microsoft.com](https://technet.microsoft.com/ja-jp/configmgr/10/ConfigurationManagerManual) の「Configuration Manager マニュアル」を参照してください。

- メモ:** SCCM 2016 および 2019 でタスク シーケンスを編集する場合、オブジェクト参照が見つからないというメッセージに、セットアップ ウィンドウと ConfigMgr パッケージのリストは表示されません。したがって、パッケージを追加してから、タスクシーケンスを保存する必要があります。

Lifecycle Controller 起動メディアのデフォルト共有場所の設定

Lifecycle Controller 起動メディアのデフォルト共有場所を設定するには、次の手順を実行します。

1. **Configuration Manager** で、**管理 > サイトの構成 > サイト** を選択します。
2. **<サイトサーバ名>** を右クリックし、**サイトコンポーネントの設定** を選択してから、**帯域外管理** を選択します。
帯域外管理コンポーネントプロパティウィンドウ が表示されます。
3. **Lifecycle Controller** タブをクリックします。
4. カスタム **Lifecycle Controller 起動メディアのデフォルト共有場所** の下で **変更** をクリックして、カスタム Lifecycle Controller 起動メディアのデフォルト共有場所を変更します。
5. **共有情報の変更** ウィンドウで、新しい共有名と共有パスを入力します。
6. **OK** をクリックします。

タスクシーケンスメディアのブータブル ISO の作成

1. Configuration Manager のソフトウェアライブラリでタスクシーケンスを右クリックし、**タスクシーケンスメディアの作成** を選択します。

メモ: このウィザードを開始する前に、すべての配布ポイントで起動イメージの管理とアップデートを行います。

メモ: OMIMSSC は、タスクシーケンスメディアの作成にスタンドアロンメディアを使用した方法をサポートしていません。
2. **タスクシーケンスメディアウィザード** で、**ブータブルメディア** を選択し、**無人オペレーションシステム展開を許可** オプションを選択して、**次へ** をクリックします。
3. **CD/DVD セット** を選択し、**参照** をクリックして、ISO イメージの保存場所を選択します。
4. **次へ** をクリックします。
5. **パスワードでメディアを保護する** チェックボックスをオフにし、**次へ** をクリックします。
6. **PowerEdge server Deployment Boot Image** を参照して選択します。

メモ: DTK のみを使用して作成した起動イメージを使用します。
7. ドロップダウンメニューから配布ポイントを選択し、**子サイトからの配布ポイントを表示する** チェックボックスをオンにします。
8. **次へ** をクリックします。
タスクシーケンスメディア情報が記載された **サマリー** 画面が表示されます。
9. **次へ** をクリックします。
進捗バーが表示されます。
10. 画像の作成が完了したら、ウィザードを閉じます。

Windows 以外のオペレーティングシステムの導入の準備

管理対象システムに Windows 以外のオペレーティングシステムを導入する場合は、次の点に注意してください。

- ・ ISO ファイルは、Network File System バージョン (NFS) または Common Internet File System (CIFS) 共有で、読み取り/書き込みアクセスが可能です。
- ・ 管理対象システムで仮想ドライブが使用可能であることを確認します。
- ・ ESXi オペレーティングシステムを導入した後、サーバは SCCM の **Managed Lifecycle Controller (ESXi)** コレクションに移動します。
- ・ Windows 以外のオペレーティングシステムを導入した後、サーバは **デフォルトの Windows 以外のホストアップデートグループ** に移動します。

- ・ ネットワークアダプタは、オペレーティングシステムを導入しているサーバー内のネットワークポートに接続することをお勧めします。

Operational Template (運用テンプレート)

Operational Template (運用テンプレート) には、Microsoft 環境内の PowerEdge サーバおよびモジュラーシステムの完全なデバイス構成が含まれ、オペレーティングシステムの導入とファームウェアのアップデートに使用されます。

Operational Template (運用テンプレート) は、参照サーバー (ゴールデン サーバー) のハードウェアとファームウェアを他の多くのサーバーに複製し、同時にオペレーティングシステムをプロビジョニングします。これには、参照サーバーの現在の値で設定された属性を持つファームウェア、ハードウェア、オペレーティングシステム コンポーネントが含まれます。これらの値は、このテンプレートをデバイスに適用する前に変更できます。また、割り当てられた Operational Template (運用テンプレート) に対するコンプライアンスステータスを確認し、コンプライアンスレポートをサマリページに表示することもできます。

参照サーバーで使用可能なこれらのコンポーネントのみが取得され、Operational Template (運用テンプレート) コンポーネントとして動的に表示されます。たとえば、サーバーに FC コンポーネントがない場合は、Operational Template (運用テンプレート) に同じコンポーネントは表示されません。

参照サーバおよび参照モジュラーシステムの詳細については、「[参照サーバの構成について](#)」および「[参照モジュラーシステムの構成について](#)」を参照してください。

次の表に、Operational Template (運用テンプレート) に記載されているコンポーネントと、各コンポーネントの機能の表示と導入を示します。

表 2. Operational Template (運用テンプレート) の機能

コンポーネント	設定の導入	ファームウェアアップデート	設定の表示	運用テンプレートのコンプライアンスステータス
BIOS	はい	はい	はい	はい
iDRAC	はい	はい	はい	はい
NIC/CNA	はい	はい	はい	はい
RAID	はい	はい	はい	はい
FC	はい	はい	はい	はい
Windows	はい	—	いいえ	—
RHEL	はい	—	いいえ	—
ESXI	はい	—	いいえ	—
管理モジュール	はい	はい	はい	はい

トピック：

- ・ [事前定義された Operational Template \(運用テンプレート\)](#)
- ・ [参照サーバからの Operational Template \(運用テンプレート\) の作成](#)
- ・ [参照モジュラーシステムからの Operational Template \(運用テンプレート\) の作成](#)
- ・ [Operational Template \(運用テンプレート\) の表示](#)
- ・ [Operational Template \(運用テンプレート\) の変更](#)
- ・ [複数サーバーでの運用テンプレートを使用したシステム固有値 \(プール値\) の設定](#)
- ・ [Operational Template \(運用テンプレート\) の削除](#)
- ・ [Operational Template \(運用テンプレート\) の割り当てとサーバの Operational Template \(運用テンプレート\) コンプライアンスの実行](#)
- ・ [サーバへの Operational Template \(運用テンプレート\) の導入](#)
- ・ [モジュラーシステムの Operational Template \(運用テンプレート\) の割り当て](#)
- ・ [モジュラーシステムへの Operational Template \(運用テンプレート\) の導入](#)
- ・ [Operational Template \(運用テンプレート\) の割り当て解除](#)

事前定義された Operational Template (運用テンプレート)

事前定義されたテンプレートには、Storage Spaces Direct クラスタまたは Windows Server Software-Defined (WSSD) を作成するために必要なすべての設定が含まれています。OMIMSSC では、R740XD、R740XD2、R640 の Storage Spaces Direct Ready Node モデルでのクラスタの作成とその固有のネットワーク アダプターがサポートされています。

表 3. 事前定義された Operational Template (運用テンプレート) のリスト

Operational Template (運用テンプレート) の名前	説明
R740XD_Mellanox_S2D_Template	このテンプレートは、Mellanox カードを搭載した R740XD Storage Spaces Direct Ready ノードモデルに使用します。
R740XD2_Mellanox_S2D_Template	このテンプレートは、Mellanox カードを搭載した R740XD2 Storage Spaces Direct Ready Node モデルに使用します。
R740XD_QLogic_S2D_Template	このテンプレートは、QLogic カードを搭載した R740XD Storage Spaces Direct Ready ノードモデルに使用します。
R740XD2_QLogic_S2D_Template	このテンプレートは、QLogic カードを搭載した R740XD2 Storage Spaces Direct Ready Node モデルに使用します。
R640_Mellanox_S2D_Template	このテンプレートは、Mellanox カードを搭載した R640 Storage Spaces Direct Ready ノードモデルに使用します。
R640_QLogic_S2D_Template	このテンプレートは、QLogic カードを搭載した R640 Storage Spaces Direct Ready ノードモデルに使用します。

① メモ: Dell EMC Microsoft Storage Spaces Direct (S2D) Ready Nodes - Microsoft Azure Stack HCI 機能をプレビューとして利用できます。2019 年末までに完全なサポートをご利用いただけます。詳細については、「[Dell EMC Solutions for Microsoft Azure Stack HCI](#)」を参照してください。

Operational Template (運用テンプレート) を導入する前に、次の点に注意してください。

- 事前定義されたテンプレートは、SCVMM 2016 および 2019 を実行している管理対象システムでのみ使用できます。
- 事前定義された Storage Spaces Direct テンプレートには、スロット 1 の NIC カードが表示されます。ただし、Operational Template (運用テンプレート) の導入中は、正しいスロットに NIC 設定が適用されます。また、デバイスに複数の NIC カードがある場合は、すべての NIC カードが、Operational Template (運用テンプレート) の指定と同様に設定されます。

参照サーバからの Operational Template(運用テンプレート) の作成

Operational Template (運用テンプレート) を作成する前に、次のタスクが完了していることを確認します。

- 検出** 機能を使用して、参照サーバを検出します。サーバの検出の詳細については、「[手動検出を使用したサーバの検出](#)」を参照してください。
- SCCM ユーザーの場合：
 - タスクシーケンスを作成します。詳細については、「[タスクシーケンスの作成](#)」を参照してください。
 - Windows 以外のオペレーティングシステムを導入する場合は、デバイスタイプ資格情報プロファイルを用意します。詳細については、「[資格情報プロファイルの作成](#)」を参照してください。
- SCVMM ユーザーの場合：
 - ハイパーバイザープロファイルを作成します。ハイパーバイザープロファイルの作成の詳細については、「[ハイパーバイザープロファイルの作成](#)」を参照してください。
 - Windows 導入の場合は、デバイスタイプ資格情報プロファイルを用意します。詳細については、「[資格情報プロファイルの作成](#)」を参照してください。
- デフォルトのアップデートソースを使用していない場合は、アップデートソースを作成します。詳細については、「[アップデートソースの作成](#)」を参照してください。

参照サーバの設定をキャプチャすると、Operational Template (運用テンプレート) を作成できます。設定をキャプチャしたら、テンプレートを直接保存するか、必要に応じてアップデートソース、ハードウェア構成、および Windows コンポーネントの属性を編集します。これでテンプレートを保存し、PowerEdge の同種サーバで使用できるようになります。

1. OMIMSSC で、次のいずれかの操作を実行して Operational Template (運用テンプレート) を開きます。
 - ・ OMIMSSC ダッシュボードで、**運用テンプレートの作成** をクリックします。
 - ・ ナビゲーション ペインで、**プロファイル運用テンプレート** を順にクリックして、**作成** をクリックします。

運用テンプレート ウィザードが表示されます。

2. テンプレートの名前と説明を入力します。
3. デバイスのタイプを選択し、参照デバイスの IP アドレスを入力して、**次へ** をクリックします。

メモ: iDRAC 2.0 以降の参照サーバの構成をキャプチャできます。

4. デバイスコンポーネント で、コンポーネントをクリックすると、使用可能な属性とその値が表示されます。
コンポーネントは次のとおりです。

- ・ ファームウェアアップデート
- ・ RAID、NIC、および BIOS などのハードウェアコンポーネント。

メモ: iDRAC Embedded 1 コンポーネントでは、ユーザー管理者権限 属性の権限と値は次のとおりです。

表 4. 権限値テーブル

値	権限
1	ログイン
2	設定
4	ユーザーの設定
8	ログ
16	システム制御
32	仮想コンソールへのアクセス
64	仮想メディアへのアクセス
128	システム操作
256	デバッグ
499	オペレータ権限

- ・ オペレーティングシステム—Windows、ESXi、または RHEL のいずれかを選択します。

5. 水平スクロールバーを使用してコンポーネントを探します。コンポーネントを選択し、グループを展開して、その属性値を編集します。垂直スクロールバーを使用して、コンポーネントのグループと属性を編集します。
6. Operational Template (運用テンプレート) が適用されると、選択したコンポーネントの設定が管理対象デバイスに適用されるため、各コンポーネントに対してチェックボックスをオンにします。ただし、参照デバイスのすべての設定がキャプチャされ、テンプレートに保存されます。

メモ: チェックボックスで各コンポーネントに対して行った選択に関係なく、すべての設定がテンプレートに取り込まれます。

オペレーティングシステム コンポーネントで、要件に応じて次のいずれかのオプションの手順を実行します。

- ・ SCCM への Windows オペレーティングシステムの導入については、「[SCCM 用の OMIMSSC コンソール拡張機能用の Windows コンポーネント](#)」を参照してください。
- ・ SCVMM での Windows オペレーティングシステムの導入については、「[SCVMM 用の OMIMSSC コンソール拡張機能用の Windows コンポーネント](#)」を参照してください。
- ・ OMIMSSC
- ・ Windows 以外のオペレーティングシステムの導入については、「[OMIMSSC コンソール拡張機能用の Windows 以外のコンポーネント](#)」を参照してください。

7. プロファイルを保存するには、**終了** をクリックします。

SCCM 用の OMIMSSC コンソール拡張機能用の Windows OS コンポーネント

サーバの Operational Template (運用テンプレート) を作成または編集しながら、Windows コンポーネントに対して次の手順を実行します。

1. タスクシーケンスと導入方法を選択します。

① | メモ: ドロップダウンメニューには、コレクションに導入されているタスクシーケンスだけが表示されます。

タスクシーケンスについての詳細は、「[タスクシーケンス](#)」を参照してください。

2. 導入方法について、以下のいずれかのオプションを選択します。

- ・ ネットワーク ISO で起動—指定された ISO を再起動します。
- ・ ISO を vFlash にステージングして再起動—ISO を vFlash にダウンロードして再起動します。
- ・ vFlash で再起動—vFlash で再起動します。ISO が vFlash にあることを確認します。

① | メモ: vFlash で再起動 オプションを使用するには、vFlash 上で作成されたパーティションのラベル名が ISOIMG である必要があります。

3. (オプション) ネットワーク共有にあるイメージを使用するには、フォールバックとしてネットワーク ISO を使用 オプションを選択します。

4. LC ブートメディアイメージファイルを入力します。

5. オペレーティングシステムに必要なドライバを選択します。

SCVMM 用の OMIMSSC コンソール拡張機能用の Windows コンポーネント

サーバの Operational Template (運用テンプレート) を作成または編集しながら、Windows コンポーネントに対して次の手順を実行します。

ハイパーバイザプロファイル、資格情報プロファイル、および サーバ IP 取得先 の順に選択します。

① | メモ: ホスト名、および サーバ管理 NIC は常にプール値です。サーバ管理 NIC の場合は、オペレーティングシステムが SCVMM と通信するために使用するネットワーク ポートの MAC アドレスを指定します。

サーバ IP 取得先 を 静的 として選択し、SCVMM で論理ネットワークを構成したことを確認すると、次のフィールドがプール値になります。

- ・ コンソール論理ネットワーク
- ・ IP サブネット
- ・ 静的 IP アドレス

OMIMSSC コンソール拡張機能用の Windows 以外のコンポーネント

サーバの Operational Template (運用テンプレート) を作成または編集しながら、Windows 以外のコンポーネントに対して次の手順を実行します。

Windows 以外のオペレーティングシステム、オペレーティングシステムのバージョン、共有フォルダのタイプ、ISO ファイル名、ISO ファイルの場所、オペレーティングシステムのルートアカウントのパスワードを選択します。

(オプション) CIFS 共有にアクセスするための Windows タイプの資格情報プロファイルを選択します。

ホスト名はプール値であり、DHCP オプションを無効にすると、次のフィールドはプール値になります。

- ・ IP アドレス
- ・ サブネットマスク
- ・ デフォルトゲートウェイ
- ・ プライマリ DNS
- ・ セカンダリ DNS

① | メモ: Windows 以外のオペレーティングシステムの導入では、ネットワークファイルシステム(NFS)および Common Internet File System (CIFS) 共有タイプがサポートされます。

参照モジュールシステムからの Operational Template (運用テンプレート) の作成

Operational Template (運用テンプレート) を作成する前に、次のタスクが完了していることを確認します。

- ・ **検出** 機能を使用して、モジュールシステムを検出します。モジュールシステムの検出の詳細については、「[手動検出を使用したモジュールシステムの検出](#)」を参照してください。
- ・ デフォルトのアップデートソースを使用していない場合は、アップデートソースを作成します。詳細については、「[アップデートソースの作成](#)」を参照してください。

参照モジュールシステムの設定をキャプチャすることで、Operational Template (運用テンプレート) を作成できます。設定をキャプチャしたら、テンプレートを直接保存するか、必要に応じてアップデートソースとハードウェア構成の属性を編集できます。これで、テンプレートを保存し、それを使用して同じモデルの他のモジュールシステムを設定することができます。

- ① **メモ:** 他の MX7000 デバイスで **Active Directory (AD) ユーザー**を設定する場合は、すべての AD ユーザーが設定されている MX7000 モジュールシステムから **Operational Template (運用テンプレート)** を作成する必要があります。
- ① **メモ:** ユーザーアカウントのパスワードは、セキュリティ上の理由から、参照モジュールシステムから運用テンプレートにキャプチャされません。**Operational Template (運用テンプレート)** を編集して新しいユーザーアカウントとパスワードを追加してから、**管理対象モジュールシステム**で **Operational Template (運用テンプレート)** を適用します。それ以外の場合は、ユーザーアカウントに変更を加えずに **Operational Template (運用テンプレート)** を適用でき、参照モジュールシステムで使用されているものと同じパスワードが**管理対象モジュールシステム**に適用されます。

1. OMIMSSC で、次のいずれかの操作を実行して Operational Template (運用テンプレート) を開きます。
 - ・ OMIMSSC ダッシュボードで、**運用テンプレートの作成** をクリックします。
 - ・ ナビゲーション ペインで、**プロファイル運用テンプレート** を順にクリックして、**作成** をクリックします。

運用テンプレート ウィザードが表示されます。

2. テンプレートの名前と説明を入力します。
3. デバイスコンポーネントで、コンポーネントをクリックすると、使用可能な属性とその値が表示されます。コンポーネントは次のとおりです。

- ・ ファームウェアアップデート
- ・ 内蔵の管理モジュール

- ① **メモ:** ウェブサーバ 属性が有効であることを確認します。このコンポーネントが有効でない場合、**Operational Template (運用テンプレート)** の導入後に OMIMSSC から MX7000 モジュールシステムにアクセスできなくなります。

- ① **メモ:** SNMP 設定 および シスログ設定 の場合は、各属性で使用可能な 4 つの設定すべてを選択して、**管理対象デバイス**に適用します。

4. 水平スクロールバーを使用してコンポーネントを探します。コンポーネントを選択し、グループを展開して、その属性値を編集します。垂直スクロールバーを使用して、コンポーネントのグループと属性を編集します。
5. Operational Template (運用テンプレート) が適用されると、選択したコンポーネントの設定が管理対象デバイスに適用されるため、各コンポーネントに対してチェックボックスをオンにします。ただし、参照デバイスのすべての設定がキャプチャされ、テンプレートに保存されます。
6. プロファイルを保存するには、**終了** をクリックします。

Operational Template (運用テンプレート) の表示

作成された Operational Template (運用テンプレート) を表示するには、次の手順を実行します。

OMIMSSC コンソールで、**プロファイル**と**テンプレート** をクリックし、**運用テンプレート** をクリックします。作成されたすべてのテンプレートがここに表示されます。

Operational Template (運用テンプレート) の変更

運用テンプレートのアップデートソース、ハードウェア構成、オペレーティングシステムを変更できます。

Operational Template (運用テンプレート) を変更する前に、次の点に注意してください。

- いくつかの属性の値は、他の属性の値に依存します。属性の値を手動で変更する場合は、相互に依存する属性も変更してください。これらの相互に依存する値が適切に変更されていない場合、ハードウェア構成の適用が失敗する可能性があります。
- Operational Template (運用テンプレート) を作成すると、システム固有の属性を含む可能性がある指定された参照サーバーからすべてのハードウェア構成が取得されます。たとえば、静的 IPv4 アドレス、Asset Tag などです。システム固有の属性を設定するには、「[Operational Template \(運用テンプレート\)](#)」を参照してください
- Operational Template (運用テンプレート) の属性には、参照サーバーの現在の値が割り当てられます。Operational Template (運用テンプレート) には、属性に適用可能な他の値も表示されます。
- 定義済みの Operational Template (運用テンプレート) とカスタムで作成された Operational Template (運用テンプレート) を変更するには、次の手順を実行します。

メモ: (SCVMM ユーザーおよびサーバーの場合のみ) すべての必須属性。(運用テンプレートで取得される必須属性は、S2D クラスタ用に Dell EMC が推奨する属性です) **Storage Spaces Direct** に必要な属性は、事前定義された **Storage Spaces Direct** テンプレートの読み取り専用属性です。ただし、テンプレートの名前、オペレーティングシステムコンポーネント、必須ではないハードウェア構成属性は編集できます

- 編集するテンプレートを選択し、**編集** をクリックします。
Operational Template (運用テンプレート) ページが表示されます。
- (オプション) テンプレートの名前と説明を編集して、**次へ** をクリックします。
- デバイスコンポーネント で使用可能な属性とその値を表示するには、コンポーネントをクリックします。
- 使用可能な属性の値を変更します。

メモ: Operational Template (運用テンプレート) が適用されると、選択したコンポーネントの設定だけが管理対象システムに適用されるため、適用する各コンポーネントのチェックボックスをオンにします。

メモ: Operational Template (運用テンプレート) を編集する場合、Advanced Host Controller Interface (AHCI) コンポーネントのほとんどの読み取り専用の属性は編集可能として表示されません。ただし、これらの読み取り専用属性が設定されて Operational Template (運用テンプレート) が展開されている場合、デバイスには変更が加えられません。

- MX7000 モジュラーシステムの場合：
 - 設定は、グループのすべての属性が選択されている場合にのみ適用されます。したがって、グループ内の属性の1つを変更する場合でも、グループ内のすべての属性を選択してください。
 - Operational Template (運用テンプレート) を使用して新しいユーザーを追加するには、Operational Template (運用テンプレート) をキャプチャしたときにエクスポートされた既存ユーザーのすべての属性を選択し、最近追加したユーザーグループを選択して、Operational Template (運用テンプレート) を保存します。
 - タイムゾーンの値を指定する方法については、[付録](#)を参照してください。
- オペレーティングシステムコンポーネントに対して、要件に応じて次のいずれかのタスクを実行します。
 - SCCM への Windows オペレーティングシステムの導入については、「[SCCM 用の OMIMSSC コンソール拡張機能用の Windows コンポーネント](#)」を参照してください。
 - SCVMM での Windows オペレーティングシステムの導入については、「[SCVMM 用の OMIMSSC コンソール拡張機能用の Windows コンポーネント](#)」を参照してください。
 - OMIMSSC
 - Windows 以外のオペレーティングシステムの導入については、「[OMIMSSC コンソール拡張機能用の Windows 以外のコンポーネント](#)」を参照してください。
- プロファイルを保存するには、**終了** をクリックします。

複数サーバーでの運用テンプレートを使用したシステム固有値 (プール値) の設定

OMIMSSC は、デバイスの設定をそのまま取得します。システム固有の属性、たとえば、iDRAC の静的 IPv4 アドレスは、運用テンプレートにプール値として表示されます。依存属性であるプール値属性はデフォルトでは選択されず、他の属性はデフォルトで選択されます。

- 編集するテンプレートを選択し、**編集** をクリックします。
Operational Template (運用テンプレート) ページが表示されます。
- (オプション) テンプレートの名前と説明を編集して、**次へ** をクリックします。
- デバイスコンポーネント で使用可能な属性とその値を表示するには、コンポーネントをクリックします。
- [属性グループ]** を展開します。属性の値がプール値の場合、属性はシステム固有の属性とされます。
- これらのシステム固有属性への入力、運用テンプレートの導入時に **[プール属性のエクスポート]** を使用して、CSV ファイルを介して複数のサーバーに対して行うことができます。「[サーバーへの運用テンプレートの導入](#)」を参照してください。

6. これらのシステム固有属性を適用しない場合は、これらの属性（手順3で説明）を指定し、運用テンプレートの編集集中に選択を解除します。

Operational Template（運用テンプレート）の削除

Operational Template（運用テンプレート）を削除するには、次の手順を実行します。

Operational Template（運用テンプレート）を削除する前に、次のことを確認します。

- ・ 選択した Operational Template（運用テンプレート）が、どのサーバまたはモジュールシステムにも関連付けられていないこと。デバイスに関連付けられている場合は、テンプレートの割り当てを解除してからテンプレートを削除します。
- ・ Operational Template（運用テンプレート）に関連付けられているジョブが実行中でないこと。
- ・ 事前定義されたテンプレートは削除できないため、事前定義された Operational Template（運用テンプレート）が選択されていないこと。
- ・ Operational Template（運用テンプレート）を削除する手順が同じであること。

削除するテンプレートを選択し、**削除** をクリックします。確認するために、**はい** をクリックします。

Operational Template（運用テンプレート）の割り当てとサーバの Operational Template（運用テンプレート）コンプライアンスの実行

Operational Template（運用テンプレート）をサーバに割り当て、Operational Template（運用テンプレート）コンプライアンスを実行します。Operational Template（運用テンプレート）をサーバに割り当てた後でのみ、その Operational Template（運用テンプレート）のコンプライアンスステータスを表示できます。テンプレートをサーバに割り当てることで、サーバの設定を Operational Template（運用テンプレート）と比較できます。Operational Template（運用テンプレート）を割り当てると、コンプライアンスジョブが実行され、完了時に Operational Template（運用テンプレート）のステータスが表示されます。

Operational Template（運用テンプレート）を割り当てるには、次の手順を実行します。

1. OMIMSSC で、[**設定と導入**] をクリックし、[**サーバービュー**] をクリックします。必要なサーバを選択して、**運用テンプレートの割り当てとコンプライアンスの実行** をクリックします。
[**Operational Template（運用テンプレート）の割り当てとコンプライアンスの実行**] ページが表示されます。
2. **Operational Template（運用テンプレート）** ドロップダウンメニューからテンプレートを選択し、ジョブ名を入力してから、**割り当て** をクリックします。

Operational Template（運用テンプレート）ドロップダウンリストには、前のステップで選択したデバイスと同じタイプのテンプレートが表示されます。

デバイスがテンプレートに準拠している場合は、チェックマークが付いた **緑色** のボックスが表示されます。

Operational Template（運用テンプレート）がデバイスに正常に適用されていない場合、または Operational Template（運用テンプレート）のハードウェアコンポーネントが選択されていない場合は、**情報** シンボルボックスが表示されます。

デバイスがテンプレートに準拠していない場合は、**警告** シンボルボックスが表示されます。割り当てられた Operational Template（運用テンプレート）にデバイスが準拠していない場合に限り、テンプレート名のリンクをクリックすることでサマリーレポートを表示できます。[**Operational Template（運用テンプレート）コンプライアンスサマリーレポート**] ページには、テンプレートとデバイスの相違点のサマリーレポートが表示されます。

詳細レポートを表示するには、次の手順を実行します。

- a. **詳細なコンプライアンスの表示** をクリックします。ここでは、割り当てられたテンプレートとは異なる属性値を持つコンポーネントが表示されます。Operational Template（運用テンプレート）コンプライアンスのさまざまな状態が色別で表示されます。
 - ・ 黄色の警告シンボル—準拠していません。デバイスの設定がテンプレートの値と一致しないことを表します。
 - ・ 赤色のボックス—コンポーネントがデバイスに存在しないことを示します。

サーバへの Operational Template (運用テンプレート) の導入

管理対象サーバにオペレーティングシステムを導入するには、導入に使用される管理システムとオペレーティングシステムイメージに KB 記事 4093492 以降がインストールされていることを確認します。

サーバに割り当てられた Operational Template (運用テンプレート) を導入することにより、Windows および Windows 以外のオペレーティングシステム (ESXi および RHEL) を導入できます。

① メモ: 第 12 世代のサーバに Windows 2016 または Windows 2019 オペレーティングシステムを導入した後、デバイス マネージャーに黄色い警告が表示された場合は、Dell.com/support から適切なドライバーをダウンロードしてインストールします。

① メモ: サーバでロックダウン モードが有効になっている場合、サーバへの運用テンプレートの導入はブロックされます。

1. OMIMSSC で、[設定と導入] をクリックし、[サーバ ビュー] をクリックします。テンプレートを導入するサーバを選択し、**Operational Template (運用テンプレート) の導入** をクリックします。
Operational Template (運用テンプレート) の導入 ページが表示されます。

2. (オプション) 選択したテンプレートでプール値としてマークされているすべての属性を .CSV ファイルにエクスポートするには、**プール属性のエクスポート** をクリックします。エクスポートしない場合は、ステップ 4 に進みます。

① メモ: プールの値をエクスポートする前に、OMIMSSC コンソール拡張機能がインストールされている OMIMSSC の IP アドレスをローカルイントラネットサイトに追加します。IE ブラウザで IP アドレスを追加する方法の詳細については、『*System Center Configuration Manager および System Center Virtual Machine Manager 用 Microsoft System Center 向け Dell EMC OpenManage Integration バージョン 7.1 インストールガイド*』の「ブラウザ設定」を参照してください。

3. プール値をエクスポートした場合は、プール値としてマークされているすべての属性の値を .CSV ファイルに入力し、ファイルを保存します。**属性値プール**で、ファイルを選択してインポートします。

.CSV ファイルの形式は、attribute-value-pool.csv です。

① メモ: iDRAC IP または iDRAC の資格情報が変更された後でジョブが OMIMSSC によって追跡されず、iDRAC でジョブが成功しても失敗とマークされる可能性があるため、すべて適切な属性を持つ .CSV ファイルを選択し、iDRAC IP または iDRAC の資格情報がテンプレートによって変更されないことを確認します。

4. 一意のジョブ名、ジョブの説明を入力し、**導入** をクリックします。

このジョブを追跡するには、デフォルトでジョブリストへ移動 オプションが選択されています。

モジュラーシステムの Operational Template (運用テンプレート) の割り当て

Operational Template (運用テンプレート) をモジュラーシステムに割り当て、Operational Template (運用テンプレート) コンプライアンスを実行します。この操作では、選択したテンプレートをモジュラーシステムに割り当てることで、モジュラーシステムと Operational Template (運用テンプレート) の設定を比較します。Operational Template (運用テンプレート) を割り当てると、コンプライアンスジョブが実行され、完了時にコンプライアンスステータスが表示されます。

モジュラーシステムの Operational Template (運用テンプレート) を割り当てるには、次の手順を実行します。

1. OMIMSSC で、**設定と導入** をクリックし、**モジュラーシステムビュー** をクリックします。必要なモジュラーシステムを選択し、**運用テンプレートの割り当て** をクリックします。

[**Operational Template (運用テンプレート) の割り当て**] ページが表示されます。

2. **Operational Template (運用テンプレート)** ドロップダウンメニューからテンプレートを選択し、ジョブ名を入力してから、**割り当て** をクリックします。

デバイスがテンプレートに準拠している場合は、チェックマークが付いた **緑色** のボックスが表示されます。

Operational Template (運用テンプレート) がデバイスに正常に適用されていない場合、または Operational Template (運用テンプレート) のハードウェアコンポーネントが選択されていない場合は、**情報** シンボルボックスが表示されます。

① メモ: Operational Template (運用テンプレート) のコンプライアンスステータスでは、ユーザー属性に加えられた変更はすべて除外されます。

デバイスがテンプレートに準拠していない場合は、**警告** シンボルボックスが表示されます。割り当てられた Operational Template (運用テンプレート) にデバイスが準拠していない場合に限り、テンプレート名のリンクをクリックすることでサマ

リーレポートを表示できます。[**Operational Template (運用テンプレート)** コンプライアンス サマリー レポート] ページには、テンプレートとデバイスの相違点のサマリー レポートが表示されます。

詳細レポートを表示するには、次の手順を実行します。

- a. **詳細なコンプライアンスの表示** をクリックします。ここでは、割り当てられたテンプレートとは異なる属性値を持つコンポーネントが表示されます。Operational Template (運用テンプレート) コンプライアンスのさまざまな状態が色別で表示されます。

- ・ 黄色の警告シンボル—準拠していません。デバイスの設定がテンプレートの値と一致しないことを表します。
- ・ 赤色のボックス—コンポーネントがデバイスに存在しないことを示します。

モジュラーシステムへの **Operational Template (運用テンプレート)** の導入

割り当てられた Operational Template (運用テンプレート) を導入することで、モジュラーシステムコンポーネントを設定し、モジュラーシステムファームウェアバージョンをアップデートできます。

- ① **メモ:** マルチシャーシ管理 (MCM) では、リードシャーシがメンバーシャーシへの伝播を使用して設定されている場合に、OMIMSSC からリードシャーシとメンバーシャーシを設定およびアップデートすると、伝播によって行われた変更が上書きされます。
1. OMIMSSC で、**設定と導入** をクリックし、**モジュラーシステムビュー** をクリックします。テンプレートを割り当てたモジュラーシステムを選択し、**Operational Template (運用テンプレート) の導入** をクリックします。
Operational Template (運用テンプレート) の導入 ページが表示されます。
2. (オプション) 選択したテンプレートでプール値としてマークされているすべての属性を .CSV ファイルにエクスポートするには、**プール属性のエクスポート** をクリックします。エクスポートしない場合は、ステップ 4 に進みます。
3. プール値をエクスポートした場合は、プール値としてマークされているすべての属性の値を .CSV ファイルに入力し、ファイルを保存します。**属性値プール**で、ファイルを選択してインポートします。
.CSV ファイルの形式は、attribute-value-pool.csv です。
- ① **メモ:** CMC IP または CMC 資格情報が変更された後は、ジョブが OMIMSSC によって追跡されないため、選択した .CSV ファイルにすべて適切な属性があり、テンプレートによって CMC IP または CMC 資格情報が変更されていないことを確認します。
4. 一意のジョブ名、ジョブの説明を入力し、**導入** をクリックします。
- ① **メモ:** モジュラーシステムに対してサポートされているシステム固有のプール値属性はありません。したがって、エクスポートするプール値はありません。

このジョブを追跡するには、デフォルトで **ジョブリストへ移動** オプションが選択されています。

Operational Template (運用テンプレート) の割り当て解除

1. OMIMSSC で、次のいずれかのタスクを実行します。
 - ・ **設定と導入** をクリックし、**サーバビュー** をクリックします。
 - ・ **設定と導入** をクリックし、**モジュラーシステムビュー** をクリックします。必要なデバイスを選択して、**運用テンプレートの割り当てとコンプライアンスの実行** をクリックします。
Operational Template (運用テンプレート) の割り当てとコンプライアンスの実行 ページが表示されます。
2. **Operational Template (運用テンプレート)** ドロップダウンメニューから **割り当て解除** を選択し、**割り当て** をクリックします。
選択したデバイスで Operational Template (運用テンプレート) の割り当てが解除されます。

OMIMSSC のファームウェアアップデート

Dell EMC デバイスを最新の状態に維持するために、OMIMSSC を使用して、セキュリティ、問題の修正、拡張機能を使用するために最新のファームウェアにアップグレードします。Dell EMC アップデーターポジトリを使用してデバイスのファームウェアをアップデートします。

ファームウェアのアップデートは、ハードウェア互換性のあるデバイスでのみサポートされています。管理対象デバイスの OMIMSSC で使用可能な機能を使用するために、管理対象デバイスには iDRAC、Lifecycle Controller (LC)、および BIOS の必要最小限のファームウェアバージョンが必要です。必要なファームウェアバージョンを持つデバイスには、ハードウェア互換性があります。

トピック：

- ・ アップデートグループについて
- ・ アップデートソースとは
- ・ Dell EMC Repository Manager (DRM) との統合
- ・ ポーリング頻度の設定
- ・ デバイスインベントリの表示と更新
- ・ フィルタの適用
- ・ Upgrading and downgrading firmware versions using run update method

アップデートグループについて

アップデートグループは、同様のアップデート管理を必要とするデバイスのグループです。OMIMSSC でサポートされているアップデートグループには、次の 2 種類があります。

- ・ 事前定義されたアップデートグループ—手動で作成、変更、または削除することはできません。
- ・ カスタムアップデートグループ—これらのグループ内のデバイスの変更および削除を作成できます。

① メモ: SCVMM に存在するすべてのサーバグループは、OMIMSSC に一覧表示されます。ただし、OMIMSSC のサーバのリストはユーザー固有ではありません。そのため、これらのデバイスで操作を実行するためのアクセス権があることを確認してください。

事前定義されたアップデートグループ

デバイスを検出すると、検出されたデバイスが次の定義済みグループのいずれかに追加されます。

- ・ デフォルトのホストグループ—このグループは、Windows オペレーティングシステムに導入されているか、登録済みの Microsoft コンソールと同期されているサーバで構成されます。
- ・ デフォルトの未割り当てグループ—このグループは、未割り当てまたはベアメタルのサーバで構成されます。
- ・ デフォルトの Windows 以外のホストグループ—このグループは、Windows 以外のオペレーティングシステムで導入されたサーバで構成されます。
- ・ シャーシアップデートグループ—このグループは、モジュラーサーバとシャーシまたはモジュラーシステムで構成されます。第 12 世代のサーバとそのシャーシ情報が検出されます。デフォルトでは、グループは Chassis-Service-tag-of-Chassis-Group という名前形式で作成されます。たとえば、Chassis-GJDC4BS-Group のように作成されます。モジュラーサーバがクラスタアップデートグループから削除されると、サーバは CMC 情報とともにシャーシアップデートグループに追加されます。対応するシャーシアップデートグループにモジュラーサーバがない場合でも、シャーシ内のすべてのモジュラーサーバがクラスタアップデートグループにあるため、シャーシアップデートグループは引き続き存在しますが、CMC 情報だけが表示されます。
- ・ クラスタアップデートグループ—このグループは、Windows サーバフェールオーバークラスタで構成されます。第 12 世代以降のモジュラーサーバがクラスタの一部である場合、CMC 情報も メンテナンスセンター ページのインベントリに追加されます。

カスタムアップデートグループ

検出されたデバイスを、類似した管理が必要なグループに追加して、タイプが汎用アップデートグループのカスタムアップデートグループを作成します。ただし、カスタムアップデートグループにデバイスを追加できるのは、デフォルトの未割り当てアップデート

トグループ および デフォルトのホストアップデートグループ からだけです。カスタムアップデートグループにサーバを追加するには、サービスタグを使用して必要なデバイスを検索します。カスタムアップデートグループにデバイスを追加すると、そのデバイスは事前定義されたアップデートグループから削除され、カスタムアップデートグループでだけ使用可能になります。

アップデートグループの表示

アップデートグループを表示するには、次の手順を実行します。

1. **OMIMSSC** で **Maintenance Center** (メンテナンスセンター) をクリックし、**Maintenance Settings** (メンテナンス設定) をクリックします。
2. **Maintenance Settings** (メンテナンス設定) で、**Update Groups** (アップデートグループ) をクリックします。
作成されたすべてのカスタムグループが、名前、グループタイプ、グループ内のサーバ数と共に表示されます。

カスタムアップデートグループの作成

1. OMIMSSC コンソールで、メンテナンスセンターをクリックし、次に **メンテナンス設定** をクリックします。
2. **メンテナンス設定** で、**アップデートグループ** をクリックし、**作成** をクリックします。
ファームウェアアップデートグループ ページが表示されます。
3. グループ名、説明を入力し、作成するアップデートグループのタイプを選択します。
カスタムアップデートグループには、次のアップデートグループタイプのサーバのみを含めることができます。
 - ・ 汎用アップデートグループ—デフォルトの未割り当てアップデートグループとデフォルトのホストアップデートグループのサーバで構成されます。
 - ・ ホストアップデートグループ—デフォルトのホストアップデートグループのサーバで構成されます。また、2つのタイプのサーバグループのサーバを組み合わせることもできます。
4. アップデートグループにサーバを追加するには、サーバのサービスタグを使用してサーバを検索し、**アップデートグループに含まれるサーバ** テーブルにサーバを追加するには、右矢印をクリックします。
5. カスタムアップデートグループを作成するには、**保存** をクリックします。
メモ : カスタム アップデート グループはシステム センターごとであり、同じシステム センターの他のユーザーに表示されます。

カスタムアップデートグループの変更

カスタム アップデート グループを変更する場合は、次の点に注意してください。

- ・ アップデートグループは、作成後にタイプを変更することはできません。
 - ・ カスタム アップデート グループのサーバを別のカスタム アップデート グループに移動するには、次の手順を実行します。
 1. 既存のカスタム アップデート グループからサーバを削除します。これで、サーバは事前定義されたアップデート グループに自動的に追加されます。
 2. カスタム グループを編集してサーバを追加し、サービス タグを使用してサーバを検索します。
1. **OMIMSSC** で、[**メンテナンス センター**] をクリックし、[**メンテナンス設定**] をクリックします。
 2. [**メンテナンス設定**] で [**アップデート グループ**] をクリックして、アップデート グループを選択し、[**編集**] をクリックしてアップデート グループを変更します。

カスタムアップデートグループの削除

次のような状況でカスタムアップデートグループを削除する場合は、次の点に注意してください。

- ・ ジョブがスケジュール済み、進行中、または待機中の場合は、アップデートグループを削除することはできません。したがって、カスタムアップデートグループに関連付けられているスケジュール済みジョブを削除してから、サーバグループを削除してください。
 - ・ アップデートグループは、そのアップデートグループにサーバが存在する場合でも削除できます。ただし、このようなアップデートグループを削除すると、サーバはそれぞれの事前定義されたアップデートグループに移動されます。
 - ・ カスタムアップデートグループに存在するデバイスを MSSC から削除した後で、登録済みの MSSC と OMIMSSC を同期すると、該当デバイスはカスタムアップデートグループから削除され、事前定義された適切なグループに移動されます。
1. **OMIMSSC** で、**メンテナンスセンター** をクリックし、**メンテナンス設定** をクリックします。
 2. **メンテナンス設定** で、**アップデートグループ** をクリックしてアップデートグループを選択し、**削除** をクリックしてアップデートグループを削除します。

アップデートソースとは

アップデートソースには、Dell EMC アップデート (BIOS、およびドライバパック (管理コンポーネント、ネットワークカード、など)) が含まれているカタログファイルへのリファレンスがあり、Dell Update Packages (DUP) と呼ばれる自己完結型実行可能ファイルを提供します。

アップデートソースまたはリポジトリを作成し、比較レポートを生成するためのデフォルトのアップデートソースとして設定し、リポジトリで新しいカタログファイルが使用可能になったときにアラートを受信するようにできます。

OMIMSSC を使用すると、オンラインまたはオフラインのアップデートソースを使用して、デバイスのファームウェアを最新の状態に保つことができます。

オンラインアップデートソースは、Dell EMC が管理するリポジトリです。

オフラインアップデートソースはローカルリポジトリであり、インターネット接続がない場合に使用されます。

カスタムリポジトリを作成して、OMIMSSC アプライアンスのローカルイントラネットにネットワーク共有を配置することをお勧めします。これにより、インターネット帯域幅が節約され、安全な内部リポジトリも提供されます。

次のいずれかのアップデートソースを使用して、ファームウェアをアップデートします。

- ・ **DRM リポジトリ** - オフラインリポジトリです。検出されたデバイスのインベントリ情報を OMIMSSC アプライアンスからエクスポートして、DRM でリポジトリを準備します。DRM との統合と DRM によるアップデートソースの作成の詳細については、「[DRM との統合](#)」を参照してください。DRM でリポジトリを作成した後、OMIMSSC で、DRM で作成されたアップデートソース、関連するデバイスを選択し、デバイスでアップデートを開始します。DRM の詳細については、[dell.com\support](#) にある *Dell Repository Manager* のマニュアルを参照してください。
- ・ **FTP、HTTP、または HTTPS** - オンラインまたはオフラインのリポジトリです。FTP、HTTP、または HTTPS サイトで提供される最新アップデートに関しては、デバイスの特定のコンポーネントをアップデートします。Dell EMC では、2 か月ごとにリポジトリを準備し、PDK カタログを通じて次のアップデートを発行しています。
 - ・ サーバー BIOS とファームウェア
 - ・ Dell EMC 認証のオペレーティングシステムドライバパック (オペレーティングシステム導入用)

① メモ: オンラインアップデートソースを選択すると、**Operational Template (運用テンプレート)** の展開中に、最新のファームウェアバージョンがダウンロードされ、管理対象デバイスに適用されます。したがって、ファームウェアバージョンは、参照と導入されたデバイスで異なる場合があります。

- ・ **参照ファームウェアインベントリと比較** - DRM を使用してオフラインリポジトリに変換できます。選択したデバイスのファームウェアインベントリを含む参照インベントリファイルを作成します。参照インベントリファイルには、同じタイプまたはモデルのデバイスのインベントリ情報を含めることも、さまざまなタイプやモデルの複数のデバイスを含めることもできます。OMIMSSC に存在するデバイスのインベントリ情報を、保存されている参照インベントリファイルと比較できます。エクスポートされたファイルを DRM に渡してリポジトリを作成する方法については、[dell.com\support](#) にある *Dell Repository Manager* のマニュアルを参照してください。

事前定義されたデフォルトのアップデートソース

OMIMSSC には、新規インストールまたはアップグレード後に使用できる 3 つの事前定義されたアップデートソースが含まれています。**Dell Online FTP カタログ** は FTP タイプの事前定義されたアップデートソース、**Dell Online HTTP カタログ** は HTTP タイプの事前定義されたアップデートソース、**Dell Online HTTPS カタログ** は HTTPS タイプの事前定義されたアップデートソース (デフォルト) です。ただし、別のアップデートソースを作成して、それをデフォルトのアップデートソースとしてマークすることもできます。

① メモ: プロキシサーバを使用している場合は、リポジトリにアクセスするために、アップデートソースを編集してプロキシの詳細を追加し、変更を保存します。

Storage Spaces Direct クラスタ用の事前定義されたデフォルトのアップデートソース

OMIMSSC では、特定の事前定義されたアップデートソースによる Storage Spaces Direct クラスタのアップデートがサポートされています。これらのアップデートソースは、Storage Spaces Direct クラスタのコンポーネントの最新の推奨ファームウェアバージョンを含むカタログファイルを参照しています。これらは、**メンテナンスセンター** ページにのみ表示されます。

Dell Online FTP S2D カタログ は、FTP タイプの事前定義されたアップデートソースで、**Dell Online FTP カタログ** に含まれています。

Dell Online HTTP S2D カタログ は、HTTP タイプの事前定義されたアップデートソースで、**Dell Online HTTP カタログ** に含まれています。

Dell Online HTTPS S2D カタログ は、HTTPS タイプの事前定義されたデフォルトのアップデート ソースで、**Dell Online HTTPS カタログ** に含まれています。

 **メモ:** Storage Spaces Direct (S2D) は、Windows Server Software-Defined (WSSD) や Azure Stack Hyper-converged Infrastructure (ASHCI) と呼ばれます。

モジュラーシステム用の事前定義されたデフォルトのアップデートソース

OMIMSSC では、特定の事前定義されたアップデートソースによるモジュラーシステムのアップデートがサポートされています。これらのアップデートソースは、モジュラーシステムのコンポーネントの最新の推奨ファームウェアバージョンを含むカタログファイルを参照しています。これらは、メンテナンスセンター ページにのみ表示されます。

Dell Online FTP MX7000 カタログ は、FTP タイプの事前定義されたアップデートソースで、**Dell Online FTP カタログ** に含まれています。

Dell Online HTTP MX7000 カタログ は、HTTP タイプの事前定義されたアップデートソースで、**Dell Online HTTP カタログ** に含まれています。

Dell Online HTTPS MX7000 カタログ は、HTTPS タイプの事前定義されたデフォルトのアップデート ソースで、**Dell Online HTTPS カタログ** に含まれています。

テスト接続を使用したデータの検証

アップデートソースの作成時に参照した資格情報を使用して、アップデートソースの場所が到達可能であるかどうかを検証するために、**テスト接続**を使用します。接続が成功した場合のみ、アップデートソースを作成できます。

ローカル FTP のセットアップ

ローカル FTP をセットアップするには、次の手順を実行します。

1. ローカル FTP にオンライン FTP `ftp.dell.com` と全く同一のフォルダ構造を作成します。
2. オンライン FTP から `catalog.gz` ファイルをダウンロードし、ファイルを解凍します。
3. `catalog.xml` ファイルを開き、**baseLocation** をお使いのローカル FTP URL に変更して、そのファイルを `.gz` 拡張子で圧縮します。
たとえば、**baseLocation** を `ftp.dell.com` から `ftp.yourdomain.com` に変更します。
4. カタログファイルと DUP ファイルを `ftp.dell.com` と同じ構造でローカル FTP フォルダ内に配置します。

ローカル HTTP のセットアップ

ローカル HTTP をセットアップするには、次の手順を実行します。

1. ローカル HTTP に `downloads.dell.com` と全く同一のフォルダ構造を作成します。
2. `http://downloads.dell.com/catalog/catalog.xml.gz` のオンライン HTTP から `catalog.gz` ファイルをダウンロードし、ファイルを解凍します。
3. `catalog.xml` ファイルを解凍し、**baseLocation** をお使いのローカル HTTP URL に変更して、そのファイルを `.gz` 拡張子で圧縮します。
たとえば、**baseLocation** を `downloads.dell.com` から `hostname.com` などのホスト名または IP アドレスに変更します。
4. 変更したカタログファイルを含むカタログファイル、および DUP ファイルを、`downloads.dell.com` と同じ構造でローカル HTTP フォルダ内に配置します。

ローカル HTTPS のセットアップ

ローカル HTTPS をセットアップするには、次の手順を実行します。

1. ローカル HTTPS に、`downloads.dell.com` とまったく同一のフォルダ構造を作成します。

2. <https://downloads.dell.com/catalog/catalog.xml.gz> のオンライン HTTPS から catalog.gz ファイルをダウンロードして、ファイルを解凍します。
3. catalog.xml ファイルを解凍し、**baseLocation** をローカル HTTPS の URL に変更して、そのファイルを .gz 拡張子で圧縮します。
たとえば、**baseLocation** を downloads.dell.com から hostname.com などのホスト名または IP アドレスに変更します。
4. 変更したカタログ ファイルを含むカタログ ファイル、および DUP ファイルを、downloads.dell.com と同じ構造でローカル HTTPS フォルダー内に配置します。

アップデートソースの表示

1. OMIMSSC で、メンテナンスセンター をクリックします。
2. メンテナンスセンター でメンテナンス設定 をクリックし、次に アップデートソース をクリックします。
説明、ソースタイプ、場所、資格情報プロファイル名とともに作成されたすべてのアップデートソースが表示されます。

アップデートソースの作成

- ・ アップデートソースタイプに基づいて、Windows または FTP の資格情報プロファイルが使用可能であることを確認してください。
 - ・ DRM アップデートソースを作成する場合は、管理者の役割を持つ DRM をインストールおよび設定してください。
1. OMIMSSC コンソールで、メンテナンスセンター をクリックしてから、メンテナンス設定 をクリックします。
 2. アップデートソース ページで、新規作成 をクリックし、アップデートソース名と説明を入力します。
 3. ソースタイプ ドロップダウンメニューから、次のいずれかのタイプのアップデートソースを選択します。
 - ・ FTP ソース—オンラインまたはローカルの FTP アップデートソースを作成する場合に選択します。
① メモ: FTP ソースを作成している場合は、FTP 資格情報を入力します。FTP サイトへの到達にプロキシ資格情報が必要な場合は、プロキシ資格情報も入力します。
 - ・ HTTP ソース: オンラインまたはローカルの HTTP アップデートソースを作成する場合に選択します。
① メモ: タイプ HTTP のアップデートソースを作成している場合は、カタログの完全なパスをカタログ名とプロキシ資格情報と一緒に入力して、アップデートソースにアクセスします。
 - ・ HTTPS ソース: オンライン HTTPS アップデート ソースを作成する場合に選択します。
① メモ: HTTPS タイプのアップデート ソースを作成している場合は、カタログの完全なパスを入力し、加えてカタログ名とアップデート ソースにアクセスするためのプロキシ資格情報も入力します。

DRM リポジトリ—ローカルリポジトリアップデートソースを作成する場合に選択します。DRM をインストールしたことを確認します。

 - ① メモ:** DRM ソースを作成する場合は、Windows の資格情報を入力し、Windows の共有場所にアクセスできることを確認します。場所 フィールドで、ファイル名を含むカタログファイルの完全なパスを指定します。
 - ・ インベントリ出力ファイル—参照サーバ設定に対するファームウェアインベントリを表示する場合に選択します。
① メモ: インベントリ出力ファイル をアップデートソースとして使用すると、比較レポートを表示できます。参照サーバのインベントリ情報は、OMIMSSC で検出された他のすべてのサーバと比較されます。
 4. [場所] に、FTP、HTTP、または HTTPS ソースのアップデート ソースの URL と、DRM の Windows の共有場所を指定します。
 - ① メモ:** ローカル FTP サイトは、オンライン FTP を複製する必要があります。
 - ① メモ:** ローカル HTTP サイトは、オンライン HTTP を複製する必要があります。
 - ① メモ:** FTP ソースの URL に HTTP または HTTPS を指定することは必須ではありません。
 5. アップデートソースにアクセスするには、資格情報 で必要な資格情報プロファイルを選択します。
 6. プロキシ資格情報 で、FTP または HTTP ソースにアクセスするためにプロキシが必要な場合は、適切なプロキシ資格情報を選択します。
 7. (オプション)作成したアップデートソースをデフォルトのアップデートソースにするには、これをデフォルトのソースにする を選択します。
 8. 前述の資格情報を使用してアップデートソースの場所にアクセスできることを確認するには、テスト接続 をクリックし、保存 をクリックします。
① メモ: アップデートソースは、テスト接続が成功した後でのみ作成できます。

アップデートソースの変更

アップデートソースを変更する前に、次の点に注意してください。

- ・ **Dell Online FTPS2D カタログ**、**Dell Online HTTPS2D カタログ**、または **Dell Online HTTPS S2D カタログ** のアップデートソースを編集するには、それぞれの事前定義されたアップデートソースを編集して、変更を保存します。このアップデートは、**Dell Online FTP S2D カタログ**、**Dell Online HTTP S2D カタログ**、または **Dell Online HTTPS S2D カタログ** のアップデートソースに反映されます。
- ・ アップデートソースの作成後、そのアップデートソースのタイプと場所を変更することはできません。
- ・ アップデートソースは、アップデートソースが進行中のジョブやスケジュールされたジョブで使用されている場合でも、導入テンプレートで使用されている場合でも変更できます。使用中のアップデートソースを変更しているときに、警告メッセージが表示されます。**確認** をクリックして変更に移動します。
- ・ アップデートソースでカタログファイルがアップデートされても、ローカルにキャッシュされたカタログファイルは自動的にアップデートされません。キャッシュに保存されたカタログファイルをアップデートするには、アップデートソースを編集するか、アップデートソースを削除してから再作成します。

変更するアップデートソースを選択し、**編集** をクリックして、必要に応じてソースをアップデートします。

アップデートソースの削除

アップデートソースを削除する前に、次の点に注意してください。

- ・ 事前定義されたアップデートソースは削除できません。
- ・ 進行中またはスケジュール済みのジョブで使用されているアップデートソースは削除できません。
- ・ デフォルトのアップデートソースであるアップデートソースは削除できません。

削除するアップデートソースを選択し、**削除** をクリックします。

Dell EMC Repository Manager (DRM) との統合

OMIMSSC は DRM と統合され、OMIMSSC にカスタムのアップデートソースを作成します。この統合は DRM バージョン 2.2 以降で利用可能です。OMIMSSC アプライアンスから検出されたデバイス情報を DRM に提供し、使用可能なインベントリ情報を使用して、DRM でカスタムリポジトリを作成し、それを OMIMSSC でアップデートソースとして設定することで、ファームウェアのアップデートを実行し、管理対象デバイスでクラスタを作成できます。DRM でリポジトリを作成する方法の詳細については、Dell.com/support/home にある *Dell EMC Repository Manager* のマニュアルを参照してください。

DRM と OMIMSSC の統合

このセクションでは、統合を使用してリポジトリを作成するプロセスについて説明します。

① **メモ:** 必要なアップデートを準備するために、テスト環境でのテスト、セキュリティアップデート、アプリケーションの推奨事項、Dell EMC アドバイザリなどの要因を考慮してください。

① **メモ:** 検出されたデバイスに関する最新のインベントリ情報を表示するには、OMIMSSC をアップグレードした後で、DRM を OMIMSSC アプライアンスに再統合します。

1. ホームページで、**[新規リポジトリを追加]** をクリックします。**[新規リポジトリを追加]** ウィンドウが表示されます。
 2. **[統合]** タブを選択し、**[リポジトリ名]** と **[説明]** を入力します。
 3. **[カスタム]** を選択し、**[システムの選択]** をクリックして特定のシステムを選択します。
 4. **[統合タイプ]** ドロップダウンメニューから、統合する製品を選択します。選択した製品に基づいて、次のオプションが表示されます。使用可能なオプションは次のとおりです。
 - a) Dell OpenManage Integration for Microsoft System Center — ホスト名または IP、ユーザー名、パスワード、プロキシサーバーを入力します。
 - b) Dell コンソール統合 — URL <https://<IP>/genericconsolerepository> で、ユーザー名、パスワード、プロキシサーバーの管理者情報を入力します。
- ① **メモ:** Dell コンソール統合は、OpenManage Integration for System Center Virtual Machine Manager (SCVMM) などの Web サービスを組み込んだコンソールに適用されます。
5. 必要なオプションを選択したら、**[接続]** をクリックします。使用可能なシステムとモデルが **[統合タイプ]** セクションに表示されます。

6. [追加] をクリックして、リポジトリを作成します。リポジトリは、ホームページで利用可能なリポジトリ ダッシュボードに表示されます。

メモ：バンドル タイプまたは DUP フォーマットを選択する際、Dell PowerEdge MX7000 シャーシが OMIMSSC のインベントリの一部である場合は、Windows 64 ビットおよびオペレーティング システム非依存を選択するようにしてください。

DRM を OMIMSSC と統合した後は、Dell.com/support の『Dell EMC Microsoft Storage Space Direct Ready Node Operations Guide for Managing and Monitoring Ready Node Life Cycle』(Ready ノードのライフサイクル管理および監視のための Dell EMC Microsoft Storage Space Direct Ready ノード操作ガイド) の「Obtain firmware catalog for Storage Spaces Direct Ready Nodes Using Dell Repository Manager」(Dell Repository Manager を使用したストレージスペースダイレクト対応ノードのファームウェアカタログの取得) セクションを参照してください。

ポーリング頻度の設定

ポーリングと通知を設定して、アップデートソースで使用可能な新しいカタログファイルがある場合にアラートを受信します (デフォルトとして選択済み)。OMIMSSC アプライアンスは、アップデートソースのローカルキャッシュを保存します。アップデートソースで新しいカタログファイルが使用可能になると、通知ベルの色がオレンジ色に変化します。OMIMSSC アプライアンスでローカルにキャッシュされた使用可能なカタログに置き換えるには、ベルアイコンをクリックします。古いカタログファイルを最新のカタログファイルに置き換えると、ベルの色が緑に変化します。

ポーリングの頻度を設定するには、次の手順を実行します。

1. OMIMSSC で、**メンテナンスセンター** をクリックし、**ポーリングと通知** をクリックします。
2. ポーリングの発生頻度を選択します。
 - ・ **行わない** - このオプションはデフォルトで選択されています。アップデートを受信しない場合に選択します。
 - ・ **週に 1 回** - 週に 1 回アップデートソースから入手可能な新しいカタログに関するアップデートを受信する場合に選択します。
 - ・ **2 週間に 1 回** - 2 週間に 1 回アップデートソースから入手可能な新しいカタログに関するアップデートを受信する場合に選択します。
 - ・ **月に 1 回** - 月に 1 回アップデートソースから入手可能な新しいカタログに関するアップデートを受信する場合に選択します。

デバイスインベントリの表示と更新

メンテナンスセンター ページで、アップデートソースに対するデバイスの比較レポートを表示します。アップデートソースを選択すると、既存のファームウェアと、選択したアップデートソースにあるファームウェアを比較するレポートが表示されます。アップデートソースを変更すると、レポートが動的に生成されます。サーバインベントリがアップデートソースと比較され、解決策が一覧表示されます。このアクティビティには、存在するデバイスとデバイスコンポーネントの数に基づいて、かなりの時間がかかります。このプロセス中は、他のタスクを実行できません。インベントリを更新すると、デバイス内の 1 つのコンポーネントを選択した場合でも、デバイスのインベントリ全体が更新されます。

場合によっては、デバイスのインベントリがアップデートされても、ページに最新のインベントリが表示されないことがあります。したがって、更新オプションを使用すると、検出されたデバイスの最新のインベントリ情報を表示できます。

- ① **メモ:** 最新バージョンの OMIMSSC にアップグレードした後、ftp.dell.com または downloads.dell.com への接続に失敗した場合は、デフォルトの Dell Online FTP、Dell HTTP、または Dell HTTPS アップデート ソースでカタログ ファイルをダウンロードすることはできません。したがって、比較レポートは使用できません。デフォルトのアップデート ソースの比較レポートを表示するには、デフォルトの Dell Online FTP、Dell HTTP、または Dell HTTPS アップデート ソースを編集し (必要に応じてプロキシ認証情報を入力) [アップデート ソースを選択] ドロップダウン メニューから同じものを選択します。アップデートソースの編集についての詳細は、「[アップデートソースの変更](#)」を参照してください。
- ① **メモ:** 製品が提供されると、カタログファイルのローカルコピーが OMIMSSC に保存されます。したがって、最新の比較レポートは使用できません。最新の比較レポートを表示するには、カタログファイルをアップデートします。カタログファイルをアップデートするには、アップデートソースを編集して保存するか、アップデートソースを削除してから再作成します。
- ① **メモ:** SCCM では、インベントリ情報をアップデートした後でも、ドライバパックのバージョン やオペレーティングシステムで使用可能なドライバなどのサーバの詳細は、Dell アウトオブバンドコントローラ (OOB) のプロパティ ページでアップデートされません。OOB プロパティをアップデートするには、OMIMSSC を登録済み SCCM と同期します。
- ① **メモ:** OMIMSSC をアップグレードしても、以前のバージョンで検出されたサーバに関する情報は表示されません。最新のサーバ情報と正しい比較レポートについては、サーバを再検出してください。

検出されたデバイスのファームウェアインベントリを更新および表示するには、次の手順を実行します。

1. OMIMSSC で、**メンテナンスセンター** をクリックします。

メンテナンスセンター ページには、選択したアップデートソースに対して OMIMSSC で検出されたすべてのデバイスの比較レポートが表示されます。

2. (オプション) 特定のデバイスグループの比較レポートだけを表示するには、必要なデバイスだけを選択します。
3. (オプション) 別のアップデートソースの比較レポートを表示するには、**アップデートソースの選択** ドロップダウンリストからアップデートソースを選択して、アップデートソースを変更します。
4. 現在のバージョンとベースラインバージョンのファームウェア情報、および Dell EMC が推奨するアップデートアクションなどのデバイスコンポーネントのファームウェア情報を表示するには、**デバイスグループ/サーバ** のサーバグループをサーバレベル、コンポーネントレベルへと順番に展開します。また、デバイスの推奨されるアップデートの数も表示します。利用可能なアップデートアイコンにカーソルを合わせると、重要なアップデートの数、推奨されるアップデートの数など、アップデートの対応する詳細が表示されます。

利用可能なアップデートアイコンの色は、アップデートの全体的な重要度に基づいています。重要なアップデートカテゴリは次のとおりです。

- ・ サーバまたはサーバグループに1つの重要なアップデートがあっても、色は赤色です。
- ・ 重要なアップデートがない場合、色は黄色になります。
- ・ ファームウェアのバージョンが最新の場合、色は緑色になります。

比較レポートに入力した後は、次のアップデートアクションが提案されます。

- ・ ダウングレード—以前のバージョンを使用でき、既存のファームウェアをこのバージョンにダウングレードできます。
- ・ 対処不要—既存のファームウェアは、アップデートソースのファームウェアと同じです。
- ・ 利用可能なアップデートはありません—このコンポーネントのアップデートは利用できません。

① メモ: MX7000 モジュラーシステム用の電源ユニット (PSU) コンポーネントおよびオンラインカタログのサーバに利用可能なアップデートはありません。MX7000 モジュラーシステムの PSU コンポーネントをアップデートする場合は、「**Dell EMC PowerEdge MX7000 デバイスの電源ユニットコンポーネントのアップデート**」を参照してください。サーバの PSU コンポーネントをアップデートする場合は、Dell EMC サポートにお問い合わせください。

- ・ アップグレード - オプション—アップデートはオプションで、新しい機能または特定の設定のアップグレードで構成されます。
- ・ アップグレード - 重要—アップデートは重要であり、BIOS などのコンポーネントにおけるセキュリティ、パフォーマンス、または破損時補償状況を解決するために使用されます。
- ・ アップグレード - 推奨—アップデートは、問題の修正、またはコンポーネントの機能拡張です。また、他のファームウェアアップデートとの互換性の修正も含まれています。

第 11 世代のサーバの NIC 関連情報については、次の点を考慮してください。

- ・ **アップデートの性質** に基づいて **重要** としてフィルタを適用した後、重要なアップデートのあるコンポーネントのみを含むレポートが表示されます。このレポートがエクスポートされた場合、ダウングレードアクションがあるコンポーネントもエクスポートされ、そのコンポーネントには**重要なアップデート**が含まれます。
- ・ 1つのNICカードで複数のネットワークインターフェイスを使用できる場合、**コンポーネント情報** リスト内のすべてのインターフェイスに対してエントリが1つだけ存在します。ファームウェアのアップデートが適用されると、すべてのNICカードがアップグレードされます。
- ・ NICカードを既存のカードとともに追加すると、新しく追加されたNICカードが**コンポーネント情報** リストに別のインスタンスとして表示されます。ファームウェアのアップデートが適用されると、すべてのNICカードがアップグレードされます。

フィルタの適用

フィルタを適用して選択された情報を比較レポートで表示します。

使用可能なサーバコンポーネントに基づいて比較レポートをフィルタリングします。OMIMSSC では、次の3つのカテゴリのフィルタがサポートされます。

- ・ **アップデートの性質** - フィルタを適用し、サーバ上の選択されたタイプのアップデートのみを表示する場合に選択します。
- ・ **コンポーネントタイプ** - フィルタを適用し、サーバ上の選択されたコンポーネントのみを表示する場合に選択します。
- ・ **サーバモデル** - フィルタを適用し、選択されたサーバモデルのみを表示する場合に選択します。

① メモ: フィルタが適用されている場合、サーバプロファイルをエクスポートおよびインポートすることはできません。

フィルタを適用するには、次の手順を実行します。

OMIMSSC で、**メンテナンスセンター** をクリックし、フィルタドロップダウンメニューをクリックしてフィルタを選択します。

フィルタの削除

フィルタを削除するには、次の手順を実行します。

OMIMSSC で、メンテナンスセンターをクリックし、フィルタのクリアをクリックするか、選択されているチェックボックスをクリアします。

Upgrading and downgrading firmware versions using run update method

Before applying updates on devices, ensure that the following conditions are met:

- An update source is available.

NOTE: Select Storage Spaces Direct update source or MX7000 update sources, for applying firmware updates on Storage Spaces Direct clusters or MX7000 Modular Systems since, these update sources see a modified reference to catalog that contains recommended firmware versions of components for Storage Spaces Direct clusters and Modular Systems.

- iDRAC or Management Module (MM) job queue is cleared before applying the updates, on the managed devices.

Apply updates on selected device groups which are hardware compatible with OMIMSSC. Updates can be applied immediately, or scheduled. The jobs that are created for firmware updates are listed under the **Jobs and Logs Center** page.

Consider the following points before upgrading or downgrading firmware:

- When you start this task, the task takes considerable time based on the number of devices and device components present.
 - You can apply firmware updates on a single component of a device, or to the entire environment.
 - If there are no applicable upgrades or downgrades for a device, performing a firmware update on the devices cause no action on the devices.
 - For updating chassis, see *Updating CMC firmware* section in *Dell PowerEdge M1000e Chassis Management Controller Firmware User's Guide*.
 - For updating chassis firmware in VRTX, see *Updating firmware* section in *Dell Chassis Management Controller for Dell PowerEdge VRTX User's Guide*.
 - For updating chassis firmware in FX2, see *Updating firmware* section in *Dell Chassis Management Controller for Dell PowerEdge FX2 User's Guide*.
1. OMIMSSC で、メンテナンスセンターをクリックし、サーバまたはモジュラーシステムグループとアップデートソースを選択してから、**アップデートの実行**をクリックします。
 2. In **Update Details**, provide the firmware update job name and description.
 3. To enable downgrading the firmware versions, select the **Allow Downgrade** check-box.
If this option is not selected, and then there is no action on the component that requires a firmware downgrade.
 4. In **Schedule Update**, select one of the following:
 - **Run Now**—select to apply the updates immediately.
 - Select a date and time to schedule a firmware update in future.
 5. Select any one of the following methods, and click **Finish**.
 - **Agent-free staged updates**—updates that are applicable without a system restart are applied immediately, and the updates that require a restart are applied when the system restarts. To check if all the updates are applied, refresh the inventory. The entire update job fails, if the operation fails on even one device.
 - **Agent-free updates**—updates are applied and the system restarts immediately.

NOTE: OMIMSSC supports only Agent-free updates for MX7000 Modular Systems.

NOTE: Cluster-Aware Updating (CAU)—automates the update process by using Windows CAU feature on cluster update groups to maintain server's availability. Updates are passed to cluster update coordinator that is present on the same system where the SCVMM server is installed. The update process is automated to maintain server's availability. The update job is submitted to Microsoft Cluster-Aware-Update (CAU) feature, irrespective of the selection made from the Update Method drop-down menu. For more information, see [Updates using CAU](#).

NOTE: After submitting a firmware update job to iDRAC, OMIMSSC interacts with iDRAC for the status of the job and displays it in the Jobs and Logs page in the OMIMSSC Admin Portal. If there is no response from iDRAC about the status of the job for a long time, and then the status of the job is marked as failed.

CAU を使用したアップデート

サーバ (クラスタの一部) のアップデートは、SCVMM サーバがインストールされている同じシステム上に存在するクラスタアップデートコーディネータを通じて行われます。アップデートはステージングされず、すぐに適用されます。Cluster Aware Update (CAU) を使用すると、中断やサーバのダウンタイムを最小限に抑えて、ワークロードの継続的な可用性を実現できます。したがって、クラスタグループによって提供されるサービスには影響がありません。CAU の詳細については、technet.microsoft.com の「Cluster-Aware アップデートの概要」セクションを参照してください。

クラスタアップデートグループにアップデートを適用する前に、次のことを確認します。

- ・ 登録されたユーザーが、CAU 機能を使用してクラスタをアップデートするための管理者権限を持っていることを確認します。
- ・ 選択したアップデートソースへの接続性。
- ・ フェールオーバークラスタの可用性。
- ・ クラスタのアップデート準備状況を確認し、CAU メソッドを適用するクラスタ準備状況レポートに重大なエラーや警告がないことを確認します。クラスタアップデート準備を確認します。CAU に関する詳細については、technet.microsoft.com にある「クラスタ対応アップデートの要件とベストプラクティス」のセクションを参照してください。
- ・ CAU 機能をサポートするには、Windows Server 2012、Windows Server 2012 R2、Windows 2016、または Windows 2019 オペレーティングシステムが、すべてのフェールオーバー クラスタ ノードにインストールされているようにしてください。
- ・ 自動アップデートの設定が、いずれのフェールオーバークラスタノード上でもアップデートを自動的にインストールするようになっていないこと。
- ・ フェールオーバークラスタ内の各ノード上のリモートシャットダウンを有効にするファイアウォールルールを有効にします。
- ・ クラスタグループに、ノードが2つ以上あることを確認します。

メモ:

- ・ アップデートの適用については、「[アップデートの実行メソッドを使用したファームウェアバージョンのアップグレードとダウングレード](#)」を参照してください。
- ・ Dell EMC Repository Manager のファームウェアおよびドライバのアップデートをダウンロードする方法については、dell.com/support の *Dell EMC Solutions for Microsoft Azure Stack HCI* ページの「[ファームウェアおよびドライバのアップデートカタログ](#)」に移動し、カタログ ファイルをダウンロードしてください。

Operational Template (運用テンプレート) を使用したクラスタの作成

Storage Spaces Direct クラスタ用の論理スイッチの作成

SCVMM の OMIMSSC から論理スイッチを作成します。

① **メモ:** 管理用の設定 セクションに入力した IP アドレスは、Storage Spaces Direct の事前定義された Operational Template (運用テンプレート) のオペレーティングシステムコンポーネントで入力された IP アドレスよりも優先されます。

1. OMIMSSC で、[設定と導入] を展開し、[クラスタビュー] をクリックして、クラスタの [論理スイッチの作成] をクリックします。
2. 論理スイッチに名前を付けて、論理スイッチと関連付ける SCVMM 内のホストグループを選択します。
3. 次の詳細を入力し、作成 をクリックします。
 - a) 管理用の設定 で、サブネット、開始 IP、終了 IP、DNS サーバ、DNS サフィックス、および ゲートウェイ の詳細を指定します。
 - ① **メモ:** サブネット情報は、Classless InterDomain Routing (CIDR) 表記で指定します。
 - b) ストレージの設定 で、VLAN、サブネット、開始 IP、および 終了 IP の詳細を指定します。
4. 一意のジョブ名、ジョブの説明を入力し、作成 をクリックします。

このジョブを追跡するには、デフォルトで ジョブリストへ移動 オプションが選択されています。

論理スイッチが正常に作成されたことを確認するには、クラスタの作成 ページに表示されるドロップダウンメニューで論理スイッチ名を確認します。

論理スイッチの詳細を表示するには、SCVMM で次の手順を実行します。

1. 論理スイッチ名を表示するには、ファブリック をクリックし、ネットワーキング で 論理スイッチ をクリックします。
2. 論理スイッチのアップリンクポートプロファイル (UPP) を表示するには、ファブリック をクリックし、ネットワーキング で 論理スイッチ をクリックします。
3. 論理スイッチのネットワークを表示するには、ファブリック をクリックし、ネットワーキング で 論理ネットワーク をクリックします。

Storage Spaces Direct クラスタの作成

- ・ クラスタの論理スイッチの作成機能を使用して、論理ネットワークを作成してください。
- ・ SCVMM 2016 または 2019 を使用していることを確認します。
- ・ Windows Server 2016 または 2019 Datacenter エディションを使用していることを確認します。
- ・ 管理対象サーバの構成が Storage Spaces Direct ソリューションファームウェアおよびドライバのバージョン要件と一致していることを確認します。詳細については、『Dell EMC Storage Spaces Direct Ready Nodes PowerEdge R740XD、R740XD2、および PowerEdge R640 サポート マトリックス』を参照してください。
- ・ Storage Spaces Direct のインフラストラクチャと管理の詳細については、『R740xd、R740XD2、R640 Storage Spaces Direct Ready Nodes を使用したスケーラブルなハイパーコンバージドインフラストラクチャ向けの Dell EMC Microsoft Storage Spaces Direct Ready Node 導入ガイド』を参照してください。

① **メモ:** Dell EMC Microsoft Storage Spaces Direct (S2D) Ready Nodes - Microsoft Azure Stack HCI 機能をプレビューとして利用できます。2019 年末までに完全なサポートをご利用いただけます。詳細については、「[Dell EMC Solutions for Microsoft Azure Stack HCI](#)」を参照してください。

① **メモ:** Storage Spaces Direct (S2D) は、Windows Server Software-Defined (WSSD) や Azure Stack Hyper-converged Infrastructure (ASHCI) とも呼ばれます。

Storage Spaces Direct クラスタを作成する前に、次の点を考慮してください。

- ・ 固定 IP アドレスのみを指定することで、OMIMSSC で Storage Spaces Direct クラスタを作成できます。
- ・ 仮想ディスクサイズは、Storage Spaces Direct の定義済み運用テンプレートでゼロとして表示されます。ただし、Storage Spaces Direct の定義済み運用テンプレートを適用した後、仮想ドライブは、M.2 物理ストレージメディアのフルサイズと同じサイズだけで作成されます。仮想ドライブスペースについての詳細は、dell.com/support にある iDRAC のユーザーズガイドを参照してください。
- ・ オペレーティングシステムから iDRAC へのパススルー オプションが有効になっている場合は、IP アドレスが運用テンプレートで設定されていることを確認する必要があります。

Storage Spaces Direct クラスタを作成するには、次の手順を実行します。

1. OMIMSSC で、**設定と導入** をクリックし、**クラスタビュー** をクリックします。
クラスタビュー ページが表示されます。
2. クラスタ名を指定し、Storage Spaces Direct クラスタを作成するための定義済み Operational Template (運用テンプレート) を選択します。
 - ・ 特定のサーバモデルおよび NIC カードにのみ属する未割り当てのサーバは、**Operational Template (運用テンプレート)** ドロップダウンメニューから選択した Operational Template (運用テンプレート) に基づいて表示されます。
3. サーバをクラスタに追加するには、チェックボックスを使用してサーバを選択します。
4. システム固有のプール値を追加するには、**属性値プールのエクスポート** をクリックします。
システム固有のプール値を指定できるように、ファイルを編集して保存します。
5. (オプション) システム固有の値を設定する必要がある場合は、**属性値プール** で **参照** をクリックし、編集した .csv ファイルを選択します。
6. 固有のジョブ名を入力し、**作成** をクリックします。

このジョブを追跡するには、デフォルトで **ジョブリストへ移動** オプションが選択されています。

メモ: オペレーティングシステムの導入が進行中の場合、SCVMM でクローンされているホスト プロファイル/物理コンピューター プロファイル (サーバー GUID が付加された名前) が表示されます。これらのプロファイルは個々のサーバー OSD で使用されます。

クラスタが正常に作成されたかどうかを確認するには、次の手順を実行します。

1. クラスタジョブ作成の成功ステータスを確認します。
2. クラスタビュー ページでクラスタを表示します。
3. SCVMM でクラスタを表示します。

OMIMSSC でのデバイスの管理

サーバおよびモジュラーシステムコンポーネントのファームウェアをアップグレードするジョブをスケジュールすることで、サーバおよびモジュラーシステムを最新の状態に維持します。サーバの以前の設定をエクスポートしたり、交換したコンポーネントに古いコンポーネントの設定を適用したり、トラブルシューティングのために LC ログをエクスポートしたりして、サーバを以前の状態に回復してサーバを管理します。

トピック：

- ・ サーバのリカバリ
- ・ 交換したコンポーネントに対するファームウェアおよび構成設定の適用
- ・ サーバの LC ログの収集
- ・ インベントリのエクスポート
- ・ スケジュール済みジョブのキャンセル

サーバのリカバリ

サーバの構成をプロファイルにエクスポートし、そのプロファイルを同じサーバにインポートすることで以前の状態に戻し、サーバの構成を保護ボールドに保存します。

保護ボールド

保護ボールドは、サーバプロファイルを保存できる安全な場所です。サーバまたはサーバのグループからサーバプロファイルをエクスポートし、それを同じサーバまたはサーバのグループにインポートします。このサーバプロファイルは、外部ボールドを作成してネットワーク上の共有の場所に保存するか、内部ボールドを作成して vFlash Secure Digital (SD) カード上に保存できます。サーバまたはサーバのグループは、1つの保護ボールドにのみ関連付けることができます。ただし、1つの保護ボールドを多数のサーバまたはサーバのグループに関連付けることはできません。サーバプロファイルは1つの保護ボールドにのみ保存できます。ただし、1つの保護ボールドに保存できるサーバプロファイルの数に制限はありません。

保護ボールドの作成

ボールドの場所がアクセス可能であることを確認してください。

1. **OMIMSSC** で、[**メンテナンス センター**] をクリックし、[**メンテナンス 設定**] をクリックします。
2. [**メンテナンス センター**] で、[**保護ボールド**] をクリックし、[**作成**] をクリックします。
3. 使用する保護ボールドのタイプを選択し、詳細情報を入力します。
 - ・ ネットワーク共有タイプの保護ボールドを作成している場合は、プロファイルの保存場所、その場所にアクセスするための資格情報、およびプロファイルを保護するためのパスフレーズを入力します。
 - ① **メモ:** このタイプの保護ボールドは、**Common Internet File System (CIFS)** タイプのファイル共有をサポートしています。
 - ・ **vFlash** タイプの保護ボールドを作成する場合は、プロファイルを保護するためのパスフレーズを入力します。

保護ボールドの変更

保護ボールドの名前、説明、タイプ、およびパスフレーズを変更することはできません。

1. [**OMIMSSC**] で、[**メンテナンス センター**] > [**メンテナンス 設定**] > [**保護ヴォールド**] の順にクリックします。
2. ヴォールドを変更するには、ヴォールドを選択し、[**編集**] をクリックします。
- ① **メモ:** サーバ プロファイルのエクスポートまたはインポート ジョブの進行中に保護ヴォールドが変更された場合、編集された情報には、ジョブ内の保留中のサブ タスクが考慮されます。

保護ボールドの削除

次の状況で保護ボールドを削除することはできません。

- ・ 保護ボルトがサーバーまたはサーバーグループに関連付けられている。
このような場合に保護ボルトを削除するには、当該のサーバーまたはサーバーグループを削除してから、保護ボルトを削除します。
 - ・ 保護ボルトに関連付けられたジョブがスケジュールされている。このような場合に保護ボルトを削除するには、スケジュールされたジョブを削除してから、保護ボルトを削除します。
1. OMIMSSC で、[メンテナンス センター] > [メンテナンス設定] > [保護ボルト] をクリックします。
 2. 削除する保護ボルトを選択し、[削除] をクリックします。

サーバープロファイルのエクスポート

BIOS、RAID、NIC、iDRAC、Lifecycle Controller、これらのコンポーネントの設定など、さまざまなコンポーネントにインストールされているファームウェアイメージを含むサーバープロファイルをエクスポートします。OMIMSSC アプライアンスは、すべての設定を含むファイルを作成します。このファイルは、vFlash SD カードまたはネットワーク共有に保存できます。このファイルを保存する保護ボルトを選択してください。サーバーまたはサーバーグループの設定プロファイルをすぐにエクスポートすることも、後で使用するようスケジュールすることもできます。また、サーバープロファイルをエクスポートする頻度について、関連する繰り返しオプションを選択することもできます。

BIOS 設定でエラー時の F1/F2 プロンプト オプションを無効にします。

サーバープロファイルをエクスポートする前に、次の点を考慮してください。

- ・ インスタンスでは、1つのサーバーグループに対して1つのエクスポート設定ジョブのみをスケジュールできます。
 - ・ 設定プロファイルがエクスポートされるサーバーまたはサーバーグループに対して、他のアクティビティを実行することはできません。
 - ・ iDRAC で 自動バックアップ ジョブが同じ時間にスケジュールされていないことを確認します。
 - ・ フィルタが適用されている場合、サーバープロファイルをエクスポートすることはできません。サーバープロファイルをエクスポートするには、適用されているすべてのフィルタをクリアします。
 - ・ サーバプロファイルをエクスポートするには、iDRAC Enterprise ライセンスがあることを確認します。
 - ・ サーバプロファイルをエクスポートする前に、サーバーの IP アドレスが変更されていないことを確認します。他の操作のためにサーバー IP が変更された場合は、OMIMSSC でこのサーバーを再検出し、サーバプロファイルジョブのエクスポートをスケジュールします。
1. OMIMSSC で、[メンテナンス センター] をクリックします。プロファイルをエクスポートするサーバーを選択し、[デバイス プロファイル] ドロップダウン メニューから [エクスポート] をクリックします。
サーバプロファイルのエクスポート ページが表示されます。
 2. サーバプロファイルのエクスポート ページで、ジョブの詳細を入力し、保護ボルトを選択します。
保護ボルトの詳細については、「[保護ボルトの作成](#)」を参照してください。
サーバプロファイルのエクスポート で、次のいずれかを選択します。
 - ・ **今すぐ実行**—選択したサーバーまたはサーバーグループのサーバー設定をすぐにエクスポートします。
 - ・ **スケジュール**—選択したサーバーグループのサーバー設定をエクスポートするためのスケジュールを提供します。
 - ・ **行わない**—スケジュールされた時間中に一度だけサーバプロファイルをエクスポートする場合に選択します。
 - ・ **1週間に1回**—1週間に1回サーバプロファイルをエクスポートする場合に選択します。
 - ・ **2週間に1回**—2週間に1回サーバプロファイルをエクスポートする場合に選択します。
 - ・ **4週間に1回**—4週間に1回サーバプロファイルをエクスポートする場合に選択します。

サーバプロファイルのインポート

同じサーバーまたはサーバーのグループに対して以前にエクスポートされたサーバプロファイルをインポートできます。サーバプロファイルのインポートは、サーバーの設定とファームウェアをプロファイルに保存されている状態に復元する場合に便利です。

サーバプロファイルは次の2つの方法でインポートできます。

- ・ サーバプロファイルのクイックインポート：そのサーバーに対してエクスポートされた最新のサーバプロファイルを自動的にインポートできます。この操作では、サーバーごとに個別のサーバプロファイルを選択する必要はありません。
- ・ サーバプロファイルのカスタムインポート：個別に選択された各サーバーのサーバプロファイルをインポートできます。たとえば、サーバプロファイルのエクスポートがスケジュールされていて、サーバプロファイルが毎日エクスポートされる場合、この機能により、そのサーバーの保護ボルト内の使用可能なサーバプロファイルのリストから、インポートされる特定のサーバプロファイルを選択できます。

サーバプロファイルのインポートのメモ：

- ・ サーバプロファイルは、そのサーバのエクスポートされたサーバプロファイルのリストからのみインポートできます。異なるサーバまたはサーバグループに同じサーバプロファイルをインポートすることはできません。別のサーバまたはサーバグループのサーバプロファイルをインポートしようとすると、サーバプロファイルのインポートジョブが失敗します。
 - ・ 特定のサーバまたはサーバグループのサーバプロファイルイメージが使用できない場合、その特定のサーバまたはサーバグループに対してサーバプロファイルのインポートジョブが試行されると、それを実行する、サーバプロファイルを持たないそれらの特定のサーバに対してサーバプロファイルのインポートジョブは失敗します。障害の詳細を含むログメッセージがアクティビティログに追加されます。
 - ・ サーバプロファイルをエクスポートした後で、サーバからコンポーネントが削除され、プロファイルのインポートジョブが開始されると、不足しているコンポーネント情報がスキップされる以外は、すべてのコンポーネント情報が復元されます。この情報は、OMIMSSC のアクティビティログでは表示されません。不足しているコンポーネントの詳細については、iDRAC の「ライフサイクルログ」を参照してください。
 - ・ フィルタを適用した後は、サーバプロファイルをインポートできません。サーバプロファイルをインポートするには、適用されているすべてのフィルタをクリアします。
 - ・ サーバプロファイルをインポートするには、iDRAC Enterprise ライセンスが必要です。
1. OMIMSSC の [メンテナンス センター] で、プロファイルをインポートするサーバを選択し、[デバイス プロファイル] ドロップダウン メニューから [インポート] をクリックします。
サーバプロファイルのインポート ページが表示されます。
 2. 詳細を入力し、必要な サーバプロファイルのインポートタイプを選択します。

① メモ: サーバプロファイルは、既存の RAID 設定とともにエクスポートされます。ただし、サーバまたはサーバグループの RAID 設定を含む、または除外するサーバプロファイルをインポートできます。データの保存 はデフォルトで選択されており、サーバ内の既存の RAID 設定が保持されます。サーバプロファイルに保存されている RAID 設定を適用する場合は、このチェックボックスをオフにします。
 3. サーバプロファイルをインポートするには、**終了** をクリックします。

交換したコンポーネントに対するファームウェアおよび構成設定の適用

部品交換の自動アップデート機能によって、交換したサーバコンポーネントは必要なファームウェアバージョンか以前のコンポーネントの設定、またはその両方にアップデートされます。コンポーネントを交換した後でサーバを再起動すると、アップデートが自動的に実行されます。

部品交換用の構成を設定するには、次の手順を実行します。

1. OMIMSSC で、メンテナンスセンター をクリックし、サーバまたはサーバのグループを選択してから、**部品交換** をクリックします。

① メモ: 部品交換 にポインタを合わせると、オプション名が **部品交換設定** に展開されます。
- 部品交換設定 ウィンドウが表示されます。
2. **CSIOR**、**部品ファームウェアアップデート**、**部品設定のアップデート** を次のいずれかのオプションに設定し、**終了** をクリックします。
 - ・ Collect System Inventory On Restart (CSIOR) - 再起動時にすべてのコンポーネントを収集します。
 - ・ **有効** - サーバコンポーネントのソフトウェアおよびハードウェアインベントリの情報はシステムの再起動時に自動的に更新されます。
 - ・ **無効** - サーバコンポーネントのソフトウェアおよびハードウェアインベントリの情報は更新されません。
 - ・ **サーバの値を変更しない** - 既存のサーバ設定が保持されます。
 - ・ 部品ファームウェアアップデート - 選択に基づいて、コンポーネントのファームウェアバージョンを復元、アップグレード、またはダウングレードします。
 - ・ **無効** - 部品ファームウェアアップデートの機能は無効にされ、交換したコンポーネントに同じ設定が適用されます。
 - ・ **バージョンのアップグレードのみを許可** - 新しいコンポーネントのファームウェアバージョンが既存のバージョンよりも古い場合に、アップグレードされたファームウェアのバージョンが交換したコンポーネントに適用されます。
 - ・ **交換部品のファームウェアを一致させる** - 新しいコンポーネントのファームウェアバージョンを元のコンポーネントのファームウェアバージョンに一致させます。
 - ・ **サーバの値を変更しない** - コンポーネントの既存の設定が保持されます。
 - ・ 部品設定のアップデート - 選択に基づいて、コンポーネントの設定を復元またはアップグレードします。
 - ・ **無効** - 部品設定のアップデートの機能は無効にされ、古いコンポーネントの保存された設定は交換したコンポーネントに適用されません。

- ・ 常に適用 - 部品設定のアップデートの機能が有効にされ、古いコンポーネントの保存された設定は交換したコンポーネントに適用されます。
- ・ ファームウェアが一致する場合にのみ適用 - 古いコンポーネントの保存された設定は、ファームウェアバージョンが一致している場合にのみ、交換したコンポーネントに適用されます。
- ・ サーバの値を変更しない - 既存の設定が保持されます。

サーバの LC ログの収集

LC ログは、管理対象サーバの過去のアクティビティの記録を提供します。これらのログファイルは、推奨処置に関する詳細情報およびトラブルシューティングの際に役立つテクニカル情報を提供するため、サーバ管理者には有益です。

LC ログからさまざまなタイプの情報を入手できます。たとえば、アラート関連、システムのハードウェアコンポーネントの設定変更、アップデートまたはダウングレードによるファームウェアの変更、交換済み部品、温度警告、アクティビティ開始時の詳細なタイムスタンプ、アクティビティの重大度などがあります。

エクスポートされた LC ログファイルはフォルダに保存され、そのフォルダにはサーバのサービスタグを使用して名前が付けられます。LC ログは、<YYYYMMDDHHMMSSSS>.<file format> の形式で保存されます。たとえば、201607201030010597.xml.gz は LC ファイル名で、このファイル名には作成された日付と時刻が含まれています。

LC ログを収集するための 2 つのオプションがあります：

- ・ LC 完了ログ - アクティブ LC ログファイルとアーカイブされた LC ログファイルをエクスポートします。サイズが大きいため、.gz フォーマットに圧縮されて、CIFS ネットワーク共有上の指定された場所にエクスポートされます。
- ・ アクティブ LC ログ - 最近の LC ログファイルをただちにエクスポートするか、ジョブをスケジュールして定期的にログファイルをエクスポートします。これらのログファイルを表示、検索、および OMIMSSC アプライアンスにエクスポートします。さらに、ログファイルのバックアップをネットワーク共有に保存することもできます。

LC ログを収集するには、次の手順を実行します。

1. OMIMSSC で、[メンテナンス センター] をクリックします。サーバーまたはサーバーのグループを選択し、[LC ログ] ドロップダウンメニューをクリックして、[LC ログの収集] をクリックします。
2. **LC ログの収集** で次のいずれを選択し、**終了** をクリックします。

- ・ **LC 完了ログのエクスポート (.gz)** - Windows の資格情報を提供することにより、LC 完了ログが CIFS ネットワーク共有にエクスポートされます。
- ・ **アクティブログのエクスポート (今すぐ実行)** - アクティブログがすぐに OMIMSSC アプライアンスにエクスポートされます。

- ・ (オプション) **LC ログをネットワーク共有にバックアップ** チェックボックスを選択すると、Windows の資格情報を提供することにより、LC ログのバックアップが CIFS ネットワーク共有上に保存されます。

 **メモ:** 第 11 世代サーバ用のアクティブ LC ログをエクスポートする前に、iDRAC および LC のファームウェアバージョンをアップデートするようにしてください。

- ・ **LC ログ収集のスケジュール** - アクティブログが定期的にエクスポートされます。

LC ログ収集のスケジュール で、ログファイルをエクスポートする日時を選択します。

ファイルをエクスポートする頻度に応じて、ラジオボタンを選択します。LC ログの収集を行う頻度を決定するために使用できる頻度のスケジュールのオプションは次のとおりです：

- ・ **行わない** - このオプションはデフォルトで選択されています。スケジュールされた時間に一度だけ LC ログをエクスポートする場合に選択します。
- ・ **日次** - 毎日スケジュールされた時間に LC ログをエクスポートする場合に選択します。
- ・ **週に 1 回** - 週に 1 回スケジュールされた時間に LC ログをエクスポートする場合に選択します。
- ・ **4 週間に 1 回** - 4 週間に 1 回スケジュールされた時間に LC ログをエクスポートする場合に選択します。
- ・ (オプション) **LC ログをネットワーク共有にバックアップ** チェックボックスを選択すると、Windows の資格情報を提供することにより、LC ログのバックアップが CIFS ネットワーク共有上に保存されます。

 **メモ:** エクスポートされるファイルのサイズが大きいため、十分なストレージ容量を持つ共有フォルダを指定してください。

このジョブを追跡するには、デフォルトで **ジョブリストへ移動** オプションが選択されています。

LC ログの表示

すべてのアクティブな LC ログの表示、詳細な説明の検索、および CSV 形式でのログのダウンロードができます。

『System Center Configuration Manager および System Center Virtual Machine Manager 用 Microsoft System Center 向け Dell EMC OpenManage Integration バージョン 7.1 インストールガイド』の「ブラウザ設定」セクションで説明されているように、OMIMSSC アプライアンスをローカルイントラネットサイトリストに追加します。

1. OMIMSSC で、[**メンテナンス センター**] をクリックします。サーバーまたはサーバーのグループを選択し、[**LC ログ**] ドロップダウンメニューをクリックして、[**LC ログの表示**] をクリックします。
2. 選択したグループのすべてのサーバー、および LC ログが収集されるサーバーが、それらの LC ログファイルと一緒にリストされます。ファイル名をクリックすると、そのサーバに固有の LC ログファイルのすべてのログエントリが表示されます。詳細については、「[ファイルの説明](#)」を参照してください。
3. (オプション) すべてのログファイルから説明を検索したり、CSV 形式でファイルをエクスポートするには、検索ボックスを使用します。

LC ファイル内のメッセージの説明を検索するための 2 つの方法があります。

- ・ ファイル名をクリックして LC ログファイルを開き、検索ボックスで説明を検索します。
- ・ 検索ボックスに説明文を入力すると、その説明文を持つインスタンスが含まれるすべての LC ファイルが表示されます。

メモ: LC ログメッセージの説明が長い場合、メッセージは 80 文字に切り捨てられます。

メモ: LC ログメッセージで表示される時間は、iDRAC のタイムゾーンに従います。

ファイルの説明

このページを使用して、推奨されるアクションに関する詳細情報や、特定のサーバのトラッキングやアラートの目的に役立つさまざまな技術情報を表示します。

ファイルの内容を表示するには、ファイル名をクリックします。

- ・ 特定のメッセージの説明を検索できます。
- ・ ウィンドウにログファイルを表示したり、ファイルをダウンロードして追加のログメッセージを表示したりできます。
- ・ アクティビティに関してユーザーから提供されたコメントを表示できます。

メモ: 検索オプションを使用すると、検索結果のみが CSV ファイルにエクスポートされます。

メモ: メッセージが長い場合、メッセージは 80 文字に切り捨てられます。

メモ: メッセージ ID をクリックすると、メッセージに関する詳細情報が表示されます。

インベントリのエクスポート

選択したサーバまたはサーバのグループのインベントリを XML または CSV 形式のファイルにエクスポートします。この情報は、Windows 共有ディレクトリまたは管理システムに保存できます。このインベントリ情報を使用して、アップデートソースに参照インベントリファイルを作成します。

『System Center Configuration Manager および System Center Virtual Machine Manager 用 Microsoft System Center 向け Dell EMC OpenManage Integration バージョン 7.1 インストールガイド』の「ブラウザ設定」セクションで説明されているように、ブラウザが設定されていることを確認します。

メモ: XML ファイルを DRM にインポートし、インベントリファイルに基づいてリポジトリを作成できます。

メモ: サーバのコンポーネント情報のみを選択してエクスポートしても、サーバの完全なインベントリ情報がエクスポートされます。

1. **OMIMSSC** で、**メンテナンスセンター** をクリックします。
2. インベントリをエクスポートしたいサーバを選択し、**インベントリのエクスポート** ドロップダウンメニューから形式を選択します。

ファイルは、選択に基づいて CSV または XML 形式でエクスポートされます。このファイルは、サーバグループ、サーバのサービスタグ、ホスト名または IP アドレス、デバイスモデル、コンポーネント名、そのコンポーネントの現在のファームウェアバージョン、アップデートソースのファームウェアバージョン、そのコンポーネントに対するアップデートアクションなどの詳細で構成されます。

スケジュール済みジョブのキャンセル

ジョブが **スケジュール済み** 状態であることを確認します。

1. OMIMSSC で、次のいずれかを実行します。
 - ・ ナビゲーションペインで、**メンテナンスセンター** をクリックし、**ジョブの管理** をクリックします。
 - ・ ナビゲーションペインで、**ジョブとログセンター** をクリックし、**スケジュール** をクリックします。
2. キャンセルするジョブを選択し、**キャンセル** をクリックし、確定するには **はい** をクリックします。

設定と導入

検出

1. OMIMSSC コンソールで、次のいずれかの手順を実行します。
 - ・ ダッシュボードで、**サーバを検出** をクリックします。
 - ・ ナビゲーション ペインで、**設定と導入** をクリックし、**サーバビュー** をクリックして、**検出** をクリックします。
2. **検出** をクリックします。

変更内容を表示するには、**資格情報プロファイル** ページを更新します。

トピック：

- ・ [使用例](#)
- ・ [運用テンプレートの作成](#)
- ・ [インストーラフォルダ](#)
- ・ [運用テンプレートの割り当て](#)
- ・ [運用テンプレートの導入](#)
- ・ [SCCM 用の OMIMSSC コンソール拡張機能用の Windows OS コンポーネント](#)
- ・ [SCVMM 用の OMIMSSC コンソール拡張機能用の Windows コンポーネント](#)
- ・ [SCCM/SCVMM 用の OMIMSSC コンソール拡張機能用の Windows 以外のコンポーネント](#)
- ・ [登録した MSSC での検出](#)
- ・ [サーバープロファイルのインポート](#)
- ・ [サーバープロファイルのエクスポート](#)
- ・ [LC ログの表示](#)
- ・ [LC ログの収集](#)
- ・ [部品交換](#)
- ・ [ポーリングと通知](#)
- ・ [iDRAC の起動](#)
- ・ [入力出力モジュールの起動](#)
- ・ [同期化エラーの解決](#)
- ・ [OMIMSSC と登録済みの Microsoft コンソールとの同期](#)

使用例

1. **検出** ページを使用して、参照サーバを検出します。詳細については、「[手動検出を使用したサーバの検出](#)」を参照してください。
2. 検出されたサーバの詳細をすべてキャプチャして、Operational Template (運用テンプレート) を作成します。詳細については、「[参照サーバからの運用テンプレートの作成](#)」を参照してください。
3. 管理対象デバイスに Operational Template (運用テンプレート) を割り当て、テンプレートのコンプライアンスを確認します。詳細については、「[運用テンプレートの割り当ておよび運用テンプレートのコンプライアンスの実行](#)」を参照してください。
4. Operational Template (運用テンプレート) を展開して、デバイステンプレートを準拠させます。詳細については、「[運用テンプレートの導入](#)」を参照してください。
5. **ジョブとログセンター** ページで、オペレーティングシステムの導入のジョブステータスを表示します。詳細については、「[ジョブとログセンターの起動](#)」を参照してください。

運用テンプレートの作成

Operational Template (運用テンプレート) を作成する前に、次のタスクが完了していることを確認します。

- ・ **検出** 機能を使用して、参照サーバを検出します。サーバの検出の詳細については、「[手動検出を使用したサーバの検出](#)」を参照してください。
- ・ **検出** 機能を使用して、モジュラーシステムを検出します。モジュラーシステムの検出の詳細については、「[手動検出を使用したモジュラーシステムの検出](#)」を参照してください。

- ・ デフォルトのアップデートソースを使用していない場合は、アップデートソースを作成します。詳細については、「[アップデートソースの作成](#)」を参照してください。
- ・ SCCM ユーザーの場合：
 - ・ タスクシーケンスを作成します。詳細については、「[タスクシーケンスの作成](#)」を参照してください。
 - ・ Windows 以外のオペレーティングシステムを導入する場合は、デバイスタイプ資格情報プロファイルを用意します。詳細については、「[資格情報プロファイルの作成](#)」を参照してください。
- ・ SCVMM ユーザーの場合：
 - ・ ハイパーバイザープロファイルを作成します。ハイパーバイザープロファイルの作成の詳細については、「[ハイパーバイザープロファイルの作成](#)」を参照してください。
 - ・ Windows 導入の場合は、デバイスタイプ資格情報プロファイルを用意します。詳細については、「[資格情報プロファイルの作成](#)」を参照してください。

1. OMIMSSC で、次のいずれかの操作を実行して Operational Template (運用テンプレート) を開きます。
 - ・ OMIMSSC ダッシュボードで、**運用テンプレートの作成** をクリックします。
 - ・ ナビゲーション ペインで、**プロファイル運用テンプレート** を順にクリックして、**作成** をクリックします。

運用テンプレート ウィザードが表示されます。

2. **作成** をクリックします。
運用テンプレート ウィザードが表示されます。
3. テンプレートの名前と説明を入力します。
4. デバイスのタイプを選択し、参照デバイスの IP アドレスを入力して、**次へ** をクリックします。

メモ: iDRAC 2.0 以降の参照サーバの構成をキャプチャできます。

5. デバイスコンポーネント で、コンポーネントをクリックすると、使用可能な属性とその値が表示されます。
コンポーネントは次のとおりです。

- ・ ファームウェアアップデート
- ・ RAID、NIC、および BIOS などのハードウェアコンポーネント。

メモ: iDRAC Embedded 1 コンポーネントでは、ユーザー管理者権限 属性の権限と値は次のとおりです。

表 5. 権限値テーブル

値	権限
1	ログイン
2	設定
4	ユーザーの設定
8	ログ
16	システム制御
32	仮想コンソールへのアクセス
64	仮想メディアへのアクセス
128	システム操作
256	デバッグ
499	オペレータ権限

- ・ オペレーティングシステム—Windows、ESXi、または RHEL のいずれかを選択します。
6. 水平スクロールバーを使用してコンポーネントを探します。コンポーネントを選択し、グループを展開して、その属性値を編集します。垂直スクロールバーを使用して、コンポーネントのグループと属性を編集します。
 7. Operational Template (運用テンプレート) が適用されると、選択したコンポーネントの設定が管理対象デバイスに適用されるため、各コンポーネントに対してチェックボックスをオンにします。ただし、参照デバイスのすべての設定がキャプチャされ、テンプレートに保存されます。

メモ: チェックボックスで各コンポーネントに対して行った選択に関係なく、すべての設定がテンプレートに取り込まれます。

オペレーティングシステム コンポーネントで、要件に応じて次のいずれかのオプションの手順を実行します。

- ・ SCCM への Windows オペレーティングシステムの導入については、「[SCCM 用の OMIMSSC コンソール拡張機能用の Windows コンポーネント](#)」を参照してください。
- ・ SCVMM での Windows オペレーティングシステムの導入については、「[SCVMM 用の OMIMSSC コンソール拡張機能用の Windows コンポーネント](#)」を参照してください。
- ・ OMIMSSC
- ・ Windows 以外のオペレーティングシステムの導入については、「[OMIMSSC コンソール拡張機能用の Windows 以外のコンポーネント](#)」を参照してください。

8. プロファイルを保存するには、**終了** をクリックします。

インストラフォルダ

コンソール拡張機能をインストールすると、次のフォルダが作成されます。

- ・ ログ—このフォルダは、コンソール関連のログ情報で構成されます。

① **メモ:** ドメイン管理者アカウントとローカル管理者アカウントの資格情報が異なる場合は、**SCCM** または **SCVMM** へのログインにドメイン管理者アカウントを使用しないでください。代わりに、別のドメインユーザーアカウントを使用して **SCCM** または **SCVMM** にログインします。

運用テンプレートの割り当て

1. OMIMSSC で、[**設定と導入**] をクリックし、[**サーバー ビュー**] をクリックします。必要なサーバを選択して、**運用テンプレートの割り当てとコンプライアンスの実行** をクリックします。

[**Operational Template (運用テンプレート) の割り当てとコンプライアンスの実行**] ページが表示されます。

2. 必要なサーバを選択して、**運用テンプレートの割り当てとコンプライアンスの実行** をクリックします。

3. OMIMSSC で、**設定と導入** をクリックし、**モジュラーシステムビュー** をクリックします。必要なモジュラーシステムを選択し、**運用テンプレートの割り当て** をクリックします。

[**Operational Template (運用テンプレート) の割り当て**] ページが表示されます。

4. 必要なモジュラーシステムを選択し、**運用テンプレートの割り当てとコンプライアンスの実行** をクリックします。

[**Operational Template (運用テンプレート) の割り当て**] ページが表示されます。

5. **Operational Template (運用テンプレート)** ドロップダウンメニューからテンプレートを選択し、ジョブ名を入力してから、**割り当て** をクリックします。

Operational Template (運用テンプレート) ドロップダウンリストには、前のステップで選択したデバイスと同じタイプのテンプレートが表示されます。

デバイスがテンプレートに準拠している場合は、チェックマークが付いた **緑色** のボックスが表示されます。

Operational Template (運用テンプレート) がデバイスに正常に適用されていない場合、または Operational Template (運用テンプレート) のハードウェアコンポーネントが選択されていない場合は、**情報** シンボルボックスが表示されます。

デバイスがテンプレートに準拠していない場合は、**警告** シンボルボックスが表示されます。割り当てられた Operational Template (運用テンプレート) にデバイスが準拠していない場合に限り、テンプレート名のリンクをクリックすることでサマリーレポートを表示できます。[**Operational Template (運用テンプレート) コンプライアンス サマリー レポート**] ページには、テンプレートとデバイスの相違点のサマリーレポートが表示されます。

詳細レポートを表示するには、次の手順を実行します。

a. **詳細なコンプライアンスの表示** をクリックします。ここでは、割り当てられたテンプレートとは異なる属性値を持つコンポーネントが表示されます。Operational Template (運用テンプレート) コンプライアンスのさまざまな状態が色別で表示されます。

- ・ 黄色の警告シンボル—準拠していません。デバイスの設定がテンプレートの値と一致しないことを表します。
- ・ 赤色のボックス—コンポーネントがデバイスに存在しないことを示します。

運用テンプレートの導入

① **メモ:** Operational Template (運用テンプレート) の導入後に、資格情報を変更する属性を有効にしてデバイスにログインしないようにしてください。

1. OMIMSSC で、[**設定と導入**] をクリックし、[**サーバー ビュー**] をクリックします。テンプレートを適用したサーバを選択し、**Operational Template (運用テンプレート) の導入** をクリックします。
Operational Template (運用テンプレート) の導入 ページが表示されます。

2. OMIMSSC で、**設定と導入** をクリックし、**モジュラーシステムビュー** をクリックします。テンプレートを割り当てたモジュラーシステムを選択し、**Operational Template (運用テンプレート)** の**導入** をクリックします。

Operational Template (運用テンプレート) の**導入** ページが表示されます。

3. (オプション) 選択したテンプレートでプール値としてマークされているすべての属性を .CSV ファイルにエクスポートするには、**プール属性のエクスポート** をクリックします。エクスポートしない場合は、ステップ 4 に進みます。

メモ: プールの値をエクスポートする前に、OMIMSSC コンソール拡張機能がインストールされている OMIMSSC の IP アドレスをローカルイントラネットサイトに追加します。IE ブラウザで IP アドレスを追加する方法の詳細については、『*System Center Configuration Manager および System Center Virtual Machine Manager 用 Microsoft System Center 向け Dell EMC OpenManage Integration パージョン 7.1 インストールガイド*』の「**ブラウザ設定**」を参照してください。

4. プール値をエクスポートした場合は、プール値としてマークされているすべての属性の値を .CSV ファイルに入力し、ファイルを保存します。**属性値プール**で、ファイルを選択してインポートします。

.CSV ファイルの形式は、attribute-value-pool.csv です。

メモ: iDRAC IP または iDRAC の資格情報が変更された後でジョブが OMIMSSC によって追跡されず、iDRAC でジョブが成功しても失敗とマークされる可能性があるため、すべて適切な属性を持つ .CSV ファイルを選択し、iDRAC IP または iDRAC の資格情報がテンプレートによって変更されないことを確認します。

5. 一意のジョブ名、ジョブの説明を入力し、**導入** をクリックします。

このジョブを追跡するには、デフォルトで **ジョブリストへ移動** オプションが選択されています。

SCCM 用の OMIMSSC コンソール拡張機能用の Windows OS コンポーネント

1. タスクシーケンスと導入方法を選択します。

メモ: ドロップダウンメニューには、コレクションに導入されているタスクシーケンスだけが表示されます。

タスクシーケンスについての詳細は、「**タスクシーケンス**」を参照してください。

2. **導入方法** について、以下のいずれかのオプションを選択します。

- ・ **ネットワーク ISO で起動**—指定された ISO を再起動します。
- ・ **ISO を vFlash にステージングして再起動**—ISO を vFlash にダウンロードして再起動します。
- ・ **vFlash で再起動**—vFlash で再起動します。ISO が vFlash にあることを確認します。

メモ: vFlash で再起動 オプションを使用するには、vFlash 上で作成されたパーティションのラベル名が ISOIMG である必要があります。

3. (オプション) ネットワーク共有にあるイメージを使用するには、**フォールバックとしてネットワーク ISO を使用** オプションを選択します。
4. LC ブートメディアイメージファイルを入力します。
5. オペレーティングシステムに必要なドライバを選択します。

SCVMM 用の OMIMSSC コンソール拡張機能用の Windows コンポーネント

ハイパーバイザプロファイル、資格情報プロファイル、および サーバ IP 取得先 の順に選択します。

メモ: ホスト名、および サーバ管理 NIC は常にプール値です。サーバ管理 NIC の場合は、オペレーティングシステムが SCVMM と通信するために使用するネットワーク ポートの MAC アドレスを指定します。

サーバ IP 取得先 を **静的** として選択し、SCVMM で論理ネットワークを構成したことを確認すると、次のフィールドがプール値になります。

- ・ コンソール論理ネットワーク
- ・ IP サブネット
- ・ 静的 IP アドレス

SCCM/SCVMM 用の OMIMSSC コンソール拡張機能用の Windows 以外のコンポーネント

Windows 以外のオペレーティングシステム、オペレーティングシステムのバージョン、共有フォルダのタイプ、ISO ファイル名、ISO ファイルの場所、オペレーティングシステムのルートアカウントのパスワードを選択します。

(オプション) CIFS 共有にアクセスするための Windows タイプの資格情報プロファイルを選択します。

ホスト名はプール値であり、DHCP オプションを無効にすると、次のフィールドはプール値になります。

- ・ IP アドレス
- ・ サブネットマスク
- ・ デフォルトゲートウェイ
- ・ プライマリ DNS
- ・ セカンダリ DNS

❶ **メモ:** Windows 以外のオペレーティングシステムの導入では、ネットワークファイルシステム(NFS)および Common Internet File System (CIFS) 共有タイプがサポートされます。

登録した MSSC での検出

検出後、サーバーは [ホスト] タブまたは [未割り当て] タブに追加されます。また、OMIMSSC と連携するために必要な最低限のバージョンの LC ファームウェア、iDRAC、および BIOS が搭載されている場合、そのホストサーバは準拠になります。

- ・ オペレーティングシステムがインストールされている PowerEdge サーバを検出し、SCCM または SCVMM コンソールにすでに存在している場合、そのサーバは、検出ジョブが開始されている OMIMSSC コンソールの **ホスト** タブの下にホストサーバとしてリストされます。
 - ・ ホストがモジュラーサーバの場合、サーバを含むモジュラーシステムのサービスタグも表示されます。
 - ・ ホストがクラスタの一部である場合は、クラスタの完全修飾ドメイン名 (FQDN) が表示されます。
- ・ SCCM または SCVMM にリストされていない PowerEdge サーバを検出すると、そのサーバは登録されているすべての OMIMSSC コンソールの [未割り当て] タブに未割り当てサーバとして一覧表示されます。
- ・ ライセンスは、サーバの検出後に使用されます。ライセンスされたノード数は、ライセンスが検出されると減少します。

サーバープロファイルのインポート

1. OMIMSSC の [メンテナンス センター] で、プロファイルをインポートするサーバーを選択し、[デバイス プロファイル] ドロップダウン メニューから [インポート] をクリックします。
サーバープロファイルのインポート ページが表示されます。
2. プロファイルをインポートするサーバーを選択し、[デバイス プロファイル] ドロップダウン メニューから [インポート] をクリックします。
サーバープロファイルのインポート ページが表示されます。

サーバープロファイルのエクスポート

1. OMIMSSC で、[メンテナンス センター] をクリックします。プロファイルをエクスポートするサーバーを選択し、[デバイス プロファイル] ドロップダウン メニューから [エクスポート] をクリックします。
サーバプロファイルのエクスポート ページが表示されます。
2. プロファイルをエクスポートするサーバーを選択し、[デバイス プロファイル] ドロップダウン メニューから [エクスポート] をクリックします。
サーバプロファイルのエクスポート ページが表示されます。

LC ログの表示

1. OMIMSSC で、[メンテナンス センター] をクリックします。サーバーまたはサーバーのグループを選択し、[LC ログ] ドロップダウン メニューをクリックして、[LC ログの表示] をクリックします。
2. ログを表示するサーバーを選択し、[LC ログ] ドロップダウン メニューをクリックしてから、[LC ログの表示] をクリックします。

LC ログの収集

1. OMIMSSC で、[**メンテナンス センター**] をクリックします。サーバーまたはサーバーのグループを選択し、[**LC ログ**] ドロップダウン メニューをクリックして、[**LC ログの収集**] をクリックします。
2. ログをエクスポートするサーバーを選択し、[**LC ログ**] ドロップダウン メニューをクリックしてから、[**LC ログの表示**] をクリックします。

部品交換

1. OMIMSSC で、**メンテナンスセンター** をクリックし、サーバまたはサーバのグループを選択してから、**部品交換** をクリックします。

① | メモ: 部品交換 にポインタを合わせると、オプション名が **部品交換設定** に展開されます。

部品交換設定 ウィンドウが表示されます。

2. 構成するコンポーネントを持つサーバを選択し、**部品交換** をクリックします。

① | メモ: 部品交換 にポインタを合わせると、オプション名が **部品交換設定** に展開されます。

部品交換設定 ウィンドウが表示されます。

ポーリングと通知

1. OMIMSSC で、**メンテナンスセンター** をクリックし、**ポーリングと通知** をクリックします。
2. **ポーリングと通知** をクリックします。

iDRAC の起動

1. OMIMSSC で、**設定と導入** を展開し、以下のいずれかを選択します。
 - ・ **サーバビュー** をクリックします。サーバ (ホストまたは未割り当てサーバの場合) に基づいて、**未割り当てサーバ** または **ホスト** タブをクリックし、サーバの **iDRAC IP** アドレスをクリックします。
デフォルトでは **未割り当てサーバ** タブが表示されます。
ホスト タブを表示するには、**ホスト** をクリックします。
 - ・ **クラスタビュー** をクリックします。クラスタタイプを展開し、クラスタグループをサーバレベルに展開します。
サーバ タブが表示されます。
2. iDRAC コンソールを起動するには、**IP アドレス** をクリックします。
3. iDRAC コンソールを起動するには、**IP アドレス** をクリックします。

入力出力モジュールの起動

入力出力モジュール コンソールを起動するには、次の手順に従います。

1. OMIMSSC で、**設定と導入** を展開し、**モジュラーシステムビュー** をクリックします。モデルを個々のデバイスレベルに展開します。
そのモデルの下にあるすべてのデバイスが表示されます。
2. **I/O モジュール** タブをクリックします。
3. デバイスの **IP アドレス** をクリックします。

同期化エラーの解決

1. OMIMSSC で、**設定と導入** をクリックし、**サーバビュー** をクリックしてから、**同期エラーの解決** をクリックします。
2. **同期エラーの解決** をクリックします。

OMIMSSC と登録済みの Microsoft コンソールとの同期

1. OMIMSSC で、**設定と導入** をクリックし、**サーバビュー** をクリックして、**OMIMSSC との同期** をクリックし、登録した MSSC にリストされているすべてのホストを OMIMSSC アプライアンスと同期します。
2. 登録した MSSC に表示されているすべてのホストをアプライアンスと同期するには、**OMIMSSC と同期** をクリックします。同期の実行タスクは長時間かかります。ジョブおよびログ ページでジョブステータスを表示します。

割り当ておよび導入

OMIMSSC で、[**設定と導入**] をクリックし、[**サーバー ビュー**] をクリックします。テンプレートを導入するサーバを選択し、**Operational Template (運用テンプレート) の導入** をクリックします。**Operational Template (運用テンプレート) の導入** ページが表示されます。

アップデートの実行

1. OMIMSSC で、**メンテナンスセンター** をクリックし、サーバまたはモジュラーシステムグループとアップデートソースを選択してから、**アップデートの実行** をクリックします。
2. サーバまたはモジュラーシステムグループとアップデートソースを選択し、**アップデートの実行** をクリックします。
3. 一意のジョブ名、ジョブの説明を入力し、**作成** をクリックします。
このジョブを追跡するには、デフォルトで **ジョブリストへ移動** オプションが選択されています。

次の表を参照して、MX7000 デバイスのタイムゾーン属性値を手動で指定します。

表 6. タイムゾーンの詳細

タイムゾーン ID	時差
TZ_ID_1	(GMT-12:00) 国際日付変更線西側
TZ_ID_2	(GMT+14:00) サモア
TZ_ID_3	(GMT-10:00) ハワイ
TZ_ID_4	(GMT-09:00) アラスカ
TZ_ID_5	(GMT-08:00) 太平洋標準時 (米国およびカナダ)
TZ_ID_6	(GMT-08:00) バハカリフォルニア
TZ_ID_7	(GMT-07:00) アリゾナ
TZ_ID_8	(GMT-07:00) チワワ、ラパス、マサトラン
TZ_ID_9	(GMT-07:00) 山岳部時間 (米国およびカナダ)
TZ_ID_10	(GMT-06:00) 中央アメリカ
TZ_ID_11	(GMT-06:00) 中部時間 (米国およびカナダ)
TZ_ID_12	(GMT-06:00) グアダラハラ、メキシコシティ、モンテレー
TZ_ID_13	(GMT-06:00) サスカチュワン
TZ_ID_14	(GMT-05:00) ボゴタ、リマ、キト
TZ_ID_15	(GMT-05:00) 東部時間 (米国およびカナダ)
TZ_ID_16	(GMT-05:00) インディアナ (東部)
TZ_ID_17	(GMT-04:30) カラカス
TZ_ID_18	(GMT-04:00) アスンシオン
TZ_ID_19	(GMT-04:00) 大西洋時間 (カナダ)
TZ_ID_20	(GMT-04:00) クイアバ
TZ_ID_21	(GMT-04:00) ジョージタウン、ラパス、マナウス、サンファン
TZ_ID_22	(GMT-04:00) サンチャゴ
TZ_ID_23	(GMT-03:30) ニューファンドランド
TZ_ID_24	(GMT-03:00) ブラジリア
TZ_ID_25	(GMT-03:00) ブエノスアイレス
TZ_ID_26	(GMT-03:00) カイエンヌ、フォルタレザ
TZ_ID_27	(GMT-03:00) グリーンランド
TZ_ID_28	(GMT-03:00) モンテビデオ
TZ_ID_29	(GMT-02:00) 中部大西洋
TZ_ID_30	(GMT-01:00) アゾレス諸島
TZ_ID_31	(GMT-01:00) カーボベルデ諸島

タイムゾーン ID	時差
TZ_ID_32	(GMT+00:00) カサブランカ
TZ_ID_33	(GMT+00:00) 協定世界時
TZ_ID_34	(GMT+00:00) ダブリン、エジンバラ、リスボン、ロンドン
TZ_ID_35	(GMT+00:00) モンロビア、レイキャビク
TZ_ID_36	(GMT+01:00) アムステルダム、ベルリン、ベルン、ローマ、ストックホルム、ウィーン
TZ_ID_37	(GMT+01:00) ペオグラード、ブラチスラバ、ブダペスト、リュブリャナ、プラハ
TZ_ID_38	(GMT+01:00) ブリュッセル、コペンハーゲン、マドリッド、パリ
TZ_ID_39	(GMT+01:00) サラエボ、スコピエ、ワルシャワ、ザグレブ
TZ_ID_40	(GMT+01:00) 西部中央アフリカ
TZ_ID_41	(GMT+02:00) ピントフック
TZ_ID_42	(GMT+02:00) アンマン
TZ_ID_43	(GMT+03:00) イスタンブール
TZ_ID_44	(GMT+02:00) バイルート
TZ_ID_45	(GMT+02:00) カイロ
TZ_ID_46	(GMT+02:00) ダマスカス
TZ_ID_47	(GMT+02:00) ハラレ、プレトリア
TZ_ID_48	(GMT+02:00) ヘルシンキ、キエフ、リガ、ソフィア、タリン、ヴィリニウス
TZ_ID_49	(GMT+02:00) エルサレム
TZ_ID_50	(GMT+02:00) ミンスク
TZ_ID_51	(GMT+03:00) バグダッド
TZ_ID_52	(GMT+03:00) クウェート、リヤド
TZ_ID_53	(GMT+03:00) モスクワ、サンクトペテルブルグ、ボルゴグラード
TZ_ID_54	(GMT+03:00) ナイロビ
TZ_ID_55	(GMT+03:30) テヘラン
TZ_ID_56	(GMT+04:00) アブダビ、マスカット
TZ_ID_57	(GMT+04:00) バクー
TZ_ID_58	(GMT+04:00) ボートルUIS
TZ_ID_59	(GMT+04:00) トビリシ
TZ_ID_60	(GMT+04:00) エレヴァン
TZ_ID_61	(GMT+04:30) カブール
TZ_ID_62	(GMT+05:00) エカチェリンブルグ
TZ_ID_63	(GMT+05:00) イスラマバード、カラチ
TZ_ID_64	(GMT+05:00) タシケント
TZ_ID_65	(GMT+05:30) チェンナイ、コルカタ、ムンバイ、ニューデリー
TZ_ID_66	(GMT+05:30) スリジャヤワルダナプラコッテ

タイムゾーン ID	時差
TZ_ID_67	(GMT+05:45) カトマンズ
TZ_ID_68	(GMT+06:00) アスタナ
TZ_ID_69	(GMT+06:00) ダッカ
TZ_ID_70	(GMT+06:00) ノボシビルスク
TZ_ID_71	(GMT+06:30) ヤンゴン (ラングーン)
TZ_ID_72	(GMT+07:00) バンコク、ハノイ、ジャカルタ
TZ_ID_73	(GMT+07:00) クラスノヤルスク
TZ_ID_74	(GMT+08:00) 北京、重慶、香港、ウルムチ
TZ_ID_75	(GMT+08:00) イルクーツク
TZ_ID_76	(GMT+08:00) クアラルンプール、シンガポール
TZ_ID_77	(GMT+08:00) パース
TZ_ID_78	(GMT+08:00) 台北
TZ_ID_79	(GMT+08:00) ウランバートル
TZ_ID_80	(GMT+08:30) ピョンヤン
TZ_ID_81	(GMT+09:00) 大阪、札幌、東京
TZ_ID_82	(GMT+09:00) ソウル
TZ_ID_83	(GMT+09:00) ヤクーツク
TZ_ID_84	(GMT+09:30) アデレード
TZ_ID_85	(GMT+09:30) ダーウィン
TZ_ID_86	(GMT+10:00) ブリスベン
TZ_ID_87	(GMT+10:00) キャンベラ、メルボルン、シドニー
TZ_ID_88	(GMT+10:00) グアム、ポートモレスビー
TZ_ID_89	(GMT+10:00) ホバート
TZ_ID_90	(GMT+10:00) ウラジオストク
TZ_ID_91	(GMT+11:00) マガダン、ソロモン諸島、ニューカレドニア
TZ_ID_92	(GMT+12:00) オークランド、ウェリントン
TZ_ID_93	(GMT+12:00) フィジー
TZ_ID_94	(GMT+13:00) ヌクアロファ
TZ_ID_95	(GMT+14:00) キリティマティ
TZ_ID_96	(GMT+02:00) アテネ、ブカレスト

Dell EMC サポートサイトからのドキュメントへのアクセス

次のリンクを使用して、必要なドキュメントにアクセスします。

- ・ Dell EMC エンタープライズシステム管理のマニュアル — www.dell.com/SoftwareSecurityManuals
- ・ Dell EMC OpenManage マニュアル — www.dell.com/OpenManageManuals
- ・ Dell EMC リモートエンタープライズシステム管理のマニュアル — www.dell.com/esmmanuals
- ・ iDRAC および Dell EMC Lifecycle Controller マニュアル — www.dell.com/idracmanuals
- ・ Dell EMC OpenManage Connections エンタープライズシステム管理のマニュアル — www.dell.com/OMConnectionsEnterpriseSystemsManagement
- ・ Cluster Aware Update (CAU) を作成するための Storage Spaces Direct (S2D) カタログ情報 - <https://www.dell.com/wssdmanuals>
- ・ Dell EMC Serviceability Tools マニュアル — www.dell.com/ServiceabilityTools
- ・ 1. www.support.dell.com にアクセスします。
- ・ 2. すべての製品を参照 をクリックします。
- ・ 3. すべての製品 ページで ソフトウェア をクリックして、次の中から必要なリンクをクリックします。
 - ・ 統計
 - ・ クライアントシステム管理
 - ・ エンタープライズアプリケーション
 - ・ エンタープライズシステム管理
 - ・ 公共機関向けソリューション
 - ・ ユーティリティ
 - ・ メインフレーム
 - ・ 保守ツール
 - ・ 仮想化ソリューション
 - ・ オペレーティングシステム
 - ・ サポート
- ・ 4. マニュアルを表示するには、該当する製品をクリックして、該当するバージョンをクリックします。
- ・ 検索エンジンを使用します。
 - ・ 検索 ボックスに名前および文書のバージョンを入力します。